

平成25年度
弘前市アクションプラン
自己評価報告書

平成25年8月

弘 前 市

目 次

1. 弘前市アクションプラン2012の概要..... 1

2. 自己評価の目的..... 3

3. 自己評価の方法..... 4

4. 平成24年度の達成状況の概要..... 6

 約束1..... 12

 約束2－（1）..... 20

 約束2－（2）..... 44

 約束2－（3）..... 58

 約束3－（1）..... 70

 約束3－（2）..... 88

 約束4－（1）.....100

 約束4－（2）.....112

 約束5.....130

 約束6.....143

 約束7.....147

 ダッシュ3.....154

 合併戦略プロジェクト.....156

 用語解説.....160

1. 弘前市アクションプラン2012の概要



(1) 弘前市アクションプラン2012の策定

平成22年4月の市長選挙において、葛西憲之市長が『子ども達の笑顔あふれる弘前づくり』に向けて掲げたマニフェストを実行するため、平成22年10月に「弘前市アクションプラン2010」を策定し、市の計画として位置付けました。

社会環境の変化や多様な市民ニーズに的確に対応するために、戦略的かつ機動的に運用する実行計画として、毎年度、進行状況の評価・点検を的確に実施し、その結果を踏まえて内容を追加・修正するなど、いわば「進化・成長する」プランとすることとしています。

平成24年度からの取組内容等を改訂した「弘前市アクションプラン2012」を平成24年3月に策定しました。

(2) アクションプラン2012の構成

アクションプラン2012では、マニフェストの内容を踏まえて、次の構成により、目標や具体的な取組内容を示しています。また、基本構想に掲載されている合併戦略プロジェクトに係る工程表を併せて掲載することによって、その実効性を高めることとしています。

体系図

7つの約束

現状と課題 を踏まえた めざす姿 とその達成状況を示す 指標 を提示します。

- 約束.1 市民主権システムを実現します。
- 約束.2-(1) ひろさき農業・産業おこしに取り組みます。【農業振興】
- 約束.2-(2) ひろさき農業・産業おこしに取り組みます。【観光振興】
- 約束.2-(3) ひろさき農業・産業おこしに取り組みます。【商工業振興】
- 約束.3-(1) 魅力あるまちづくりを進めます。【生活環境】
- 約束.3-(2) 魅力あるまちづくりを進めます。【防災・環境・新エネルギー】
- 約束.4-(1) 子育てするなら弘前で、を目指します。【子育て】
- 約束.4-(2) 子育てするなら弘前で、を目指します。【人づくり】
- 約束.5 命と暮らしを守ります。
- 約束.6 津軽地域の中核都市として、近隣市町村との連携強化を図ります。
- 約束.7 市職員のパワーを引き出し、市役所の仕事力を高めます。

指標の達成に向けて 個別施策 を設け、具体的に取り組みます。

● 7つの約束を実現するための個別施策

- スマイル33プログラム ——— 重点的に進める33施策
- チャレンジ67 ——— 計画期間中にチャレンジする67施策
- 新規施策 ——— アクションプラン2012から新たに追加された施策

● ダッシュュ3 3つの緊急事業

- 中心市街地活性化のために、ジョツパル再生に協力します。
- 堀越地区全天候型スポレク施設建設の見直しをします。
- 東北新幹線新青森駅開業（全線開通）・弘前城築城400年を絶好の機会ととらえ、早急に実効性のある観光施策を行います。

● 合併戦略プロジェクト 基本構想に掲載されている11の合併戦略プロジェクト

- 一体感のあるまちづくりプロジェクト（8事業）
- 地域の均衡ある発展プロジェクト（3事業）

7つの約束を実行することで

「子ども達の笑顔あふれる弘前づくり」を実現します。

(3) アクションプランの進行管理

このアクションプランを着実に推進するために、PDCAサイクルによるマネジメントシステムを確立し、市民と協働で、着実な進行管理を行うこととしています。

P:計画(Plan)

アクションプランの策定は、庁内組織である「市政戦略会議」が中心となり、全庁的に検討を進めました。

また、アクションプランの策定と連携して、庁内各部の自主的な施策の立案・実行を図るため、各部長が、毎年度の重点項目やその取組内容を明らかにし、市長と約束する「弘前市部長実行宣言」を作成し、その内容を市民に公表しています。

D:実行(Do)

アクションプランの実行にあたっては、市民と情報を共有し、協働しながら各種の取り組みを実施しています。

C:評価(Check)

施策の取組結果について、市民評価アンケート等を基に点検・評価します。

評価の方法は、自己評価に加えて市民による第三者評価を実施し、結果を公表するなど透明性の確保に努めます。

A:改善(Act)

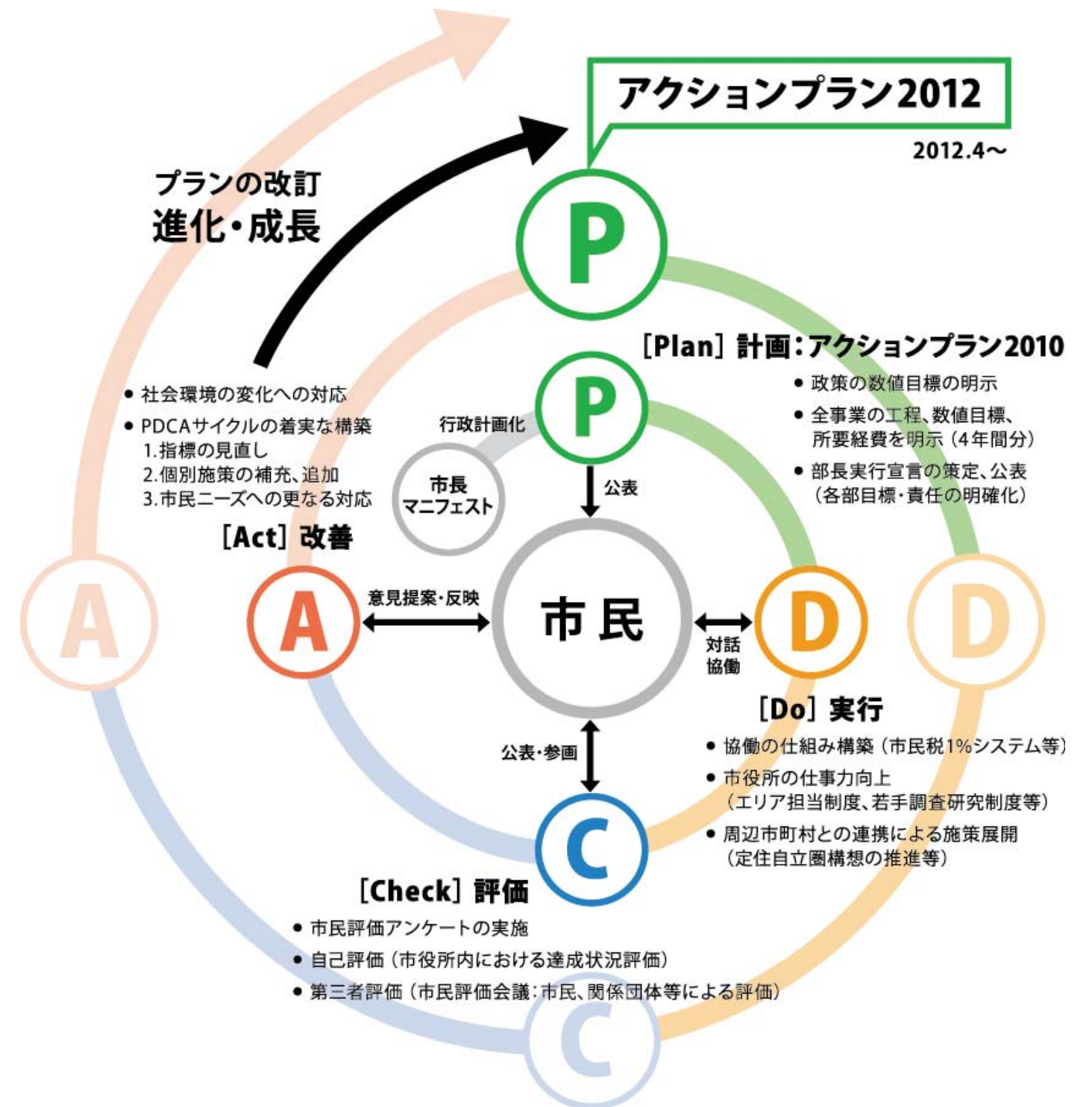
評価の結果、市民からの意見・提案、社会環境の変化等を踏まえて、新たな施策の補充・見直しを行います。

また、計画期間途中で目標を達成した場合には、より高い数値目標の再設定を検討します。

これらを踏まえ、平成25年3月には2回目の改訂を行い、「アクションプラン2013」を策定し、公表しています。

このように、アクションプランは『進化・成長する』プランとすることを目指しています。

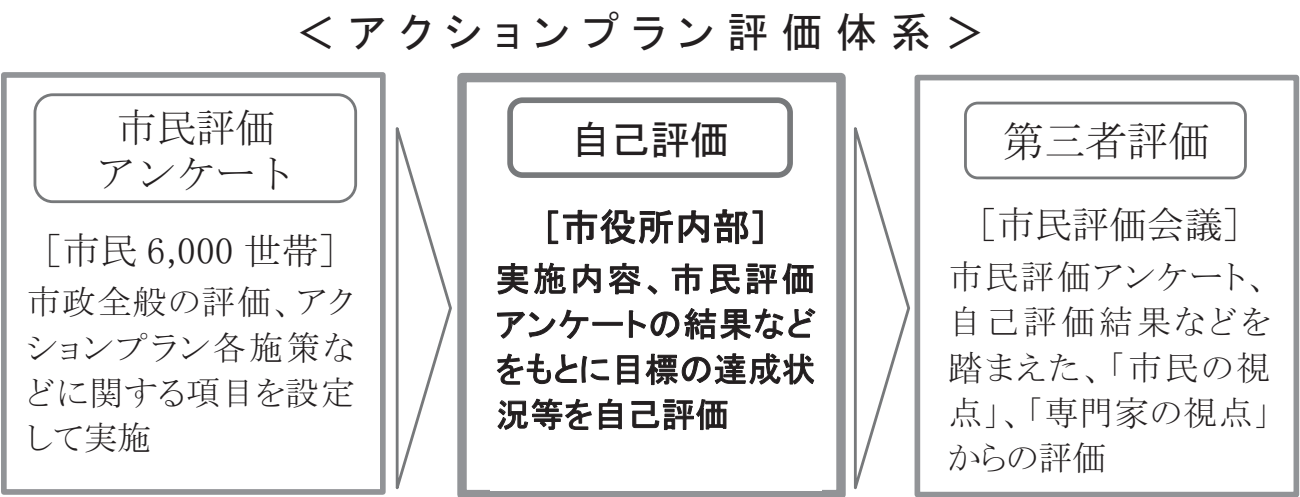
PDCAサイクルのイメージ図



2. 自己評価の目的

PDCAサイクルにおける評価（Check）作業の一つとして、市は、アクションプランに掲げた取り組みに関する達成状況を、毎年度自己評価しています。

評価の結果は、弘前市市民評価会議による第三者評価の結果と合わせ、アクションプランの改訂や施策の見直しに活用します。



3. 自己評価の方法

- (1) 評価対象
弘前市アクションプラン 2012（平成 24 年 3 月策定）に掲載した施策や事業に係る、平成 24 年度に実施した内容を評価対象とします。
- (2) 評価の手順等
アクションプランの達成状況について、市役所内において、次のとおり自己評価を実施しました。

- ①「個別施策」及び「ダッシュ 3」の評価方法
「個別施策」及び「ダッシュ 3」については、【進捗率】及び【達成率】で評価しました。

(A) 【進捗率】は、事務事業が工程表どおりに実施されたかどうかにより、次の方法で評価をしました。

- i 事務事業の評価
右表の評価区分により段階的に評価しました。

区分	進捗率(事務事業の評価)
A	工程表どおり実施済み
B	
C	遅れている
－	未着手

- ii 施策全体の評価
施策を構成する全ての事務事業の進捗率を踏まえて、施策として工程表どおりに実施されたかどうかを右表の区分により段階的に評価しました。

区分	進捗率(施策全体の評価)
A	工程表どおり実施済み
B	概ね工程表どおり実施済み
C	遅れている
－	未着手

- (B) 【達成率】は、アクションプランに設定する「目標」が達成されたかどうかにより、次の方法で評価をしました。
- ただし、組織の設置など、「目標」が設定されていない事業については、「－」としました。

i 事務事業の評価

右表の評価区分により段階的に評価しました。

ii 施策全体の評価

全ての事務事業の達成率を踏まえて、施策として「目標」が達成されたかどうかにより、段階的に評価しました。

区分	達成率(事務事業及び施策全体の評価)
A	目標を達成済み
B	概ね順調に推移
C	遅れている
－	判断できない

②「合併戦略プロジェクト」評価方法

「合併戦略プロジェクト」については、アクションプランに「工程」のみを掲げており、「目標」を設定していないことから、【進捗率】のみで評価しました。評価方法は、①「個別施策」及び「ダッシュ3」と同様としました。

③「約束」部分の評価方法

「約束」全体の評価は次の項目を踏まえて定性的な評価をしました。

- ・「めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）」の達成度。
- ・「注目指標」の達成度。

「注目指標」とは「めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）」の中で重要だと思われるものを3つ以内で設定したもの

- ・個別施策の達成状況。

4. 評価経過

時期	項 目		内 容
	[自己評価]	[第三者評価]	
平成 25 年 5 月	自己評価(各部課評価)		各部課による自己評価の実施
7 月～	自己評価(各部課評価)の 市長説明・協議		市長・副市長へ各部課から評価内容を説明し協議
	自己評価(各部再評価)		市長・副市長との協議結果を踏まえて評価内容を修正
7 月 17 日		第1回市民評価会議	・委員委嘱 ・組織会 ・評価方法に関する協議 ・約束・個別施策の評価(1分野)
8 月 9 日		第2回市民評価会議	約束・個別施策の評価(3分野)
8 月 30 日	『自己評価報告書』策定・公表		
8 月 26 日		第3回市民評価会議	約束・個別施策の評価(3分野)
9 月 30 日(予定)		第4回市民評価会議	約束・個別施策の評価(4分野)
10 月 15 日(予定)		第5回市民評価会議	評価結果の取りまとめ
11 月上旬(予定)		『第三者評価報告書』策定・公表	

5. 達成状況の概要

(1) 7つの約束

① 区分別達成状況

区分	数	割合	割合 「－」を除く
○：目標を達成済み	36	49.3%	54.5%
×：目標を達成できない	30	41.1%	45.5%
－：判断できない	7	9.6%	
計	73	100.0%	100.0%

② 約束別達成状況

約束	○ 目標達成 済み	× 目標達成 できない	－ 判断できな い
1	6	1	0
2-(1)	1	5	1
2-(2)	1	4	1
2-(3)	6	0	0
3-(1)	2	3	1
3-(2)	2	3	1
4-(1)	3	2	1
4-(2)	4	6	0
5	4	3	0
6	3	0	2
7	4	3	0
計	36	30	7

(2) 個別施策（1 1 7＋3）

① 区分別達成状況

進捗率		
数		割合 「－」を除く
A 工程表どおり実施済み	106	88.3%
B 概ね工程表どおり実施済み	8	6.7%
C 遅れている	6	5.0%
－ 未着手	0	
計	120	100.0%

達成率		
数		割合 「－」を除く
A 目標を達成済み	67	58.3%
B 概ね順調に推移	32	27.8%
C 遅れている	16	13.9%
－ 判断できない	5	
計	120	100.0%

② 約束別達成状況

約束	進捗率			達成率			
	A 工程表どおり実施済み	B 概ね工程表どおり実施済み	C 遅れている	A 目標を達成済み	B 概ね順調に推移	C 遅れている	－ 判断できない
1	7	0	1	3	2	2	1
2-(1)	13	2	0	5	7	2	1
2-(2)	13	0	0	7	4	1	1
2-(3)	11	0	1	9	1	2	0
3-(1)	14	2	3	14	4	1	0
3-(2)	7	2	0	3	4	2	0
4-(1)	8	0	0	6	1	0	1
4-(2)	13	1	1	9	2	4	0
5	10	1	0	7	2	1	1
6	2	0	0	1	1	0	0
7	5	0	0	1	3	1	0
ダッシュ 3	3	0	0	2	1	0	0
計	106	8	6	67	32	16	5

(3) 合併戦略プロジェクト

進捗率		割合
A 工程表どおり実施済み	9	81.8%
B ー		
C 遅れている	2	18.2%
計	11	100.0%

6. 総括

今回の自己評価は、初の改訂版となるアクションプラン 2012 に基づく取組結果の評価となります。

改訂によって、約束 3-(2) 防災、環境・新エネルギーの新設、『めざす姿』の達成状況を表す指標の見直し、数値目標の上方修正、個別施策の追加補充が行われるなど、評価対象である目標指標や数、目標値が変更となっています。

<めざす姿の達成状況>

『めざす姿』の達成状況を表す指標においては、「目標を達成済み」が 54.5%、「目標を達成できない」が 45.5% となっており、目標を達成できた項目の割合が前年度比 3.4% 減と伸びていない状況となっています。

これは、約束 2-(1)〔農業振興〕、約束 2-(2)〔観光振興〕において、東日本大震災により発生した原発事故に伴う風評被害による落ち込みが、影響していることが要因の一つと捉えられます。

しかしながら、この両分野においては、さまざまな戦略的取り組みの展開によって、風評被害による大きな落ち込みから**震災前の水準まで回復**してきています。

また、約束 2-(3)〔商工業振興〕では全指標において目標を達成しているほか、約束 1〔市民主権の実現〕では全 7 項目のうち 6 項目が平成 25 年度の目標値に達している状況となっています。

<個別施策>

進捗率は、「工程表どおり実施済み」と「概ね工程表どおり実施済み」を合わせた割合が 95% と、前年度とほぼ同じく、ほとんどの施策・事業において工程表に沿った取り組みが実施されています。また、達成率は、「目標を達成済み」と「概ね順調に推移」を合わせた割合が約 86% と、前年度より若干割合が高くなっており、個別施策の取り組みは全体的に**概ね順調**に進んでいると判断できます。

<全体評価>

各約束の全体評価は、『概ね順調に推移している』が 5 項目（約束 1、2-(2)、3-(1)、4-(1)、6）、『成果があらわれている（あらわれ始めている）』または『（めざす姿に）着実に近づいている』が 3 項目（約束 2-(1)、2-(3)、7）、『遅れている』が 3 項目（約束 3-(2)、4-(2)、5）となっています。また、一部の約束では『めざす姿』の実現に結びついているなど、総合的にみると、これまでの取り組みによりアクションプランで掲げる**目標の達成に向けて着実に前進**しているものと考えられます。

今回の評価によって、個別施策の達成状況が『めざす姿』の達成状況を表す指標にうまく結びついていない状況が見られました。このような改善点を、現在策定中の『新しい総合計画』につなげることが重要であると考えられます。

約束部分の評価の見方

約束6 津軽地域の中核都市として、近隣市町村との連携強化を図ります

めざす姿

弘前市が津軽地域の域全体の活性化を図るため、公共交通、観光、子育て支援、高齢者支援、防災・減災、環境・エネルギー、産業・経済、文化・スポーツ、国際交流、地域連携、情報通信、健康・福祉、教育・人材、まちづくり、防災・減災、環境・エネルギー、産業・経済、文化・スポーツ、国際交流、地域連携、情報通信、健康・福祉、教育・人材、まちづくり

【H24 達成率】
目標値の達成状況を、「○：達成済み」、「×：達成していない」、「－：判断できない」で表記しています。

【H25 達成率】
目標値の達成状況を、「○：達成済み」、「－：達成できない・判断できない」で表記しています。

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名		取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値				H24目標値 に対する 達成状況	H25目標値 に対する 達成状況
					22	23	24	25		
① 定住自立圏構想連携施策数 14件を目指します。		業務取得	件	0	-	14	14	14	○	○
					-	10	14			
【参考】AP2013指標 定住自立圏構想連携施策数 16件を目指します。		業務取得	件	0	-	14	14	16		
					-	10	14			
② 定住自立圏圏域市町村をつなぐ公共交通について、持続可能な公共交通体系を構築するため、公共交通路線の見直しを実施します。H24計画策定後に目標を設定		-	-	-	-	-	-		-	-
					-	-	-			
【参考】AP2013指標 定住自立圏圏域市町村をつなぐ公共交通路線数26 路線の維持を目指します。		業務取得	路線	26	-	-	26	26		
					-	-	26			
③ 定住自立圏圏域の観光入込客数810万人を目指します。（約10%増）		業務取得	万人	735.4	-	-	730	810	-	-
					735.4	655.9	-			
④ 定住自立圏圏域の人口10万人当たりの医師数287.5人の維持を目指します。		業務取得	人	287.5	-	-	287.5	287.5	○	-
					287.5	302.9	302.9			
⑤ 3市町村の合併をして不満である（どちらかと言えば不満＋不満）市民の割合を、10%に減らします。（3.8%減）		市民評価アンケート	%	13.8	-	-	11.9	10.0		
					13.8	11.1	10.0			

【注目標識】
指標の中でも重要だと思われる「注目標識」を3つ以内で設定し、塗りつぶしています。

【数値の取得方法】
「基準値」や「目標値」は「業務データ」や「市民評価アンケート」等から取得します。

【年度別の目標値・現状値】
上段に年度別の「目標値」、下段に年度別の「現状値」を記載しています。

約束全体の評価

めざす姿の達成状況を示す指標5項目について、平成24年度の目標値に対する達成率は、「目標を達成済み」が3項目、「判断できない」が2項目であることから、目標達成に向けた取組みは進んでいると判断できます。

なお、前年度に「目標を達成済み」の「中心宣言」「定住自立圏形成協定」「共生ビジョン作成」は既にその結果が出たことから、平成24年度の指標とはしていません。

次に注目指標のうち、「③定住自立圏圏域の観光入込数客数810万人を目指します。」は、今後の数字発表を待つことになります。「④定住自立圏圏域の人口10万人当たりの医師数287.5人の維持を目指します。」は、302.9人と目標を達成しております。

また、個別施策の実施状況ですが、「進捗率」では、3項目全てが「工程表どおり実施済み」となっていますが、「達成率」では、3項目中1項目が「目標を達成済み」、1項目が「概ね順調に推移」、1項目が「遅れている」となっております。

「達成率」が遅れているものについては、様々な外的要因に影響を受ける側面を持っておりますが、これらに柔軟に対応し、成果に結びつけるよう取り組む必要があります。

このような状況を総合的に勘案すると、個別施策の一部が成果に結びついていないものの、めざす姿に向けた達成状況は目標を達成しており、弘前市が津軽地域の中核的な役割を担い、近隣市町村との連携・協力による地域全体の活性化に向けて、**おおむね順調に推移している**ものと考えます。

今後も、定住自立圏構想における連携事業の推進に取り組むとともに、合併戦略プロジェクトの

【約束全体の評価】は次の項目を踏まえて定性的な評価を記載しています。

- ・「めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）」の達成度
- ・「注目指標」の達成度
- ・個別施策の達成状況
- ・今後の方向性 など

個別施策の実施状況

【弘前市が中心となって近隣市町村と連携】

- 1 定住自立圏構想の推進（中心市の宣言）
 - ・地域全体の「医療サービス」の維持、向上
 - ・地域全体の「公共交通」の維持、向上
 - ・地域全体の「観光振興」を積極的に展開
- 2 （再）北東北の中核都市として、民間企業や公的団体の弘前市への着実な立地を推進
- 3 市町村合併の効果の最大化と一体感の醸成を推進（合併効果促進事業）

【個別施策の進捗率】

各個別施策のH24の「進捗率」を、「A:工程表どおり実施済み」、「B:概ね工程表どおり」、「C:工程表より遅れている」、「-:未着手」で評価しています。

【個別施策の達成率】

各個別施策のH24の「達成率」を、「A:目標を達成済み」、「B:順調に推移」、「C:遅れている」、「-:判断できない」で評価しています。

	事務事業数	進捗率	達成率
○ 1 定住自立圏構想の推進（中心市の宣言） ・地域全体の「医療サービス」の維持、向上 ・地域全体の「公共交通」の維持、向上 ・地域全体の「観光振興」を積極的に展開	2	A	A
● 2 （再）北東北の中核都市として、民間企業や公的団体の弘前市への着実な立地を推進	1	A	C
● 3 市町村合併の効果の最大化と一体感の醸成を推進（合併効果促進事業）	1	A	B

進捗率 A:工程表どおり実施済み B:概ね工程表どおり C:工程表より遅れている -:未着手

達成率 A:目標を達成済み B:順調に推移 C:遅れている -:判断できない

上段：年度別概算所要額（単位：千円）／下段：年度別決算額（単位：千円）			
22年度	23年度	24年度	25年度
50	300	-	-
		186,409	

【年度別 概算所要額・決算額】

上段がプランに掲載した概算所要額、下段が決算額を千円単位で記載しています。

個別施策の評価の見方

①施策を構成する事務事業が1つの場合

No.	項目	項目	自己評価	平成24年度実施内容				
6-3	市町村合併の効果の最大化と一体感の醸成を推進（合併効果促進事業）	市町村合併の効果の最大化と一体感の醸成を図るため、合併戦略プロジェクト(※41)等の事業を積極的に推進する。	進捗率	11項目18事業のうち、平成23年度までに3項目6事業が完了している。平成24年度は「相馬地区住民ふれあいセンター」が、平成25年3月末に供用開始となり、平成25年度は旧相馬庁舎の解体及び第2期外構工事等となる。他の事業も、ほぼ予定どおり実施されたことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標指数(事業費ベース)は平成24年度末71.7%と設定しているが、実績は69.5%と2.2%(231,050千円)及ばなかった。しかし、平成22年度からH23年度にかけて10.1%、平成23年度から平成24年度にかけて12.3%と推移していることから「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
		目標		H22	H23	H24	H25	
		合併戦略プロジェクト事業進捗率(事業費ベース)(H25) 86.9% H22:48.6% H23:62.9% H24:71.7%		47.1% H18から	57.2%	69.5%		
		事務事業名		決算額		(再 1,741,628)	(再 1,136,862)	(再 1,264,258)
	合併戦略プロジェクト推進事業	今後の課題	いずれの整備事業も、地域住民及び事業関係者との調整等が必要なことから、事業に対する理解を得ながら進めたい。					

【実施内容】
[上段] はアクションプラン 2012 の工程表において、H24 で予定していた事業内容と実際に実施した事業内容を記載しています。
[下段] は事務事業を実施した成果や結果及び H24 の「目標」の達成状況を記載しています。

【進捗率】 事務事業が H24 の工程表どおり実施されたか評価してします。
A:工程表どおり実施済み
B:（なし）
C:工程表より遅れている
-:未着手

【達成率】 「目標値」と H24 の現状値を比較し、達成状況を評価しています。
A:目標を達成済み
B:概ね順調に推移
C:遅れている
-:判断できない

アクションプランに掲載した H24 概算所要額に対応する決算額を記載しています。

H24 の欄に「目標」の実績を記載しています。
検討段階等指標が取得できない場合は「-」としています。

②施策を構成する事務事業が2つ以上の場合

【施策全体の評価】

個別施策を構成する複数の事務事業の「進捗率」と「達成率」を参考にしながら、施策の総合的な評価を記載しています。

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
6-1	定住自立圏構想(※36)の推進(中心市の宣言) ・地域全体の「医療サービス」の維持、向上 ・地域全体の「公共交通」の維持、向上 ・地域全体の「観光振興」を積極的に展開		進捗率	施策を構成する2事業については、いずれも、「工程表どおり実施済み」との評価となっており、施策全体としては、総合的に勘案して、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	施策を構成する2事業については、いずれも、「目標を達成済み」との評価となっており、施策全体としては、総合的に勘案して、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			決算額		H22	H23	H24	H25
					22	703	186,409	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	津軽地域の中核都市として、近隣市町村と連携して地域の全体活性化を図るために、弘前市を中心市とする8市町村が連携して、次のとおり「定住自立圏構想」を推進する。 ・「中心市宣言(※37)」(弘前市) ・「定住自立圏形成協定(※38)」の締結(弘前市と周辺市町村(※39)が1対1で結ぶ) ・「定住自立圏共生ビジョン(※40)」の策定(近隣市町村と協議を経て弘前市が策定)	定住自立圏構想推進事業	進捗率	新たに4施策を追加し、構成市町村施策担当課協議、構成市町村地域圏主管部課長会議、構成市町村長会議を経て、4施策毎の定住自立圏形成協定を締結、定住自立圏共生ビジョンを変更したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	平成24年10月3日付けで4施策毎の定住自立圏形成協定を締結し、平成24年12月26日、定住自立圏共生ビジョンを変更したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			定住自立圏形成協定の締結(H24.10まで)		—	実施	実施	
			「定住自立圏共生ビジョン」の変更(H25.2まで)		—	実施	実施	
			今後の課題	施策担当課協議の進行を見守りながら、2件の追加を図っていきたい。追加施策については9月に議会での審議、10月に協定締結、12月に共生ビジョンを変更することになる。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	・定住自立圏共生ビジョンに基づく連携事業の実施(医療サービス、公共交通、観光振興、人材育成等)	定住自立圏共生ビジョン推進事業	進捗率	平成24年度実施事業10件は、全て着手済みであることから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標の「連携事業着手率 75%(H25)」を上回ったことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			連携事業着手率 75%(H25)		—	—	100%	
			【参考】連携事業着手率 100%(H25)		—	—	100%	
			今後の課題	四半期(3カ月)毎に事業状況を照会して施策の進行管理を行い、各施策のフォローアップを図る。				

【今後の課題】

「進捗率」及び「達成率」並びに施策を取り巻く環境の変化等を踏まえた、今後の課題などについて記載しています。

改訂版となる『アクションプラン 2013』で指標を変更している場合、参考指標として記載しています。

約束 1 市民主権システムを実現します

めざす姿

市民と行政の情報共有・対話が促進され、市民が主体のまちづくりが進められています。

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名	取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値 〔 ※()書きは「わからない」の回答を除いた場合 〕				H24目標値 に対する 達成率	H25目標値 に対する 達成率
				22	23	24	25		
① 市民と行政が同じ目的を持ちパートナーとしてまちづくりに取り組んでいると思う市民を増やします。	市民評価アンケート	%	13.0	15.0 20.9	20.0 31.7	22.0 28.7	25.0	○	○
② 市民参加型まちづくり1%システム支援事業数100事業を目指します。	業務取得	件	—	— —	100 23	100 43	100	×	—
③ 「市長車座ミーティング」、「わたしのアイデアポスト」、「市政懇談会」など市民から広く意見を聞く広聴活動に満足している市民を増やします。	市民評価アンケート	%	61.3	64.0 49.7 ※(63.7)	66.0 71.5 ※(89.1)	68.0 71.3 ※(88.5)	70.0	○	○
④ 広聴事業への参加者数を増やします。	業務取得	人	5,120	— 5,551	— 4,607	5,644 5,655	5,617	○	○
⑤ 「広報ひろさき」、「市ホームページ」など市民に広く市政情報を提供する広報活動に満足している市民を増やします。	市民評価アンケート	%	73.0	74.0 68.5 ※(74.3)	75.0 83.2 ※(86.5)	76.0 84.3 ※(88.2)	77.0	○	○
⑥ 公募可能な審議会等における公募実施割合100%を目指します。	業務取得	%	19.0	— 30.0	— 56.0	100 100.0	100	○	○
⑦ 町会や公民館、地区社協などの地域活動に参加している市民を増やします。	市民評価アンケート	%	28.1	29.0 33.6	30.0 33.4	32.0 33.8	33.0	○	○

H24目標値に対する達成率 ○：目標を達成済み ×：目標を達成できない —：判断できない
H25目標値に対する達成率 ○：目標を達成済み —：目標を達成できない・判断できない

関連指標名	取得方法	単位	上段：数値取得時期 下段：取得数値			
弘前市長選挙投票率	業務取得	%	H12. 1. 30	H16. 2. 1	H18. 4. 16	H22. 4. 11
			42. 82	50. 42	55. 57	58. 06
弘前市議会議員一般選挙投票率	業務取得	%	H11. 4. 25	H15. 4. 27	H19. 4. 22	H23. 4. 24
			64. 06	57. 07	59. 77	50. 83

約束全体の評価

めざす姿の達成状況を示す指標7項目について、平成24年度の目標値に対する達成率は、「目標を達成済み」が6項目、「目標を達成できない」が1項目となっております。また、目標を達成済みの項目全てが、平成25年度の目標値を上回る状況となっております。

注目指標である「①市民と行政が同じ目的を持ちパートナーとしてまちづくりに取り組んでいると思う市民を増やします。」については、市民評価アンケート結果により目標を達成しています。これは、市民と行政が協働して実施する全庁的な各種事業への取組みが市民へ浸透し、市民と行政が連携して、より良いまちづくりに取り組もうという意識が高まってきた結果と考えます。

また、「③「市長車座ミーティング」、「わたしのアイデアポスト」、「市政懇談会」など市民から広く意見を聞く広聴活動に満足している市民を増やします。」についても目標を達成しています。これは、広報ひろさきやホームページ等の市の広報媒体のほか、コミュニティFM放送に毎月広報担当職員が出席し、市の広聴事業の周知に努めたことで、市民の関心が高まり、満足度が増加したものと考えます。

同様に、目標を達成している「④広聴事業への参加者数を増やします。」についても、広聴事業の周知により、特に「出前講座」の需要が高まり、前年より17回多くなっていることが、参加者数の増加につながったものと考えます。

次に個別施策の実施状況ですが、「進捗率」については、8項目のうち7項目が「工程表どおり実施済み」、1項目が「工程表より遅れている」となっており、「達成率」については、目標を設置していないために「判断できない」とした1項目を除いて、3項目が「目標を達成済み」、2項目が「順調に推移」、2項目が「遅れている」となっています。

施策の実施状況や指標全体の達成状況等を総合的に勘案すると、この約束のめざす姿のうち、前段部分の「市民と行政の情報共有・対話が促進され、」については順調に推移していると評価できますが、後段部分の「市民が主体のまちづくりが進められています。」については遅れていると評価せざるを得ません。

しかし、目標値を下回った「市民参加型まちづくり1%支援事業数」についても事業数を伸ばしていることを加味すれば、全体としては、めざす姿に向けて**おおむね順調に推移している**と考えます。

今後も、市民と行政の情報共有・対話が促進され、市民が主体のまちづくりが進められるよう、各施策に取り組んでまいります。

個別施策の実施状況				
項目		事務事業数	進捗率	達成率
【市民が主体となったまちづくりを実現します】				
	○ 1 市長の給与の決定について市民の評価などを反映	1	A	A
	○ 2 市民参加型まちづくり 1 %システムを導入	1	A	C
	● 6 各種審議会の公募枠を大幅増 （女性や若者など多様な意見を市政に反映）	1	A	A
	☆ 8 自治基本条例制定に向けた取り組み	1	C	C
【市民との対話を促進します】				
	○ 3 市民評価アンケートの定期的な実施	1	A	A
	○ 4 市長車座ミーティング、車座ランチ（市政懇談会の見直し）	1	A	B
	○ 5 市役所内への“市民参画担当チーム”の設置	1	A	－
	● 7 ホームページへの携帯サイト構築、メールマガジン定期配信	3	A	B

進捗率 A:工程表どおり実施済み B:概ね工程表どおり C:工程表より遅れている -:未着手
達成率 A:目標を達成済み B:順調に推移 C:遅れている -:判断できない

上段：年度別概算所要額（単位：千円）／下段：年度別決算額（単位：千円）			
22年度	23年度	24年度	25年度
438	68, 691	67, 977	67, 977
643	9, 913	20, 428	

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
1-1	市長の給与の決定について市民の評価などを反映	市民主権による市政運営を徹底するために、毎年度、市政に対する市民評価の取得を行い、その結果を市長の給与に反映させる。	進捗率	平成24年度事業計画のとおり、市長給与の市民評価反映方法を決定した上で、市民評価アンケートの実施により、市政に対する市民評価の回答を集計し、その結果を市長給与に反映させた(減額しなかった)ことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「市民評価の把握1回/年」と「市民評価の給与への反映1回/年」としており、予定どおり進捗したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			市民評価の把握 1回/年		-	1回	1回	
			市民評価の給与への反映 1回/年		-	1回	1回	
		事務事業名	決算額		0	0	0	
		特別職報酬等決定事務	今後の課題	今年度の市民評価アンケートは実施済み。 ・市民評価アンケート結果：「評価してない。+ どちらかといえば評価していない。」 7.4%→減額なし				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
1-2	市民参加型まちづくり1%システムを導入	市民主権による市政運営の徹底と市民参画の促進のために、環境美化活動、安全・防犯活動など様々な分野での自主的な活動に対して支援する。	進捗率	平成24年度より、補助対象期間を4月から実施できるようにしたほか、審査の公平性・透明性の確保のため審査方法を採点方式に変更し実施したことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は、「支援事業数100件／年」としているが、平成24年度の実績は、43件に留まったことから、「 遅れている 」と評価した。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			支援事業数 100件/年		-	23	43	
		事務事業名	決算額		0	8,346	15,663	
		市民参加型まちづくり1%システム事業(※1)	今後の課題	エリア担当制度を活用しながらニーズの掘り起こしを図るとともに、制度の理解を深めるための実践セミナーや講演会の開催などのPRの促進、市民がより活用しやすいシステムづくりを進めていく。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
1-3	市民評価アンケートの定期的な実施	市政に対する市民の評価を把握し、施策の企画・改善等に活用するために、毎年度、同じ時期に郵送によりアンケートを実施する。	進捗率	平成24年度は、アンケートを実施(作成、郵送、集計及び公表)した。16歳以上の市民6,000人を無作為に抽出して、平成24年5月にアンケートを郵送し、集計の上、その結果を8月に公表したことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「アンケート回答者数」としているが、目標の回答者数2,000人に対し、2,135人から回答を得たことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			アンケート回答者数 2,000人/年(送付人数6,000人)		-	2,130	2,135	
		事務事業名	決算額		0	958	2,183	
		市民評価アンケート事業	今後の課題	施策の企画・改善等に活用していることを積極的にPRし、回収率のさらなる向上を図るとともに、市民に分かりやすく公表する。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
1-4	市長車座ミーティング、車座ランチ(市政懇談会の見直し)		進捗率	施策を構成する2事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	施策を構成する2事業について、1事業が「概ね順調に推移」、1事業が「遅れている」となっており、うち1事業はほぼ目標値に達していることから、施策全体として「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		0	0	0	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	市民との対話により情報を共有し、共に考えて、施策へ反映させていくために、少人数の市民グループを対象として、市長と直接話し合う機会を作る。	市長車座ミーティング、車座ランチ事業	進捗率	市長車座ミーティング、車座ランチともに参加市民グループの公募を行い、車座ミーティングを11回開催し、開催結果は、市ホームページで公表した。また、4件の施策への反映が図られたことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標の「参加者数96人(H24)」に対して、最終的に参加者数が95人となった。このことから、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			参加者数 96人(H25)、96人(H24)		82人	115人	95人	
			【参考】施策への反映件数 5件/年		0件	6件	4件	
			今後の課題	車座ミーティング、車座ランチを継続していく上で、参加団体の掘り起こしに課題がある。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	地域を主体に、市民との意見交換を施策へ反映させていくために、市政懇談会の運営について、市町会連合会と協議し、意見交換の内容がより充実するよう工夫する。	市政懇談会	進捗率	9地区で開催し、結果の公表、施策への反映等従来のとおり継続して実施したことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は、「参加者数405人(H24)」としているが、327人に留まった。このことから、「 遅れている 」と評価した。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			参加者数 378人(H25)、405人(H24)		378人	312人	327人	
			【参考】提案件数 170件/年		161件	130件	170件	
			今後の課題	参加者の増加を図るため、開催日時等について、市町会連合会と協議していく必要がある。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
1-5	市役所内への“市民参画担当チーム(※2)”の設置	市民が主体の市政運営を実現するために、市民参画やボランティア活動などを支援する専任チームを設置するとともに、エリア担当制度も活用し、市民との協働事業の推進を図る。	進捗率	平成23年4月より、市民参加・協働に関する窓口として市民参画センター内に「市民との協働推進室」を設置し、市民参加型まちづくり1％システムの実施やボランティア活動の支援、男女共同参画の推進などで、庁内関係課へのコーディネートなどを行った。平成24年度4月には、業務の効率化を図るため、一部機能を本庁舎に移転し、課名を「市民との協働推進課」に改めた。また、エリア担当職員と連携しながら、町会への制度の周知に努めたことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	組織の設置であり、目標を設置していない。				
			-					
			目標		H22	H23	H24	H25
			-		-	-	-	
		事務事業名	決算額		0	0	0	
		市民参画担当チーム(市民との協働推進室)設置	今後の課題	市の市民活動へのサポート窓口について、市民参加型まちづくり1％システム事業が徐々に浸透しつつあることから、市民活動の最初の相談窓口として活用していただくための支援体制の整備に努めていく。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
1-6	各種審議会の公募枠を大幅増(女性や若者など多様な意見を市政に反映)	市政への市民参画を促進し、協働による行政運営を推進するために、公募枠の新設が可能な審議会等を特定し、個別の改選時期にあわせて、女性や若者の枠についても配慮しながら、公募枠の拡大を図る。	進捗率	平成22年度から引き続き、新設又は員改選が行われる審議会等で、公募が可能なものについては、公募枠を設置し、女性・若者の選任についても可能な限り考慮しながら公募を実施した。また、女性・若者の選任を推進するため、「附属機関等の管理に関する指針」の中に、年齢・性別の均衡化に関する具体的記述を入れる改訂を行った。公募が実施可能な審議会等については、全て公募が実施されたため、進捗率については「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「公募可能な審議会等における公募実施割合」で、平成25年4月1日現在では、公募可能な審議会等22団体全てが公募を実施(1団体のみ応募者無し)していることから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			公募可能な審議会等(※3)における公募実施割合 100%(H25)		30%	56%	100%	
		事務事業名	決算額		0	0	0	
		各種審議会等関係事務	今後の課題	公募可能な審議会等での公募実施割合100%を継続していく。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
1-7	ホームページへの携帯サイト構築、メールマガジン定期配信		進捗率	施策を構成する3事業については、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価となっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	施策を構成する3事業について、2事業が「目標を達成済み」、1事業が「概ね順調に推移」となっていることから、施策全体として「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	市民との情報共有を促進するために、ホームページなどインターネットを活用した次の取り組みを行う。	(1)携帯サイト構築事業	進捗率	各課から情報配信ができるよう、システムを更新し、12月から運用を開始したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「携帯サイトのアクセス数180,000件(H24)」としているが、平成24年度は371,723件となっていることから「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			携帯サイトのアクセス数 200,000件(H25) 150,000件(H23)、180,000件(H24)		-	185,594件	371,723件	
			決算額		643	0	177	
			今後の課題	—				
		事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(1)新たに携帯サイトを構築する。 (2)市政情報のメールマガジンを定期的に配信する。 (3)ホームページの充実を図る。	(2)メールマガジン配信事業	進捗率	現登録者へのアンケートの実施は行わなかったが、代わりに市内小・中学校に周知を行ったので、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「メールマガジン登録件数1,500件(H24)」及び「メールマガジン配信回数1回/週」としているが、前者は514件に留まったものの、配信回数は目標どおり週1回以上行ったことから「 概ね順調に推移 」と評価した。 なお、平成25年8月26日現在のメールマガジン登録件数は958件、フェイスブック「いいね！」の取得件数は983件で、合計1,941件となっている。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			メールマガジン登録件数 1,900件(H25) 500件(H23)、1,500件(H24)		—	514件	872件	
			メールマガジン配信回数 1回/週		—	1.1回/週	1.3回/週	
			【参考】メールマガジン登録件数+フェイスブック「いいね！」取得件数 1,900件(H25)		—	—	—	
			決算額		0	609	0	
			今後の課題	少しずつではあるが、メールマガジンの登録件数は増加していることから、平成25年度の最終目標達成のためには、他の広報媒体によるPRを要する。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
市民との情報共有を促進するために、ホームページなどインターネットを活用した次の取り組みを行う。 (1)新たに携帯サイトを構築する。 (2)市政情報のメールマガジンを定期的に配信する。 (3)ホームページの充実を図る。	(3)ホームページ充実	進捗率	ミラーサイトを構築し、9月から運用したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標は「ホームページアクセス数1,400,000件」としているが、平成24年度のアクセス数が1,668,247件となっている。このことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		ホームページアクセス数 1,400,000件(H25)		1,012,809件	1,167,443件	1,668,247件	
		決算額		0	0	334	
		今後の課題	総ページ数及び更新回数の増加においても情報掲載の速度を落とさないためには、職員が自身でホームページを作成できるシステムの導入を検討していく必要がある。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
☆ 1-8	“自治基本条例(※4)”制定に向けた取り組み	市民が主体の協働によるまちづくりを促進するため、市民・議会・行政が情報を共有し、共にまちづくりに取り組んでいくためのルールや仕組みを定めた自治基本条例を制定する。	進捗率	平成24年度は、提言書案(中間報告書)の作成に向け、6月に弘前市自治基本条例市民検討委員会を設置し、同委員会において審議したが、広範に踏み込んだ議論をしており、結果として提言書案(中間報告書)の作成に至らなかったことから、「 工程表より遅れている 」と評価した。				
			C					
			達成率	目標を「提言書案(中間報告書)の作成」としているが、そのための審議に留まり、提言書案(中間報告書)の作成に至らなかったことから、「 遅れている 」と評価した。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			提言書(案)の作成		—	—	—	
		事務事業名	決算額		0	0	2,071	
		弘前市自治基本条例制定事業	今後の課題	弘前市自治基本条例市民検討委員会において、7月29日に提言書案(中間報告書)が作成・提出されたことから、今後の工程(市民意見の集約)を効率的に行い、工程表の遅れを取り戻すよう努める。				

約束2-(1) ひろさき農業・産業おこしに取り組みます【農業振興】

めざす姿

安全・安心な農産物の生産が拡大し、農業所得が向上します。

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名		取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値				H24目標値 に対する 達成率	H25目標値 に対する 達成率
					22	23	24	25		
①	りんご販売額360億円を目指します。	業務取得	億円	330	－	－	344	360	—	—
					338.14	336.87	－	－		
②	農業生産法人数（累計） 36団体を目指します。	業務取得	団体	27	27	30	33	36	×	—
					29	30	32	－		
③	集落営農組織数（累計） 35組織を目指します。	業務取得	組織	26	26	29	32	35	○	—
					27	31	33	－		
④	果樹共済加入率 45.7%を目指します。	業務取得	%	33.6	34.9	36.8	41.1	45.7	×	—
					34.9	36.8	38.7	－		
⑤	わい化栽培率 20.0%を目指します。	業務取得	%	16.4	17.8	18.6	19.5	20.0	×	—
					16.9	17.7	18.2	－		
⑥	りんご海外輸出量 30,000トン（青森県産）を目指します。	業務取得	トン/年	20,028	22,521	25,014	27,507	30,000	×	—
					21,480	16,146	8,880	－		
⑦	主要農産物直売所の販売金額 16.97億円を目指します。	業務取得	億円	15.7894	16.0800	16.3800	16.6800	16.9700	×	—
					16.1415	16.6151	15.7204	－		

H24目標値に対する達成率 ○：目標を達成済み ×：目標を達成できない ー：判断できない
H25目標値に対する達成率 ○：目標を達成済み ー：目標を達成できない・判断できない

関連指標名	取得方法	単位	上段：数値取得時期 下段：取得数値					
農業産出額	業務取得	億円	H22	H23				
			359.8	365.9				

約束全体の評価

めざす姿の達成状況を示す指標7項目について、平成24年度の目標値に対する達成率は、「目標を達成済み」が1項目、「目標を達成できない」が5項目、「判断できない」が1項目となっております。「目標を達成できない」5項目のうち3項目については、それぞれ平成23年度に比べて数値が伸びているものの、平成24年度の目標を達成することが出来なかったものであります。

平成24年度における注目指標のうち、「⑥りんご海外輸出量 30,000トン（青森県産）を目指します。」については、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故による風評被害の影響が残っていたことに加え、平成23年産りんごが記録的な不作だった影響もあり、前年度を大きく下回る結果となりましたが、平成24年産りんごに関しては、台湾でのPR活動や、海外での市場調査・商談等の取組みにより、約14,000トン（大震災前の平成23年度実績程度）まで回復する見込みとなっております。

次に個別施策の実施状況ですが、全15項目のうち、進捗率では13項目が「工程表どおり実施済み」、2項目が「概ね工程表どおり」となっており、「達成率」では5項目が「目標を達成済み」、7項目が「概ね順調に推移」、2項目が「遅れている」となっております。

指標全体の傾向や達成状況等を見ると、これまでのところ震災前に設定した目標には届いてない状況となっております。しかしながら、個別施策を構成する個々の事務事業については施策の達成に向けて積極的に実行できていることに加え、弘前産りんごの消費拡大のための全国10か所における大規模なキャンペーンの開催や、集落営農の組織化・法人化、農商工連携の推進など、戦略的な取組みの展開により、農業所得の向上に確実に結びついており、上昇基調にもあることから、めざす姿に向けて、**成果があらわれ始めている**と考えます。

今後も、これまでの状況を踏まえ、事業内容の更なる周知を図りながら、個別施策の着実な実行に努めるとともに、平成25年4月に政府が打ち出した「成長戦略による農業強化策」に基づく国の施策を最大限に活かすことにより、めざす姿の達成につなげられるよう、意欲的に取り組んでまいりたいと考えております。

個別施策の実施状況				
項目		事務事業数	進捗率	達成率
【りんご課を設置してりんご振興に全力で取り組みます】				
	○ 1 りんご課の設置	1	A	－
	● 5 果樹の所得補償制度、輸入果汁原産地表示の国への働きかけ	4	B	B
	● 6 りんご海外輸出の促進	3	A	C
	● 7 果樹共済加入促進、おい化栽培促進、りんご加工品開発の支援と病害虫に強い品種づくり・土づくりの取組強化、火傷病侵入防止	9	B	B
	☆15 りんご販売促進活動	2	A	B
【農業の担い手育成に取り組みます】				
	● 8 後継者育成を全力で支援、農業後継者配偶者探しの支援	5	A	B
	● 9 技術習得・就農斡旋・農地情報提供等の支援と遊休農地の解消など農用地利用計画の検討と集落営農や生産法人化のモデル化支援	6	A	B
【生産地が値段をつけられる農業にしていきます】				
	○ 2 市内への直販店（産直マルシェ）の誘導、他県他都市との産直販売の交流実施	2	A	A
	●10 農産品の地域ブランド化の推進、弘前ブランド認証制度の導入	1	A	A
	●11 新品種開発とマーケティングの連動・強化、二次加工品の高付加価値化の支援	2	A	A
【地産地消の拡大をはじめ地域力総結集で農業振興を図ります】				
	●12 学校給食への地元産品の利用促進	1	A	B
	●13 米粉製粉場整備の誘導による米の消費拡大促進	1	A	C
	●14 冬の農業の育成強化、農商工連携による農業経営支援	2	A	A
【農家の皆さんと対話を進め農業政策に反映させます】				
	○ 3 生産・加工・流通・販売関係者による「ひろさき農政会議」で施策検討・展開	1	A	A
	○ 4 農家の皆さんと膝を交えて対話する「青空座談会」の定期実施と農業女性の意見反映と地位向上の支援	2	A	B

進捗率 A:工程表どおり実施済み B:概ね工程表どおり C:工程表より遅れている -:未着手
達成率 A:目標を達成済み B:順調に推移 C:遅れている -:判断できない

上段：年度別概算所要額（単位：千円）／下段：年度別決算額（単位：千円）			
22年度	23年度	24年度	25年度
77,402	132,845	147,172	82,328
34,964	86,952	121,798	

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
2-(1)-1	りんご課の設置	弘前の主産業であるりんご産業を振興するために、「りんご課」を設置して、生産・加工流通・販売までの支援事業を実施する。	進捗率	りんご産業を振興するため、生産・加工・流通・販売までの総合的な事業展開をするための「りんご課」を、平成22年7月に設置したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	組織の設置であり、目標を設定していない。				
			—					
			目標		H22	H23	H24	H25
			—		—	—	—	
		事務事業名	決算額		0	0	0	
		りんご課設置	今後の課題	—				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
2-(1)-2	市内への直販店(産直マルシェ(※5))の誘導、他県他都市との産直販売の交流実施		進捗率	構成する2事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	構成する2事業について、それぞれ「目標を達成済み」との評価になっていることから、施策全体としても「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		974	36,078	24,111	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(1)農家の所得向上のために農家の方々が、自ら生産した旬の農産物及び加工品を中心市街地で定期的に販売し、地産地消を推進する。	(1)産直マルシェ事業	進捗率	2年目の開催となる、えきどてプロムナードでの弘前マルシェ「FORET(フォーレ)」は、従来の農産物の販売のほか、飲食や工芸等も取り入れるとともに、イベントも開催するなど発展的な取り組みを行っていることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	市が共催する弘前マルシェ「FORET」は荒天による中止が1回あったものの、ほぼ予定通り開催された。その他を含めた全体の開催数も平年並みであったことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			中心市街地での産直の延べ日数 75日/年		85	83	86	
			【参考】中心市街地での産直マルシェにおける農産物等販売総額 650万円/年		-	502	608	
			今後の課題	来年度の事業運営に向けて、市の負担金を要しない出店者主体の自主運営に移行されるよう、運営体制の構築を図る必要がある。				
		事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(2)他県他都市の農産物等の販売による相乗効果で地産地消を図るとともに、交流を促進し、販路拡大の機会を増加させる。	(2)産直交流事業	進捗率	産直交流モデル支援事業費補助金を活用した事業はなかったが、東京都中野区主催の「東北復興祈念展」と併催された「2012青森人の祭典」に弘前マルシェ「FORET」が出店し、交流が行われたことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「他都市との交流回数 1回/年」としているが、東京都中野区主催の「東北復興祈念展」と併催された「2012青森人の祭典」に弘前マルシェ「FORET」が出店し、交流が行われたことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			他都市との交流回数 1回/年		-	1回/年	1回/年	
			今後の課題	補助事業の実施に当たり柔軟に対応できるよう、応募要件や要綱の見直しを図るとともに、効果的な周知・募集活動を実施する必要がある。 また、主要農産物直売所の販売金額に関しては、前年度までの伸びが見られないため、要因の分析のほか、必要に応じて販売額向上の取り組みに対し、協力していく必要がある。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
2-(1)-3	生産・加工・流通・販売関係者による「ひろさき農政会議」で施策検討・展開	農林業の振興と農家の経営安定を目的に、生産、加工、流通、販売等の各分野の関係者で組織する「ひろさき農政会議」を設置し、農林業行政に関する意見・検討・展開を図る。	進捗率	平成24年8月に会議を開催し、生産、加工、流通、販売等について意見交換された。会議の開催により、農業団体や消費者団体が情報を共有し、政策に必要な共通認識を得る機会となっていることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	開催回数は、「ひろさき農政会議」としては1回にとどまるが、同会議の委員の約半数で組織される「ひろさき農林業危機対策連絡会議」は3回開催され、災害対策が協議されている。これは、共通認識を得て各団体それぞれの活動の一つにまとめ、より効果的に実施していくという点で、ひろさき農政会議と手法を同じくするものであるため、これを含めて、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			会議開催回数 3回/年		2	2	4	
			【参考】会議結果に基づき実施された農業政策件数 1件/年		0	1	1	
		事務事業名	決算額		94	16	14	
		ひろさき農政会議運営事業	今後の課題	農産物の生産、販売、加工に関することや、災害対策について随時テーマを設定し、開催する。平成25年度からは、「弘前市耕作放棄地防止対策検討委員会」の意見を踏まえ、耕作放棄地対策についても検討する。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
2-(1)-4	農家の皆さんと膝を交えて対話する「青空座談会」の定期実施と農業女性の意見反映と地位向上の支援		進捗率	施策を構成する2事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	構成する2事業について、「概ね順調に推移」が1事業、「目標を達成済み」が1事業となったが、開催方法を工夫し、対話の広がりが見られていることに加え、施策への反映も見られることから、総合的な判断は、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		145	134	73	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(1)農業者の声を農業政策に反映させるために、市長と膝を交えて対話する「青空座談会」を開催する。	(1)青空座談会事業	進捗率	相馬地区、豊田地区、千年地区で座談会を実施したほか、女性農業者との昼食座談会を開催したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	開催回数は4回にとどまるが、現地督励との同時開催や、農業女性との昼食懇談会形式を取り入れるなど、参集範囲や対話の広がりが見られており、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			座談会開催回数 6回/年		6回	3回	4回	
			【参考】農業政策への施策反映件数 1件/年		9	8	1	
			今後の課題	話題が、単に要望だけでなく、市長の考え方を問うものが多くなっている。市の施策を直接説明することで農業者との共通理解を得られる機会にもしていきたい。				
		事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(2)農業女性の意見反映と地位向上の支援のために、女性農業者の意見を聞く場の設定や普及啓発活動を実施する。	(2)農業女性懇談会事業	進捗率	平成24年度は、「元気な女性、元気な弘前」をテーマに農業女性と市長との昼食座談会を実施したほか、「地域活性の先頭に立って」をテーマに、道の駅「上品(じょうぼん)の郷(さと)」駅長 太田実氏による講演会を開催したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	「元気な女性、元気な弘前」をテーマに、農業女性と市長との昼食座談会を1回開催したほか、「地域活性の先頭に立って」をテーマに、道の駅「上品(じょうぼん)の郷(さと)」駅長 太田実氏による講演会を1回開催したことから、「 目標達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			懇談会開催回数 1回/年		1	1	1	
			講演会開催回数 1回/年		1	1	1	
			【参考】農業政策への施策反映件数 1件/年		0	1	1	
			今後の課題	女性農業者が、より率直に意見を述べやすい規模や環境での懇談会実施に取り組む必要がある。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
2-(1)-5	果樹の所得補償制度、輸入果汁原産地表示の国への働きかけ		進捗率	青森県に対し要望はしているが、市長会を通じて国へは要望していないため、施策全体として、「 概ね工程表どおり実施済みで、一部が遅れている 」と評価した。				
			B					
			達成率	構成する4事業について、「目標を達成済み」が2事業、「遅れている」が2事業であることから総合的な判断は、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	果樹の所得補償制度創設のために、様々な機会を通じて、東 北市長会・全国市長会を活用し ながら国・県に対して要望する。	(1)東北市長会・全国市長会を通 じた国に対する要望	進捗率	東北市長会を通じた国への要望については、要望項目数に制限がある中で、「火傷病侵入防止のため の検疫体制の強化」に関する要望を優先し、本事業については要望しなかったことから、「 工程表より遅 れている 」と評価した。				
			C					
			達成率	県へは要望しているものの、国へは要望書提出に至っていない。目標を達成していないことから、「 遅れ ている 」と評価した。アクションプラン2013では、目標を「県又は国に対して要望を1回/年」へ変更してい る。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			国への要望回数 1回/年		1回	0回	0回	
			【参考】青森県又は国に対する要望回数 1回/年		1回	1回	1回	
			決算額		0	0	0	
			今後の課題	現在の果樹共済制度と価格安定対策を組み合わせた新たな「果樹の所得補償制度」創設について、今 後も継続して要望していく必要がある。				
		事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
		(2)青森県に対する重点要望	進捗率	現在の果樹共済制度を母体に、価格下落対策を組み合わせた新たな支援策を講じることを要望したこ とから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	県への要望回数を達成したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			県への要望回数 1回/年		-	1回	1回	
			【参考】青森県又は国に対する要望回数 1回/年		1回	1回	1回	
			決算額		0	0	0	
			今後の課題	現在の果樹共済制度と価格安定対策を組み合わせた新たな「果樹の所得補償制度」創設について、今 後も継続して要望していく必要がある。				

事務事業名	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
輸入果汁原産地表示の制度創設のために、様々な機会を通じて、東北市長会・全国市長会を活用しながら国・県に対して要望する。	(1)東北市長会・全国市長会を通じた国に対する要望	進捗率	東北市長会を通じた国への要望については、要望項目数に制限がある中で、「火傷病侵入防止のための検疫体制の強化」に関する要望を優先し、本事業については要望しなかったことから、「工程表より遅れている」と評価した。				
		C					
		達成率	県へは要望しているものの、国へは要望書提出に至っていない。目標を達成していないことから、「遅れている」と評価した。アクションプラン2013では、目標を「県又は国に対して要望を1回/年」へ変更している。				
		C					
		目標		H22	H23	H24	H25
		国への要望回数 1回/年		-	1回	0回	
		【参考】青森県又は国に対する要望回数 1回/年		-	1回	1回	
		決算額		0	0	0	
		今後の課題	消費者の商品選択肢の拡大と県産りんごジュースの消費拡大を図るため、「輸入果汁原産地表示」義務化について、今後も継続して要望していく必要がある。				
	事務事業名	自己評価	平成22年度実施内容				
	(2)青森県に対する重点要望	進捗率	青森県に対し、輸入果汁原産地表示の制度創設について要望したことから、「工程表どおり実施済み」と評価した。				
		A					
		達成率	県への要望回数を達成したことから、「目標を達成済み」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		県への要望回数 1回/年		-	1回	1回	
		【参考】青森県又は国に対する要望回数 1回/年		-	1回	1回	
		決算額		0	0	0	
		今後の課題	消費者の商品選択肢の拡大と県産りんごジュースの消費拡大を図るため、「輸入果汁原産地表示」義務化について、今後も継続して要望していく必要がある。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
2-(1)-6	りんご海外輸出の促進		進捗率	施策を構成する3事業について、それぞれ「工程表とおり実施済み」との評価になっていることから、「 工程表とおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	施策を構成する3事業について、それぞれ「遅れている」となっていることから、「 遅れている 」と評価した。なお、原発事故により、りんごの輸出環境が大きく変化しているため、事故前に設定した目標の見直しを検討していく。				
			C					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		708	10,004	10,838	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	りんごの販路拡大と価格安定のために、県や県りんご対策協議会等と連携を図りながら、台湾や中国などの取引相手開拓や貿易実務の支援など輸出拡大に向けた取り組みを展開する。	(1)りんご輸出対策調査事業	進捗率	青森県農林水産物輸出促進協議会が実施した販売促進活動でインドネシアの市場調査に同行、また群馬県太田市の太田国際貨物ターミナル(OICT)を活用した輸出促進を図るため現地調査を行ったことから、「 工程表とおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	国内のりんごの販売価格の安定には、一定量を海外に輸出し、隔離することが必要であることから、平成23年産では目標を27,507tとした。しかし、平成23年産りんごは記録的な不作から価格が高騰したこと、福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故に伴う風評被害があったことにより海外への輸出が停滞し、設定目標に届いていないことから、「 遅れている 」と評価した。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			りんごの輸出量(青森県産) 30,000t(H25) 22,521t(H22)、25,014t(H23)、27,507t(H24)		21,480 (H21年産)	16,146 (H22年産)	8,880 (H23年産)	
			決算額		708	1,829	312	
			今後の課題	平成24年産りんごの輸出量は回復傾向にあるが、依然として輸入規制している国・地域もあり、輸出量低迷状態が続いている。よって、県の動向や青森県農林水産物輸出促進協議会が行うインドネシアやタイなどの販路拡大についての市場調査の状況を見極め、関係団体と連携を図りながら進めていく必要がある。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
りんごの販路拡大と価格安定のために、県や県りんご対策協議会等と連携を図りながら、台湾や中国などの取引相手開拓や貿易実務の支援など輸出拡大に向けた取り組みを展開する。	(2)りんご輸出促進事業	進捗率	りんご海外輸出促進事業を活用し、1業者が台南・台北市の市場調査を実施、1業者が台北・高雄・香港で商談を実施した。また、りんご輸出業者育成研修事業による研修会を4回実施、延べ42の農家及び事業者が受講した。招聘バイヤー意見交換会事業についても、市の単独開催とはならなかったが、県や日本貿易振興機構(ジェトロ)青森貿易情報センター開催の事業に市内事業者が参加していることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	国内のりんごの販売価格の安定には、一定量を海外に輸出し、隔離することが必要であることから、平成23年産では目標を27,507tとした。しかし、平成23年産りんごは記録的な不作から価格が高騰したこと、福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故に伴う風評被害があったことにより海外への輸出が停滞し、設定目標に届いていないことから、「 遅れている 」と評価した。				
		C					
		目標		H22	H23	H24	H25
		りんごの輸出量(青森県産) 30,000t (H25) 22,521t (H22)、25,014t (H23)、27,507t (H24)		21,480 (H21年産)	16,146 (H22年産)	8,880 (H23年産)	
		決算額		0	8,175	389	
		今後の課題	当該事業を構成する各事業の効果等を検証し、震災後、各国で輸入規制が続く中で、台湾など既存の輸出ルートの中でもインドネシアなど東南アジアへの展開について検討が必要である。				
	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(3)弘前市・台南市果物交流事業	進捗率	平成24年6月に台南市長が来弘して「台南産アップルマンゴーフェア」を、平成25年2月には弘前市長が台南市を訪問して「りんごの産地弘前in台南」をそれぞれ実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	国内のりんごの販売価格の安定には、一定量を海外に輸出し、隔離することが必要であることから、平成23年産では目標を27,507tとした。しかし、平成23年産りんごは記録的な不作から価格が高騰したこと、福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故に伴う風評被害があったことにより海外への輸出が停滞し、設定目標に届いていないことから、「 遅れている 」と評価した。				
		C					
		目標		H22	H23	H24	H25
		りんごの輸出量(青森県産) 30,000t (H25) 22,521t (H22)、25,014t (H23)、27,507t (H24)		21,480 (H21年産)	16,146 (H22年産)	8,880 (H23年産)	
		決算額		0	0	10,137	
		今後の課題	イベント実施のほか、販売促進に繋がる交流事業のあり方を検討していく必要がある。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
2-(1)-7	果樹共済加入促進、わい化栽培促進、りんご加工品開発の支援と病害虫に強い品種づくり・土づくりの取り組み強化、火傷病侵入防止		進捗率	施策を構成する9事業において、「工程表どおり実施済み」が8事業、「工程表より遅れている」が1事業との評価になっていることから、総合的な評価は、「 概ね工程表どおり実施済みで、一部が遅れている 」と評価した。				
			B					
			達成率	構成する9事業について、「目標を達成済み」が2事業、「概ね順調に推移」が4事業、「遅れている」が1事業と評価しており、その他の2事業の達成率の判断は平成25年度となっていることから、総合的な判断は、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	農業経営の安定化を図るために、「ひろさき広域農業共済組合」と連携し、共済制度の仕組みを理解してもらうための周知を図る。 また、農家のニーズを把握して、加入しやすい制度への改正に向けた働きかけを実施する。さらに、制度加入を条件とする事業を実施する。	(1)果樹共済加入促進対策事業	進捗率	果樹共済加入促進について、農家の果樹共済掛金の15%を負担する果樹共済加入促進対策事業を実施し、加入率アップを図っていることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	平成24年度の目標値41.1%に対し、実績が38.7%と目標は達成できなかったが、りんご農家への加入促進活動により、着実に加入率が向上していることから、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			果樹共済加入率 45.7%(H25) 41.1%(H24)		34.9%	36.8%	38.7%	
			決算額		16,164	15,210	14,566	
			今後の課題	加入の動機づけとなる事業を行うなど、当該事業の制度設計の見直しを含め、加入率向上につなげていく必要がある。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	農業経営の安定化を図るために、「ひろさき広域農業共済組合」と連携し、共済制度の仕組みを理解してもらうための周知を図る。 また、農家のニーズを把握して、加入しやすい制度への改正に向けた働きかけを実施する。さらに、制度加入を条件とする事業を実施する。	(2)果樹共済加入誘導事業	進捗率	果樹共済加入誘導事業については、果樹共済加入者を対象とした防風網張替事業や、加入者・未加入者で補助率を差別化するりんご防除機械導入事業を実施したほか、ひろさき広域農業共済組合職員とともに、りんご農家への加入促進活動を実施し、加入率向上を図っていることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	平成24年度の目標値41.1%に対し、実績が38.7%と目標は達成できなかったが、りんご農家への加入促進活動により、着実に加入率が向上していることから、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			果樹共済加入率 45.7%(H25) 41.1%(H24)		34.9%	36.8%	38.7%	
			決算額		555	5,686	8,608	
			今後の課題	加入の動機づけとなる事業を行うなど、当該事業の制度設計の見直しを含め、加入率向上につなげていく必要がある。				
					H22	H23	H24	H25
			決算額		-	-	-	

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
生産力の向上と低コスト化のために、農協や県りんご協会と連携し特定品種に偏った品種構成を見直すとともに、りんご生産者が自力でわい化への改植及び新植を行う場合に支援する。	りんご園改植事業	進捗率	りんごの安定生産と低コスト化を支援するため、わい化栽培への転換を推進する補助事業を継続実施していることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	平成24年度の目標値19.5%に対し、実績が18.2%と目標は達成できなかったが、毎年わい化率は着実に向上していることから、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
		B					
		目標		H22	H23	H24	H25
		りんご園わい化率 20.0%(H25) 17.8%(H22)、18.6%(H23)、19.5%(H24)		17.30%	17.75%	18.20%	
		決算額		0	4,705	15,450	
		今後の課題	わい化栽培は、省力化や低コスト化に対応した栽培として定着化してきているが、わい化への改植により、生産できるまでの数年間の収入が見込めないことから改植が進まなかったものである。国では、平成23年度から改植に要する費用に加え、未収益期間の栽培管理に要する費用も補助する制度を創設したことから、市でも国に倣い、平成23年度分から、同様の補助内容に改善しており、当該補助事業内容について更なる周知を図ることにより、わい化率の向上に努めていく必要がある。				
実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
価格安定を図るために、市内の法人や農家等がりんご加工品の新商品開発及び販路拡大に要する経費に対して補助し、戦略的に加工品開発と販路拡大を支援する。	農商工連携(※6)促進事業	進捗率	新商品開発や販路開拓を支援する「農産加工ビジネス育成支援事業費補助金」を創設したことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	新商品開発件数年5件の「目標」をほぼ達成(4件 りんごジュース「Mahe Nana」「メロー」、りんごジェラート、りんごバームクーヘン)できたことから、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
		B					
		目標		H22	H23	H24	H25
		新商品開発件数 5件/年		5件	5件	4件	
		決算額		1,212	3,603	1,320	
		今後の課題	りんご加工品に特化して開発する場合の、制度上の優遇措置等の検討が必要である。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
病害虫に強い品種づくり・土づくりのために、弘前大学などの研究機関に対し霜害や病害虫に強い新品種開発のための取り組みの促進を働きかける。 また、稲わらや食品残さなどを堆肥化してりんご園で再利用するための仕組みづくりに取り組む。	(1)青森県・研究機関等への要望	進捗率	平成24年5月に青森県産業技術センターの研究課題として要望し、大学等との連携事業として要望したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標の青森県産業技術センターりんご研究所及び弘前大学への要望年1回を達成したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		青森県産業技術センターりんご研究所及び弘前大学への要望 1回/年		-	1回	1回	
		今後の課題	要望・課題提起は継続して行くが、新品種開発までは相応の期間を要すると考えられる。				
	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(2)りんご新品種開発推進事業	進捗率	「弘前市りんご新品種開発推進事業費補助金」交付要綱を制定し、農業者団体へ補助交付したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標を「平成25年度までに新品種開発数1件」としていることから、達成率の評価は平成25年度で行う。				
		-					
		目標		H22	H23	H24	H25
		新品種開発数 1件 (H25)		-	-	-	
		【参考】新品種開発 1種類/10年間		-	-	-	
		今後の課題	補助事業は継続して行くが、新品種開発までは相応の期間を要すると考えられる。				
	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(3)農業残さ堆肥化推進事業	進捗率	りんご園で再利用可能な農業残さの多くは通常園内で焼却処分される剪定枝であり、りんご公園をモデル地区として、園地から発生する剪定枝をチップ化・堆肥化して再利用する仕組みを構築したことから、「 工程表通りに実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	平成24年度でモデル地区を検討し、平成25年度からモデル化による事業実施としていることから、達成率の評価は平成25年度から行う。				
		-					
		目標		H22	H23	H24	H25
		モデル地区再利用率 90% (H25)		-	-	-	
		決算額		0	0	0	
		今後の課題	剪定枝の量とチップ化して作られた肥料の量の把握が必要となる。今後は、りんご公園内で発生した農業残さ再利用率90%達成を目指していく。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
病害虫に強い品種づくり・土づくりのために、弘前大学などの研究機関に対し霜害や病害虫に強い新品種開発のための取り組みの促進を働きかける。 また、稲わらや食品残さなどを堆肥化してりんご園で再利用するための仕組みづくりに取り組む。	(1)東北市長会・全国市長会を通じた国に対する要望	進捗率	要望書を提出したが、東北市長会で採択されなかったことから、「 工程表より遅れている 」と評価した。				
		C					
		達成率	県へは要望しているものの、国へは要望書提出に至っておらず、目標を達成していないことから、「 遅れている 」と評価した。アクションプラン2013では、目標を「県又は国に対して要望を1回/年」へ変更している。				
		C					
		目標		H22	H23	H24	H25
		国への要望回数 1回/年		-	0回	0回	
		【参考】青森県又は国に対する要望回数 1回/年		1回	1回	1回	
		決算額		0	0	0	
		今後の課題	火傷病が国内に侵入した場合、当市やりんご産業のみならず、国内の果樹産業に甚大な被害を及ぼすことから、主要な港湾や空港での水際対策と海外旅行者の検疫体制を強化するとともに、火傷病の研究を強化するよう、継続して要望を行う。				
	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(2)青森県に対する重点要望	進捗率	青森県に対し、火傷病侵入防止のために、輸入りんごの検疫体制の強化について要望したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	県への要望回数を達成したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		県への要望回数 1回/年		-	1回	1回	
		【参考】青森県又は国に対する要望回数 1回/年		1回	1回	1回	
		決算額		0	0	0	
		今後の課題	火傷病が国内に侵入した場合、当市やりんご産業に甚大な被害を及ぼすことから、主要な港湾や空港での水際対策と海外旅行者の検疫体制を強化するよう、国に働きかけることを継続して要望する。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
2-(1)-8	後継者育成を全力で支援、農業後継者配偶者探しの支援		進捗率	施策を構成する5事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	構成する5事業について、「目標を達成済み」が2事業、「概ね順調に推移」が3事業となっていることから、施策全体として、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		578	1,076	1,493	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(1)担い手育成に関する総合プランを策定し、そのプランに即した事業を実施し担い手育成を図る。	(1)担い手育成総合行動計画策定	進捗率	地域の話し合いに基づき、担い手の育成支援等を目的とした地域農業マスタープラン(人・農地プラン)を策定し、その中で今後の地域農業を牽引する担い手を位置付けた。一方、担い手等育成支援事業については、6団体の他都市樹園地の視察など、自主的な研修に対し支援を行った。以上のことから、総合的な判断は、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標の「担い手等育成支援事業実施者数」は、補助要件の緩和と周知徹底を図り、前年度に比較して大きく伸びているとともに、自主的な研修により担い手の研鑽が図られたことから、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			事業実施者数 10件/年		-	2	6	
			今後の課題	今後も後継者や農業女性を含め、地域農業の担い手が実施する経営改善計画の達成に向けて行う研修等に対し積極的に支援していく必要がある。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(2)りんご農家の後継者を対象に整枝せん定の講習会を開催し、実技と筆記による試験、技術の向上を図る。	(2)農業後継者りんご整枝せん定講習会兼競技会事業	進捗率	講習会兼競技会は平成25年1月22日、市りんご公園を会場に23歳から36歳の農業後継者30人が参加したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「年1回開催、参加者数30名」としており、1月に開催し30名が参加したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。なお、アンケート結果では、参加して技術の向上が「図られた」が60%(30人中18人)「どちらかといえば図られた」が33%(30人中10人)と好評であった。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			年1回開催 参加者数 30名		1回、29名	1回、30名	1回、30名	
			【参考】技術向上が図られた人の割合 参加者数の60%		-	-	60%	
			今後の課題	アンケート結果の様々な意見を踏まえ、可能なものは改善する必要がある。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(3)独身農業後継者と独身女性との出会いの場となる交流会を開催している弘前市青年交流会実行委員会活動を支援する。	(3)弘前市青年交流会実行委員会事業費補助金	進捗率	平成23年度から、交流会の開催数を、これまでの年2回から年3回に増やした。平成24年度は夏の交流会(第1回7月22日)に始まり、秋(第2回9月23日)、冬(第3回25年1月26日)と実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標を「年3回開催 参加者数40名/回」としたが、平均38名参加と概ね40名の実績となったことと、平成23年度の平均29名より上向きとなったことから、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
		B					
		目標		H22	H23	H24	H25
		年3回開催 参加者数 40名/回		－	3回 29名/回	3回 38名/回	
		【参考】参加者数40名/回		－	29名/回	38名/回	
		今後の課題	青年交流会実行委員に平成25年度からの新規事業である独身農業者縁結び事業の会員登録を強く進めており、独身農業者縁結び事業との相乗効果を図りたい。				
実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(4)独身農業後継者に女性に接する際のマナーや自らの意識を改革してもらうための研修会を開催する。	(4)独身農業後継者マナー研修会事業	進捗率	平成24年7月8日に研修会を開催し、全国各地の自治体で講演を行っている講師を招き、異性とのコミュニケーション術や結婚に対する意識改革を図ることなどをアドバイスしてもらったことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標を「年1回開催、参加者数40名/回」としたが、参加者数は22名と少なかったものの、平成23年度の15名より向上していることと、参加者が結婚活動について理解を深めるなど、結婚に対する意識改革につながったことから、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
		B					
		目標		H22	H23	H24	H25
		年1回開催 参加者数 40名/回		—	1回、15名	1回、22名	
		今後の課題	—				
実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(5)農業後継者の自覚を促すとともに女性農業者の地位向上につながる「家族経営協定」の締結を推進する。	(5)家族経営協定締結支援事業	進捗率	平成24年度は、目標の26組に対し、37組が締結したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	平成24年度は、目標の26組に対し、37組が締結したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		家族経営協定の締結家族 26組/年		2組	16組	37組	
		今後の課題	家族経営協定締結数が、ここ2年で大きく伸びた要因は、協定の締結により国の支援を受ける時に有利になる事業があったためである。しかし、平成25年度からは、当該補助事業での有利さが無くなったことにより、締結数の増加に影響が出ることが予測されることから、融資や年金の面など、他のメリットをPRしていく必要がある。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
2-(1)-9	技術習得・就農斡旋・農地情報提供等の支援と遊休農地の解消など農用地利用計画の検討と集落営農や生産法人化のモデル化支援		進捗率	施策を構成する4事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	構成する5事業について、「遅れている」が1事業、「概ね順調に推移」が1事業、「目標を達成済み」が2事業となっていることから、施策全体として、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(1)りんご生産農家の後継者を対象として、生産技術及び経営、経済、農政などの基礎教育を行い、地域のリーダーを育成するとともに、りんご生産技術継承を図る。 また、農業を新たに始めようとする新規就農者に研修の場を提供する。	(1)後継者育成事業 ・りんご基幹青年養成事業 ・りんご病虫害マスター養成事業 ・りんご剪定士養成事業	進捗率	りんご生産農家の後継者育成事業として、各事業を実施していることから、「 工程どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を受講者数としており、りんご病虫害マスター養成事業については、応募者20人全員が受講することができ、目標数の20人に達した。りんご基幹青年養成事業は、平成24年度からの2年間の継続事業となっており、応募者数37人全員が受講することができたが、目標数の46人は達成しなかった。りんご剪定士養成事業は、平成24年度から3年間の継続事業となっており、応募者15名全員が受講することができ、目標数の10人を超えた。 以上のことから、目標及び応募者に対する受講者数を勘案し、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			受講者数 基幹青年 46人/年		30	30	37	
			受講者数 病虫害 20人/年		15	19	20	
			受講者数 剪定士 10人/年		8	8	15	
			決算額		7,545	7,859	9,440	
			今後の課題	基幹青年の受講人数が目標値を下回っていることから、受講者を推薦する支会に呼びかけるなど、目標値達成に向けて取り組む必要がある。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(2)農地の受け手、出し手情報の収集強化と積極的な公表を通じて、農地の集積を促進する。	(2)-1農地流動化情報提供事業	進捗率	農地の「売りたい・貸したい」「買いたい・借りたい」の情報について、年間を通して広報紙「農業ひろさき」及び市ホームページに掲載しており、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標を流動化情報の提供回数「農業ひろさき12回/年」及び「市ホームページ通年」とし、いずれの目標も達成していることから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		農地流動化情報の提供回数 農業ひろさき 12回/年		-	12回/年	12回/年	
		農地流動化情報の提供回数 市ホームページ 通年		-	通年	通年	
		決算額		0	0	0	
		今後の課題	目標が情報の提供回数であり、流動化の現状がつかみにくいので、より適切な目標を検討する必要がある。				
	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(2)-2耕作放棄地解消モデル事業	進捗率	耕作放棄地を新たな担い手へ引き継ぐため、農業委員自らが農機具等を持ち寄り、遊休農地の再生を行う事業で、平成24年度は2か所0.45ヘクタールを再生したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標を「放棄地解消面積 1ヘクタール/年」としているが、0. 45ヘクタールに終わったことから、「 遅れている 」と評価した。しかし、農業委員自らが農地の再生を行うことにより、農業委員活動の「見える化」に寄与するとともに、多くのメディアに耕作放棄地問題が取り上げられ、問題が一般に浸透したことにより、弘前市耕作放棄地防止対策検討委員会の立ち上げにつながった。				
		C					
		目標		H22	H23	H24	H25
		放棄地解消面積 1ヘクタール/年		-	-	0.45	
		決算額		0	0	224	
		今後の課題	事業を通じて、農業委員自らが活動することで、実際の耕作放棄地の解消ばかりではなく、「見える化」によるPR効果も大きいことが分かった。今後も、弘前市耕作放棄地防止対策検討委員会での議論を通じて、国・県・民間の事業等も活用して取り組んでいく必要がある。しかし、耕作放棄地の解消には地域との連携が不可欠であり、現在の事業内容や目標値の見直しも含めて検討して、発生を未然に防止する仕組み作りをする必要がある。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(3)農協及び関係団体と連携しながら専門家の活用等への支援により、集落営農組織(※7)等の法人化推進を図る。	(3)集落営農法人化等支援事業	進捗率	法人化に向けて取り組む個人、集落営農組織の自主的な研修を支援する事業について、前年度から引き続き整備した。また、新たに、設立直後の農業法人が行う活動を支援する事業についても整備したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	2団体が法人を設立したことから、法人化した集落営農組織等は9となり、平成24年度までの累計目標数6を達成したことから、「 目標達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		集落営農組織の法人化数合計 10経営体 3経営体(H23)、6経営体(H24),10経営体(H25)		-	7経営体	9経営体	
		決算額		-	70	0	
		今後の課題	農業法人の設立は、安定的な農業経営により地域農業の維持振興と同時に、新たな雇用の受け皿として重要な役割を担い、農業後継者の確保が図られることから、今後も農業経営体の法人化に向けた取組みを促進する。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容						
2-(1)-10	農産物の地域ブランド化の推進、弘前ブランド認証制度の導入	地元農産物をブランド化することにより全国的に認知度を高める。 また、弘前商工会議所では津軽塗りや津軽打刃物、津軽こぎん刺しなどの商品をブランド化していることから、農産品についてもブランド化するよう連携して取り組む。	進捗率	地元農産物の価値や魅力を再評価し認知度を向上させるために、地域ブランド推進事業を実施したとともに、農産物のブランド化に取り組む団体との情報交換などを行ったことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。						
			A							
			達成率	2種類の農産品について、全国的に認知度を高めるための一つの手段であるホームページの開設・リニューアルに対する支援を実施したことにより、地域ブランド化の推進が図られたことから、「 目標を達成済み 」と評価した。						
			A							
		目標			H22	H23	H24	H25		
		ブランド化する農産品の数 1種類/年			－	1	2			
		事務事業名			決算額		0	300	600	
		弘前地域ブランド推進事業		今後の課題	ブランド化する農産物の規格設定、加工品の改良・開発及び販路開拓に強い専門家との連携が必要である。					

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
2-(1)-11	新品種開発とマーケティングの連動・強化、二次加工品の高付加価値化の支援		進捗率	新品種開発に向けた取組みとして「弘前市りんご新品種開発推進事業費補助金」交付要綱を制定し、支援体制を整備したほか、りんご加工品の高付加価値化については、商工労政課と連携し、農商工連携促進補助事業を実施していることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	新品種開発「目標」を10年間に1種類とし、事業継続している。また、高付加価値化した加工品数が「目標」である年1種類を達成（アップルペクチン顆粒）したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		0	796	906	
	実施内容	事務事業名	進捗率	「弘前市りんご新品種開発推進事業費補助金」交付要綱を制定し、農業者団体へ補助交付したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
	農業者の所得向上のために、弘前大学・県のりんご研究所・りんご協会等と連携して、マーケティングと連動した新品種開発に取り組む。 また、二次加工品高付加価値化のために、アドバイスできる企業の紹介などの支援を行う。	りんご新品種開発等支援事業	A					
			達成率	目標を「平成25年度までに新品種開発数1件」としていることから、達成率の評価は平成25年度で行う。				
			-					
			目標		H22	H23	H24	H25
			新品種開発数 1件 (H25)		-	-	-	
			【参考】新品種開発 1種類/10年間		-	-	-	
			今後の課題	補助事業は継続して行くが、新品種開発までは相応の期間を要すると考えられる。				
	事務事業名	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
		農商工連携促進事業	進捗率	農商工連携や6次産業化に取り組む事業者に対して、アドバイスやコーディネートを行う専門家派遣事業を実施したことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	「アップルペクチン顆粒」を商品化したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			高付加価値化した加工品数 1種類/年		-	1	1	
			今後の課題	農商工連携や6次産業化に関心のある事業者が増えてきていることから、今後も引き続きコーディネーターを配置していく必要がある。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
2-(1)-12	学校給食への地元産品の利用促進	市と農業生産団体及び販売業者等と連携を図り、供給時期、供給数量等について、情報を交換しながら、学校給食への安定的な供給を促進する。	進捗率	食材ごとの青森県産流通一覧表を基に、青森県産指定を増やすとともに、納入業者へ県産食材を使用した加工品の開発を依頼するなどして、積極的に地元産品を使用した。さらに、平成24年11月のふるさと産品給食の日には、弘前産を中心とした県産100%の賄材料による給食を実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	米やりんごについては弘前産を継続しながら、りんごの使用回数については目標を大きく上回る回数を、野菜等の地元産品使用率について前年度より上回っていることから、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			米、りんご100%弘前産(継続実施)		100%	100%	100%	
			りんごの使用回数を月1回→2回程度		－	6.8	8.6	
			野菜等の地元産品の使用率 90%		60.70%	67.20%	71.20%	
			【参考】野菜等の地元産品の使用率(青森県内で収穫できるもののみ) 90%		82.10%	82.90%	87.00%	
		事務事業名	決算額		0	646	1,273	
		学校給食賄材料地元産品利用促進事業	今後の課題	冬期間は、青森県産食材の収穫がないことから、生鮮野菜を中心に他県産が流通している。そのため、冷凍加工できる食材は県産指定できるが、キャベツ、白菜など冷凍加工できない食材は、他県産を使用せざるを得ない状況である。また、冷凍加工品についても、収穫量が少ないと途中で欠品が生じることから、他県産を使用せざるを得ない。 さらに、給食専用としての冷凍等の加工は、少量であることから高額となりやすく、給食費の中で対応できない可能性もある。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
2-(1)-13	米粉製粉場整備の誘導による米の消費拡大促進	米の消費拡大のために、学校給食への米粉パンの導入を促進するほか、市内パン・菓子製造業者が米粉パン等を製造する場合の米粉と小麦粉の購入差額に対する一部補助を行う。 また、米粉料理教室を開催し、家庭料理に広く普及させるための周知活動を行う。	進捗率	弘前産米を原料とした米粉の需要を増加させるための事業に対して、米粉需要アップ促進事業費補助金を交付するとともに、学校給食への米粉パン利用促進策を検討したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	学校給食への米粉パン導入や菓子等製造業者に米粉使用に係る支援策等を周知したほか、米粉料理教室を開催するなど、米の消費拡大を図ったが、目標の「新規需要米(米粉用米)」作付面積は達成できなかったため、「 遅れている 」と評価した。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			「新規需要米(米粉用米)」作付面積(累計) H23 5ha H24 15ha H25 30ha		－	0	1.5	
		事務事業名	決算額		2,973	609	590	
		米粉需要アップ促進事業	今後の課題	米粉については、目標設定時に小麦の代用原料としての活用が大きく期待されたが、小麦に比べて価格が割高であるほか、米粉のメリットや調理方法などが浸透せず、現在は、全国的にみても消費の伸び悩みが顕在化している。 今後は、学校給食への米粉利用をより一層働きかけるとともに、企業との連携を模索し、生産者の収入がある程度確保できる価格で、大規模に栽培することが可能かどうか探っていく必要がある。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
2-(1)-14	冬の農業の育成強化、農商工連携(※6)による農業経営支援		進捗率	施策を構成する2事業について、それぞれ「工程表とおり実施済み」となっており、施策全体としては、総合的に勘案して、 「工程表とおり実施済み」 と評価した。				
			A					
			達成率	施策を構成する2事業について、それぞれ「目標を達成済み」となっており、施策全体として 「目標を達成済み」 と評価した。				
			A					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(1)野菜・花きの栽培施設及び集出荷施設の整備等に対する支援を継続するとともに、安定して供給できるよう販路開拓の支援を行う。	(1)野菜・花き産地育成事業	進捗率	野菜・花きの生産、冬期における施設栽培等の振興を図るため、施設整備に関して5団体への支援を実施するとともに、各種セミナーへの参加、関係機関との情報交換を実施したことから、 「工程表とおり実施済み」 と評価した。				
			A					
			達成率	事業実施主体数5団体を支援し、パイプハウスを整備した個人1名及び暖房機を設置した個人1名は、冬期間の施設栽培が可能となったことから、 「目標を達成済み」 と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			事業実施主体数 5団体/年		3団体	1団体	5団体	
			【参考】事業実施主体数 5戸/年		12戸	1戸	7戸	
			決算額		4,016	160	2,292	
			今後の課題	冬期間は、燃油の価格高騰等により、暖房費など栽培コストがかかるとともに、栽培品目も限られることから、栽培より加工品の製造・販売に力点を移すことも視野に入れながら、専門家と連携のうえ検討していくことが必要である。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(2)農商工連携による農業経営支援のために、各種補助金等の活用できる事業の掘り起こしに努め、広報・ホームページ等で周知を図る。	(2)農業経営情報提供事業	進捗率	国や県で実施している農業経営発展に向けた補助金や融資制度等の情報の収集し、認定農業者等に直接提供を行うとともに、広報誌や市ホームページ内にて、補助金制度等についての周知に努めたことから、 「工程表とおり実施済み」 と評価した。				
			A					
			達成率	市ホームページ内にて、農業経営発展にむけた補助金や融資制度等の情報を掲載し、通年運営したことから、 「目標を達成済み」 と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			市ホームページ 通年		-	通年	通年	
			【参考】補助事業活用件数 30件/年		-	20	28	
			決算額		0	0	0	
			今後の課題	今後も地域農業の担い手が農業経営改善のために活用できる補助金、融資制度等について、積極的に周知していく必要がある。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
☆ 2-(1)-15	りんご販売促進活動		進捗率	施策を構成する2事業について、それぞれ「行程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	構成する2事業について、「目標を達成済み」が1事業、「遅れている」が1事業となったが、国内対策としてPR活動回数及び、イベントに付随する弘前アップルウィーク開催店舗数が伸びているとともに、各国輸出規制も徐々にではあるが緩和されつつあることから、総合的に勘案し、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		7,000	68,160	30,000	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	国内の消費拡大のため、りんごのPR活動の展開を図る。	(1)国内対策	進捗率	東京、山口、大阪、函館、福岡、北九州、札幌、名古屋、仙台でのPR活動イベントを予定し、更に群馬県太田市を加えた全10エリアでのPR活動を実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「PR活動イベント開催 4回実施/年」としているが、それを上回る、10回/年PR活動イベントを開催したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			PR活動イベント開催 4回実施/年		3	9	10	
			【参考】弘前アップルウィーク開催店舗数 500店舗/年		-	453	603	
			今後の課題	弘前アップルウィーク開催店舗数の維持とともに、未来の消費層を育てるための食育的な要素を含んだPR活動、並びに企業への販促活動など、内容の充実が必要である。また、PR活動実施エリアについても再検討が必要である。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	海外におけるりんご消費拡大のため、青森県等と連携し、放射性物質に関する輸出規制等の撤廃に向け、政府機関等への働きかけを実施する。	(2)国外対策	進捗率	青森県へ各国輸出規制解除に向けた国への働きかけについて要望書を提出するとともに、国外でのPRとして、台南市におけるりんご販促キャンペーンを実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	要望書の提出や国外でのPRなどを実施し、規制対象となっている地域等が平成24年4月時点の47か所から38か所に着実に減少していることから、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			各国の輸出規制を震災前の状態に戻す。		-	-	-	
			今後の課題	青森県等と連携した国への働きかけ及び国外でのPR活動の継続が必要である。				

約束 2- (2) ひろさき農業・産業おこしに取り組みます【観光振興】

めざす姿

東北新幹線新青森駅開業や弘前城築城 4 0 0 年祭などを契機に、交流人口が増加することによって、観光関連産業が活性化し、雇用拡大が図られます。

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名		取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値				H24目標値 に対する 達成率	H25目標値 に対する 達成率
					22	23	24	25		
①	観光入込客数 500万人を目指します。（約10%増）	業務取得	万人	455. 1	-	-	450. 0	500. 0	○	—
					455. 1	413. 8	450. 8			
	行祭事・イベント観光入込客数550万人を目指します。（約13%増）	業務取得	万人	485. 3	-	-	490	550	×	—
					485. 3	459. 1	437. 5			
②	宿泊者数42万人を目指します。（約27%増）	業務取得	万人	33	-	-	36	42	×	—
					33	32. 9	33. 4			
	【参考】AP2013指標 宿泊者数65万人を目指します。（約27%増）	業務取得	万人	51	-	-		65		
					51. 4	50. 6	52. 5			
③	観光消費による経済波及効果額 530億円を目指します。（30%増）	業務取得	億円	408. 07	-	480. 00	480. 00	530. 00	—	—
					-	-				
④	外国人宿泊者数 6, 400人を目指します。（約77%増） ※括弧書きは「東アジア圏（中国、韓国、台湾）宿泊者数」	業務取得	人	3, 620	-	-	4, 800	6, 400	×	—
					3, 620	1, 904	3, 278			
					※(1, 473)	※(1, 070)	※(1, 708)		×	—
⑤	県内外物産展売上額 3億円を目指します。（29. 3%増）	業務取得	億円	2. 32	2. 4	2. 6	2. 8	3	×	—
					2. 35	2. 05	2. 00			

H24目標値に対する達成率 ○：目標を達成済み ×：目標を達成できない —：判断できない
H25目標値に対する達成率 ○：目標を達成済み —：目標を達成できない・判断できない

関連指標名	取得方法	単位	上段：数値取得時期 下段：取得数値					
市独自の調査による宿泊者数（推計値）の推移 ※上記のAP2013指標と同じ	業務取得	万人	H19	H20	H21	H22	H23	H24
			43. 1	39. 5	46. 1	51. 4	50. 6	52. 5

約束全体の評価

めざす姿の達成状況を示す5項目6指標のうち、現時点で実績値を取得できない「観光消費による経済波及効果額」を除き、注目指標である「観光客入込数」では目標を達成することができましたが、もう一つの注目指標である「行祭事・イベント観光入込客数」、「宿泊者数」、「外国人宿泊者数」、「県内外物産展売上額」の4項目では目標を達成できませんでした。しかしながら、「行祭事・イベント観光入込客数」については、新たに開催した「弘前りんご博覧会」等のイベントへの入込客数を加えると、観光入込客数は489万人とほぼ目標を達成しており、また、外国人宿泊者数については、重点地域として取組みを強化してきた東アジア圏からの宿泊者数は、東日本大震災前の水準を上回りました。

個別施策の実施状況については、「進捗率」ではすべての項目が「工程表どおり実施済み」で、施策全体として「工程表どおり実施済み」と評価できます。また、「達成率」は「判断できない」1項目を除き、7項目が「目標を達成済み」、4項目が「順調に推移」、1項目が「遅れている」と評価しました。

東日本大震災により当市の観光は大きな打撃を受けましたが、団体旅行から個人・グループの体験型旅行へという観光の形態の変化に対応し、「弘前感交劇場」をキーワードに、街歩きを中心とした着地型観光の充実、インバウンド対策の強化、広域観光の推進及び秋・冬観光の充実など年間を通じた観光客の誘客を図るための取組みを行ってきた結果、指標の多くは、目標とした数値には届かなかったものの東日本大震災前の水準に回復することができたことから、総体的には概ね順調であると考えます。

今後も社会状況の変化に的確に対応しながら、観光振興アクションプログラムに基づき効果的な施策を展開することで、観光関連産業の活性化及び雇用の創出を図っていきます。

個別施策の実施状況				
項目		事務事業数	進捗率	達成率
【観光を起爆剤に“ひろさき産業（しごと）おこし”に取り組みます】				
○1	観光振興推進部局の設置、観光振興アクションプログラム策定と観光関連予算の増額	2	A	A
【「3つの世界一（りんご、さくら、白神山地）」と「四大まつり」などの魅力を国内外に発信して、世界中の人が訪れる“国際都市H I R O S A K I”をつくります】				
	○2 首都圏で各種メディアに弘前を売り込む専任チーム（在東京）の設置	1	A	－
	○3 世界自然遺産白神山地の玄関口としての発信強化	1	A	B
	●4 国内外のマスコミや旅行エージェントのキーパーソンを招へいし効果的な誘客活動を展開	1	A	C
	●5 近隣市町村との連携による首都圏での物産販売・観光P R機能の強化	4	A	A
	●6 マーケットが急拡大している中国など東アジアからの誘客活動を本格展開	1	A	B
	●7 映画、ドラマ、テレビC Mの撮影誘致（フィルムコミッション）のトップセールス	1	A	A
	●8 ねふた祭りなどの更なる誘客や街全体への波及を促進	5	A	B
【受入態勢を整備して、“また来たい、住みたい弘前”をつくります】				
	●9 農村“楽園づくり”による大都市圏在住者の移住支援や二地域居住を促進	2	A	A
	●10 観光ホスピタリティ運動（交通事業者、市民など一体化）と観光資源市民研修の強化	1	A	B
	●11 弘前観光情報の一元化（ポータルサイトの構築、中国語などの拡充）	1	A	A
	●12 新幹線新青森駅からの誘客のための二次交通の充実	1	A	A
	☆13 弘前シティプロモーション推進事業（都市の魅力度向上活動）	1	A	A

進捗率 A:工程表どおり実施済み B:概ね工程表どおり C:工程表より遅れている -:未着手
達成率 A:目標を達成済み B:順調に推移 C:遅れている -:判断できない

上段：年度別概算所要額（単位：千円）／下段：年度別決算額（単位：千円）			
22年度	23年度	24年度	25年度
75,260	169,541	99,491	103,942
69,391	150,894	209,309	

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
2-(2)-1	観光振興推進部局の設置、観光振興アクションプログラム策定と観光関連予算の増額		進捗率	施策を構成する2事業について、いずれも「工程表どおり実施済み」との評価になったことから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	施策を構成する2事業のうち、1事業については目標を設定していないことにより判断できず、1事業は「目標を達成済み」と評価したことから、施策全体として総合的に勘案し、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(1)「観光局」を設置し、観光振興の充実を図る。	観光局設置	進捗率	平成22年7月に「観光局」を設置し、以降引き続き観光振興の充実に取り組んでいることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	組織の設置であり、目標を設定していない。				
			-					
			目標		H22	H23	H24	H25
			-		-	-	-	
			決算額		0	0	0	
			今後の課題	平成25年4月の市の機構改革により「観光振興部」となり、いっそうの観光振興の充実に取り組んでいる。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(2)様々な観光振興策を戦略的に実行するために、アクションプログラムに基づいた取り組みを着実に実施する。	観光振興アクションプログラム推進事業	進捗率	「弘前市観光振興アクションプログラム」に基づいた55のプロジェクトは、すべて平成24年度までに取組みに着手したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「関係機関との検討会議開催24回/年」としているが、40回開催したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			関係機関との検討会議開催 24回/年		24回	40回	40回	
			決算額		473	0	0	
			今後の課題	「弘前市観光振興アクションプログラム」は平成25年度が取組みの最終年度となることから、平成26年度以降の計画の策定について検討する。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
2-(2)-2	首都圏で各種メディアに弘前を売り込む専任チーム(在東京)の設置	首都圏で各種メディアに弘前を売り込む専任チーム(在東京)を設置し、国内外へのPRを強化する。	進捗率	平成22年10月1日付で観光物産課及び商工労政課に各1名増員し、青森県東京事務所内に在東京チームを派遣・設置し、以降引き続き国内外へのPR強化に取り組んでいることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	組織の設置であり、目標・活動指標を設定していない。				
			-					
			目標		H22	H23	H24	H25
			-		-	-	-	
		事務事業名	決算額		4,520	5,815	5,428	
		在東京チーム設置	今後の課題	平成26年4月以降の派遣・設置について、県との調整が必要である。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
2-(2)-3	世界自然遺産白神山地の玄関口としての発信強化	世界自然遺産白神山地を観光資源として活用するために、情報発信、受け入れ態勢の整備、環境観光の推進、交通対策、機運の醸成等の事業を実施する。 なお、事業実施にあたっては、県、関係市町村及び弘前大学等と連携して行う。	進捗率	環白神エコツーリズム推進協議会の準会員から正式会員となり、各種会議や環白神地域フォーラム、白神山地世界遺産登録20周年キックオフフォーラムを主催者と共同で実施したほか、青森県と連携し、観光案内板をリニューアルした。また、「環境配慮型シャトルバス運行実施に向けた調査・検討」等については、西目屋村におけるナビチャリの導入等を検討した。よって全体的には気運の醸成に積極的に取り組んだことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標のうち、「白神山地ビジターセンター入館者数」については平成24年度は54,361人と目標を達成していないが、東日本大震災前の入館者数までほぼ回復していること、及び「フォーラム開催回数」は目標を達成していることから、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			白神山地ビジターセンター入館者数 70,000人(H25) 60,000人(H22)、62,000人(H23)、65,000人(H24)		56,913人	39,847人	54,361人	
			フォーラム開催回数(H25) 1回		-	1回	2回	
			【参考】白神山地関連入込客数 810,000人(H25)		739,745人	570,967人	集計中	
		事務事業名	決算額		0	34	533	
		白神山地観光活用推進事業	今後の課題	平成25年12月に迎える世界遺産登録20周年を記念し、各種記念事業を関係団体と連携しながら実施することにより、白神山地の価値の創造と魅力の発信に努め、更なる白神山地のブランド化に取り組む。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
2-(2)-4	国内外のマスコミや旅行エージェントのキーパーソンを招へいし効果的な誘客活動を展開	在東京チームと連携しながら、キーパーソン・アドバイザーの招へいに加え、メディアや旅行エージェントを対象にしたモニターツアーを実施し、当市の観光旅行商品の造成や露出度向上を図る。	進捗率	平成24年度は、弘前感交劇場公開講座を2回開催したほか、キーパーソン、アドバイザーの招へいを行うとともにメディア、旅行エージェント対象のモニターツアーを実施していることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「キーパーソン、アドバイザーの招へい10人」、「メディア、旅行エージェント対象のモニターツアー実施20人」としたが、いずれも目標を達成できなかったことから、「 遅れている 」と評価した。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			キーパーソン、アドバイザーの招へい 10人/年		18人	2人	5人	
			メディア、旅行エージェント対象のモニターツアー実施 20人/年		-	8人	11人	
		事務事業名	決算額		412	486	1,176	
		弘前感交劇場推進事業	今後の課題	引き続きキーパーソン等の招へい、旅行エージェント等を対象としたモニターツアーを実施するが、効果が見えづらい事業であることから、招へい者等の選定にあたって十分な検討が必要である。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
2-(2)-5	近隣市町村との連携による首都圏での物産販売・観光PR機能の強化		進捗率	施策を構成する4事業について、いずれも「工程表どおり実施済み」と評価したことから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	施策を構成する4事業について、いずれも「目標を達成済み」と評価したことから、施策全体としても「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		5,479	54,296	27,122	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	近隣市町村との連携による広域での観光・物産の振興のために、物産展、特産品見本市、観光キャンペーンを拡充実施するとともに、新規市場開拓を積極的に進める。	(1)津軽広域観光圏協議会事業（津軽14市町村）	進捗率	圏域の魅力を発信するためのモニターツアーや写真コンテスト、他都市での観光PRを実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「圏域観光PR」としているが、モニターツアーを4回、写真コンテストを1回、観光PRを1回、合計6回実施したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			圏域観光PR 4回/年		4回	4回	6回	
			【参考】津軽広域観光圏域観光客入込客数 12,800千人(H25)		11,713千人	10,216千人	集計中	
			今後の課題	広域連携への取り組みの先駆けとして存在する当協議会の再活性化を図り、重層的な広域観光施策の立案に向けたPRや調査などを様々な場面を捉えて行っていきたい。(H25 HPリニューアル予定)				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
近隣市町村との連携による広域での観光・物産の振興のために、物産展、特産品見本市、観光キャンペーンを拡充実施するとともに、新規市場開拓を積極的に進める。	(2)物産と観光展事業(弘前・八戸物産協会共催、弘前市単独)	進捗率	平成24年度では、物産展県外催事15回、県内催事4回、友好都市催事4回の計23回(うち7か所が新規)開催したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	「物産展開催回数20か所/年」を目標としたが、23か所で開催したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		物産展開催回数 20か所/年		21か所	22か所	23か所	
		【参考】内外物産展売上額 3億円/年		2.35億円	2.05億円	2.00億円	
		今後の課題	催事は会場の都合により開催の可否が左右されるため、今後さらに新規催事を開拓し、毎年20か所以上の催事開催に努めながら売り上げ増を目指していく。				
	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(3)広域連携観光キャンペーン事業(津軽南、秋田県北連携)	進捗率	事務事業を構成する「定住自立圏共生ビジョン」に基づいた事業、秋田内陸線・奥羽北線沿線連絡協議会、津軽広域観光プロモーション協議会、秋田プレDCの4事業のうち、「定住自立圏共生ビジョン」事業については弘前圏域定住自立圏協議会を設立し、他の3事業ではキャンペーンを実施していることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標を「キャンペーン実施」としているが、秋田内陸線・奥羽北線沿線連絡協議会、津軽広域観光プロモーション協議会、秋田プレDCにおいて、14か所でキャンペーンを実施したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		キャンペーン実施(H24～) 10か所/年		—	—	14か所	
		【参考】観光入込客数 5,000千人(H25)		4,551千人	4,138千人	4,508千人	
		今後の課題	当市のみならず、近隣市町村の観光入込客数の増加につながるよう広域連携事業に取り組んでいく。				
	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(4)函館との広域連携観光キャンペーン	進捗率	平成25年3月30日に函館市・弘前市に、青森市・八戸市を加え「青函圏観光都市会議」を設立し、青函圏の広域連携を図る体制をより一層強化したほか、JRによる函館・弘前間直通列車の運行や、民間レベルでの交流も活発化していることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標を「キャンペーン実施」としているが、函館グルメサーカス、はこだてクリスマスファンタジーひろさきナイトなど函館市関連イベントに4回参加し、PR等を実施したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		キャンペーン実施(H24～) 3回/年		—	4回	4回	
		【参考】観光入込客数 5,000千人(H25)		4,551千人	4,138千人	4,508千人	
		今後の課題	今後は商品造成等、具体的な誘客促進策が必要。				

No.	項目	項目	自己評価	平成24年度実施内容				
2-(2)-6	マーケットが急拡大している中国など東アジアからの誘客活動を本格展開	外国人旅行者の誘客大幅拡大のために、県や関係事業者等と連携して、中国、韓国をはじめとする東アジアでのトップセールス等によるプロモーションや旅行代理店招へい事業、モニターツアーなど、誘客活動を実施する。 また、市内の施設の外国語表記を進めるなど、受入態勢の整備を推進する。	進捗率	次のとおり海外プロモーション及び受入環境整備を実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。 【海外プロモーション】 ・重点地域である中国・韓国・台湾においてプロモーションを実施したほか、旅行会社を訪問し商談会に参加した。 ・国・県などと連携し、旅行エージェントを招へいした。 ・中国に加え、台湾における観光物産コーディネーターを新たに委嘱した。 ・県・函館市などと連携し、当市を立寄先に含むモニターツアーを実施した。 ・中国・新華社運営のホームページ「日本大観」に当市のPR動画を4本掲載した。 ・韓国ドラマロケを実施した。 【受入環境整備】 ・民間事業者が行う受入環境整備事業に対し補助した。 ・観光パンフレットを増刷した。 ・外国人観光客受入れのためのおもてなしセミナーを県が開催した(3回)。 ・弘前感交劇場HP外国語版の運営を開始した。				
			A					
			達成率	H24の外国人宿泊者数の目標値は4,800人であるのに対し、実績値は3,278人であり、目標値のおよそ7割だったが、重点地域である東アジア圏(中国・韓国・台湾)の宿泊者数に限ってみればH23比較では1.6倍となったことから、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			東アジア圏(中・韓・台)観光客入込数 80,000人(H25) 25,000人(H23)、50,000人(H24) ※下記の宿泊者数に自動的に相関する指標であるため、AP2013からは採用せず。また、H24については、当該数値算出の基礎となる旧方式での観光入込客数が算出されていないため、取得不能。		21,674人	14,217人	—	
			東アジア圏(中・韓・台)宿泊者数 5,000人(H25) 2,000人(H23)、3,500人(H24) ※「推計値」を含む数値であり、AP2013からは採用せず。		1,603人	1,114人	1,792人	
			【参考】東アジア圏(中国・韓国・台湾)宿泊者数 2,300人(H25) 【推計値含まず】 ※2013からは「推計値」を含まない本指標のみ採用		1,473人 【基準値】	1,070人	1,708人	
		事務事業名	決算額		1,520	9,071	23,504	
		インバウンド対策事業	今後の課題	当市への更なる外国人観光客の宿泊促進に向け、官民一体となった取組みが求められている。				

No.	項目	項目	自己評価	平成24年度実施内容				
2-(2)-7	映画、ドラマ、テレビCMの撮影誘致(フィルムコミッション)のトップセールス	映画等の撮影を誘致し、各種メディアへの露出度向上による、誘客拡大のために、次の取り組みを行う。 ・弘前が舞台である小説等の作品を選考のうえ映画化 ・撮影補助制度の導入(TVドラマ、CM等の撮影経費を補助)	進捗率	新たな作品(弘前が舞台である小説等)の映画化については候補作品の選考がなされていないが、映像作品撮影事業費等補助金を2件交付したほか、映画やドラマ、旅番組などのロケが多数行われたことから、 「工程表どおり実施済み」 と評価した。				
			A					
			達成率	目標とした「映画誘致数」「ドラマ、CM撮影数」とも目標を達成したことから、 「目標を達成済み」 と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			映画誘致数(H25年度) 1本/年		4本	2本	2本	
			ドラマ、CM撮影数(H23～H25) 各5本/年		2本	8本	5本	
		事務事業名	決算額		49	3,072	2,000	
		弘前フィルムコミッション推進事業	今後の課題	現在決定している映像作品の撮影予定がないため、映画、ドラマ等の撮影誘致を積極的に行う必要がある。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
			進捗率	施策を構成する5事業について、すべて「工程表どおり実施済み」となっていることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
2-(2)-8	ねふた祭りなどの更なる誘客や街全体への波及を促進		A					
			達成率	施策を構成する5事業について、すべて「概ね順調に推移」となっていることから、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			観光入込客数(H25) 5,000千人 4,500千人(H24)		4,551千人	4,138千人	4,508千人	
			行祭事・イベント観光入込客数(H25) 5,500千人 4,900千人(H24)		4,853千人	4,591千人	4,375千人	
			【参考】まち歩き参加者数 1,200人		883人	992人	952人	
			決算額		47,781	46,967	97,507	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	旅行エージェントへの商品造成に向けたキャラバンや首都圏を始めとしたキャンペーン等による全国へのPR活動を強化し、誘客に努める。 また、弘前城築城400年を機に、改めて地域のまつりとしての四大まつりに市民参加を呼びかけるほか、通年観光に向けた取り組みとして400年祭事業の一部継続を検討するほか、街歩き観光を推進する。	(1)宣伝広告事業	進捗率	首都圏等におけるPR強化については、県や県観光連盟と連携し、キャンペーンやキャラバン、旅行エージェント訪問など積極的に実施した。雑誌等への広告掲載についても、費用対効果を念頭に置きながら効果的に実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標のうち、「行祭事・イベント入込客数」は目標を達成できなかったが、「観光入込客数」は目標を達成したことから、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			今後の課題	よりPR効果を高めるため、キャンペーン等の実施、広告等の掲載にあたっては、地域性、タイミングを考慮し、事業を進めていく。				
		事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(2)四大まつり事業		進捗率	四大まつりへの市民参加を呼びかけたほか、弘前城築城400年祭事業として実施したねふたまつりのなぬか日スペシャル(平成24年度事業名:なぬかびおくり)、菊と紅葉まつりのデジタル掛け軸、雪燈籠まつりの津軽錦絵大回廊を継続して実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標のうち、「行祭事・イベント入込客数」は目標を達成できなかったが、「観光入込客数」は目標を達成したことから、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			今後の課題	四大まつりについては、守るべき伝統は守りながら、時代に応じた変化を取り入れることでまつりの更なる振興を図るとともに、まつり運営に対する市の関わり方等を検討していく。				

旅行エージェントへの商品造成に向けたキャラバンや首都圏を始めとしたキャンペーン等による全国へのPR活動を強化し、誘客に努める。 また、弘前城築城400年を機に、改めて地域のまつりとしての四大まつりに市民参加を呼びかけるほか、通年観光に向けた取り組みとして400年祭事業の一部継続を検討するほか、街歩き観光を推進する。	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容
	(3)観光振興事業	進捗率	街歩きについては、第2回となる日本まちあるきフォーラムを当市で開催したほか、街歩きガイドツアー「弘前街歩き」を62コースで実施した。また、弘前駅にぎわい創出事業、ライトアップ推進事業（青森銀行記念館）等により通年観光の充実に向けた取り組みを行ったことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。
		A	
		達成率	目標のうち、「行祭事・イベント入込客数」は目標を達成できなかったが、「観光入込客数」は目標を達成したことから、「 概ね順調に推移 」と評価した。
		B	
		今後の課題	着地型旅行商品の造成及び販売に向け、各観光施設や交通事業者エージェント等と調整を図っていく必要がある。
	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容
	(4)（仮称）弘前りんご秋まつり	進捗率	弘前城菊と紅葉まつり、弘前・白神アップルマラソン、津軽の食と産業まつりなどの既存の事業に、りんご音楽祭、りんごハロウィン、まちなかりんご装飾などの新たな事業を加え、「弘前りんご博覧会」として実施し、秋期の誘客を図ったことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。
		A	
		達成率	目標のうち、「行祭事・イベント入込客数」は目標を達成できなかったが、「観光入込客数」は目標を達成したことから、「 概ね順調に推移 」と評価した。
		B	
		今後の課題	前年度の開催状況・結果をもとに事業内容の改善を図り、秋期の誘客、通年観光の充実につなげていく必要がある。また、次年度に向けて、民間主導でも開催可能な事業展開を検討していく。
	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容
	(5)冬を彩る光のまちづくり事業	進捗率	従来のイルミネーションに加え、追手門広場の光のオブジェの設置、サーチライトによる光の御柱、カクテル光によるライティングボールなど新たな手法による演出で美しく楽しい冬の情景を創出し、冬期の誘客を図ったことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。
		A	
		達成率	目標のうち、「行祭事・イベント入込客数」は目標を達成できなかったが、「観光入込客数」は目標を達成したことから、「 概ね順調に推移 」と評価した。
		B	
		今後の課題	前年度の開催状況・結果をもとに事業内容の改善を図り、冬期の誘客、通年観光の充実につなげていく必要がある。

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
2-(2)-9	農村“楽園づくり”による大都市圏在住者の移住支援や二地域居住(※8)を促進		進捗率	施策を構成する2事業について、どちらも「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	施策を構成する2事業について、それぞれ「目標を達成済み」との評価になっていることから、施策全体としても「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		0	3,619	3,673	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	交流人口の拡大を図るために、団塊の世代の定年退職者等をターゲットに、農村地帯の良さを体感するモニターツアー等を実施する。 また、移住や居住に向けた就労や住居などの情報提供や相談対応を強化する。	(1)弘前まるごと体感事業	進捗率	平成24年度はモニターツアーを実施することとしており、交流人口の拡大や移住・就農の意識の醸成を図るため、平成24年10月に「まるっとひろさき体験ツアー」を実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「体感事業参加者数」としており、目標を上回ったため、「 目標を達成済み 」と評価した。農業に対する様々な想いを持つツアー参加者は、農家民泊や農業体験を通じて農村生活を体感した。農業への理解を深めた参加者は、移住には至っていないものの、グリーンツーリズム受入農家との交流や首都圏での農産物販売を実践し、弘前の魅力を発信する取組みを継続して行っている。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			体感事業参加者数 20名		—	19名	21名	
			今後の課題	ツアー参加者の中には単に観光や農村との交流を目的として参加していると思われる参加者も見受けられることから、参加者の意識が事業の趣旨に沿ったものであるのか判断できるような工夫が必要である。				
		事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
		(2)空き家等情報提供事業	進捗率	平成24年3月に情報提供体制が完成し、以降は継続して運用していることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	平成24年3月に通年運用体制整備後は、これを継続して運用していることから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			空き家等情報市ホームページ 通年運用		—	通年運用	通年運用	
			【参考】空き家等情報発信件数 5件/年		—	—	0	
			今後の課題	平成24年度は「農業ひろさき」に記事を掲載して希望者を募ったが、情報が寄せられなかったことから、細やかな情報収集と目に留まりやすい情報提供のための工夫が必要である。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
2-(2)-10	観光ホスピタリティ運動(交通事業者、市民など一体化)と観光資源市民研修の強化	市民全体で観光振興を図るために、次の取り組みを行う。 (1)ホスピタリティ運動 ・広報等による市民意識の醸成(まち歩きコースの連載) ・関係者による情報共有、意見交換の定期的な開催(やわらかネット他) (2)市民研修 ・津軽ひろさき検定 ・出前講座等の実施	進捗率	毎月1回街歩きについて広報誌に掲載するとともに、弘前感交劇場推進委員会実務者会議(やわらかネット)の定期的開催、津軽ひろさき検定、出前講座等を実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標のうち、「ホスピタリティ運動開催回数」は目標を達成できなかったが、「広報紙への連載」「津軽ひろさき検定実施回数」「出前講座等開催回数」についてはいずれも目標を達成したことから、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
		目標		H22	H23	H24	H25	
		・広報紙への連載(H23～) 毎月		-	1回	12回		
		・ホスピタリティ運動開催回数 100回/年		69回	78回	81回		
		・津軽ひろさき検定実施回数 3回/年		2回	4回	3回		
		・出前講座等開催回数 12回/年		23回	12回	18回		
		事務事業名		決算額		0	0	0
	弘前感交劇場推進事業	今後の課題	市民全体で観光振興を図る気運の醸成を図るため、やわらかネット等の開催によるホスピタリティ運動の継続、津軽ひろさき検定、出前講座等の市民に対する研修を継続していく必要がある。					

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
2-(2)-11	弘前観光情報の一元化(ポータルサイトの構築、中国語などの拡充)	観光物産情報の一元化を図るために、関係団体と連携し、「弘前感交劇場」をキーワードにした弘前の窓口的観光物産情報サイトを構築し、利用者が望む情報にたどりつきやすいようにする。また、外国人対応として、多言語化も図る。	進捗率	平成24年6月から地域ポータルサイト「弘前感交劇場」の供用を開始し、映像コンテンツの拡充、情報の整理、リンクの整備を行うとともに、弘前感交劇場HP外国語版(4か国語)を制作したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「アクセス数」としているが、目標を達成したため、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
		目標アクセス数(訪問者数) 120,000/年		8,304件	4,883件	138,471件		
		【参考】アクセス数(トップページ含む5サイト訪問者数) 2,100,000/年		—	—	147,330件		
		事務事業名	決算額		8,752	27,081	6,426	
		宣伝広告事業	今後の課題	必要に応じて随時情報の更新を行っていく。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
2-(2)-12	新幹線新青森駅からの誘客のための二次交通の充実	二次交通の充実のために、奥羽本線の高速化等による利便性向上や、新幹線とのスムーズな接続について、JR東日本等へ要望活動等を実施する。	進捗率	平成24年度は普通列車等への指定席車両追加編成に関する要望活動を実施することとしていたが、県への重点要望に反映した。また、JR東日本等への要望活動については、8月(2回)、10月、11月の計4回行っていることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標をすべて達成したことから「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			全ての新幹線に対するアクセス列車の維持・確保		38便/38便	38便/38便	38便/38便	
			新青森-弘前駅間を30分以内で結ぶ特急列車の運行(H25) 増加		6往復	6往復	6.5往復	
			JR東日本等への要望活動回数 2回/年		5回	3回	4回	
		事務事業名	決算額		405	487	68	
		奥羽本線高速化・機能強化等要望活動	今後の課題	新青森駅－弘前駅間の冬期間の安定的輸送及び優等列車の増便やジョイフルトレインの導入、普通列車のクロスシート化の実現に向けて、今後も要望活動を継続していきたい。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
☆ 2-(2)-13	弘前シティプロモーション(※9)推進事業(都市の魅力向上活動)	弘前城築城400年祭の成果をステップに、弘前市の魅力度、認知度などの都市ブランド力を向上させ、交流人口の拡大や地元産品の販路拡大などの産業振興を図るために、より明確な都市イメージの確立、国内外へ向けての機動的・戦略的な情報発信を推進する。	進捗率	平成24年度は、「推進体制の構築(シティプロモーション担当設置等)及び「都市イメージの確立(ブランドセミナーやホームページ・フェイスブックページ制作等)」、「情報発信(各種メディアを活用した国内外への情報発信)」につながる各種取組みを実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「シティプロモーション情報発信件数180件としているが、目標を大きく上回ったことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			シティプロモーション情報発信件数 180件(H25)		-	-	1,088件	
			【参考】全国メディア等に弘前情報が取り上げられた件数 200件				171件	
		事務事業名	決算額		0	0	41,872	
		弘前シティプロモーション推進事業	今後の課題	プレスリリース専門業者の活用、シティプロモーションアドバイザーからの助言等を参考にしながら、より戦略的なプロモーション活動を実施し、メディアへの露出の増加につながる取組みを実施する。				

約束2-(3)
 ひろさき農業・産業おこしに取り組みます【商工業振興】

めざす姿
 にぎわい創出による商業・サービス業の活性化と、地域資源を活かした工業の振興により、雇用拡大が図られます。

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名		取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値				H24目標値 に対する 達成率	H25目標値 に対する 達成率
					22	23	24	25		
①	施策の取り組みによる新規雇用（累計） 391人を目指します。	業務取得	人	0	- 100	- 281	347 388	391	○	—
②	農商工連携等振興施策の展開による商品化数（累計） 34件を目指します。	業務取得	件	0	- 4	- 30	24 48	34	○	○
③	技術開発等支援件数（累計） 20件を目指します。	業務取得	件	0	- 6	- 11	16 17	20	○	—
④	起業化支援施策の展開による起業家創出数（累計） 15人を目指します。	業務取得	人	0	2 2	6 7	10 10	15	○	—
⑤	中心商店街空き店舗率8.5%を目指します。	業務取得	%	12.8	11.7 12.0	10.7 12.0	9.6 9.6	8.5	○	—
⑥	誘致企業における従業員数5,560人を目指します。	業務取得	人	5,503	- 5,503	- 5,750	5,540 5,580	5,560	○	—

H24目標値に対する達成率 ○：目標を達成済み ×：目標を達成できない —：判断できない
 H25目標値に対する達成率 ○：目標を達成済み —：目標を達成できない・判断できない

関連指標名	取得方法	単位	上段：数値取得時期 下段：取得数値			
従業者数	業務取得	人	H22	H23		
			85,226	79,578		
有効求人倍率（弘前公共職業安定所管内）年平均	業務取得	倍	H22	H23	H24	
			0.41	0.46	0.62	
第3次産業の総生産額	業務取得	億円	H20	H21		
			4811.94	4950.99		
市内製造業の製造品出荷額	業務取得	億円	H22			
			1633.05			
新規求人数（弘前公共職業安定所管内）	業務取得	人	H22	H23	H24	
			15,554	16,700	19,814	

約束全体の評価

めざす姿の達成状況を示す指標6項目について、平成24年度の目標値に対する達成率は、すべての項目において「目標を達成済み」となっています。

平成24年度における注指標「①施策の取り組みによる新規雇用(累計)391人を目指します。」については、商工業分野69人、農林業分野15人、観光分野16人の合計100人の新規雇用を目標としていましたが、ジョブトレーニング事業で58人の雇用があったことが大きく、合計で107人となり、累計388人とH24年度目標値を達成しています。

また、関連指標の「有効求人倍率(弘前公共職業安定所管内)年平均」は、0.62倍(前年比+0.16ポイント)で、特に、平成24年9月には、過去5年で最高の0.85倍を記録するとともに、「新規求人数(弘前公共職業安定所管内)」は、19,814人(前年比+3,114人)になるなど、近年では高い水準となっています。

「②農商工連携等振興施策の展開による商品化数(累計)34件を目指します。」は累計で48件とH25年度目標値を達成、「③技術開発等支援件数(累計)20件を目指します。」は17件でH24年度目標値を達成、「④起業化支援施策の展開による起業家創出数(累計)15人を目指します。」は10人でH24年度目標値を達成しており、仕事おこしや研究開発、起業化などの新たな取り組みに対する支援が奏功し、食品や伝統工芸を中心とする地場産業振興や企業の活性化と起業家育成が着実に図られていると考えます。

「⑤中心商店街空き店舗率8.5%を目指します。」は、空き店舗活用支援事業などによる空き店舗対策や、店舗シェアリング事業による起業家支援、「若者力」を活かした商店街パワーアップ支援事業などの賑わい創出に資する各種事業に取り組んだことに加え、土手町コミュニティパークなどの民間出店や、民間駐車場の無料化実験などが後押しをし、9.6%とH24年目標値を達成しています。

次に、個別施策の実施状況ですが、「進捗率」では12項目のうち11項目が、「工程表どおり実施済み」で、1項目が「工程表より遅れている」となっています。また、「達成率」では、12項目中10項目が「目標を達成済み」あるいは「順調に推移」となり、2項目が「遅れている」となっています。

地域経済は、先行きに不透明感がうかがわれ、依然として厳しい状況にあるものの、施策の実施状況や指標全体の傾向と注指標の達成状況等を総合的に勘案すると、地域資源を活かした商品開発や創業などへの支援により、意欲的な取り組みは着実に増えてきているとともに、誘致企業の従業員数は目標値を達成するなど、めざす姿に向けて**着実に近づいている**と考えます。

今後とも、雇用の安定と確保の受け皿となる企業誘致や仕事おこし、また、市内中小事業者を下支えするための制度金融の充実や経営の改善が必要とされていますので、それらの施策に着実に取り組んでいきます。さらには、中心市街地の賑わい創出や地元製品のPR強化、販路拡大への各種事業に取り組み、地域経済活性化のための幅広い施策に取り組んでいきます。

個別施策の実施状況

項目		事務事業数	進捗率	達成率
【地域資源の総動員による商品づくりとマーケティングの強化で、仕事おこしを図ります】				
	○ 1 産学官金の連携による“ひろさき産業振興会議”の設置	1	A	A
	○ 2 “仕事おこしプロジェクトチーム”（しごとづくり、新産業創造、雇用対策などを担当）の設置による仕事づくり施策（オンリーワン技術の活用など）の積極的展開	2	A	A
	○ 3 “BUYひろさき”運動（地元産品活用の公共調達を促進）	1	C	C
	● 5 官民一体型での弘前情報チラシ作戦（通販や市役所郵便への添付）	1	A	B
	☆11 農商工連携等による食産業の育成	1	A	A
	☆12 ものづくり産業の振興	2	A	A
【弘前の強みを活かした企業立地、誘致を図ります】				
	○ 4 首都圏等在住の弘前市ゆかりの人々をメンバーとする企業誘致応援隊の結成	1	A	A
	● 6 北東北の中核都市として、民間企業や公的団体の弘前市への着実な立地を推進	1	A	C
【起業や産業を支える人づくりに取り組みます】				
	● 7 起業実践トレーニング道場の実施と起業家交流プラットフォーム（セミナー・交流会の定期開催）構築	1	A	A
	● 8 地域資源の活用、地域課題の解決に取り組むコミュニティビジネスやソーシャルビジネスの育成	1	A	A
	● 9 店舗スペースのシェアリングによる起業サポート	1	A	A
	☆10 空き店舗対策の推進	2	A	A

進捗率 A:工程表どおり実施済み B:概ね工程表どおり C:工程表より遅れている -:未着手
達成率 A:目標を達成済み B:順調に推移 C:遅れている -:判断できない

上段：年度別概算所要額（単位：千円）／下段：年度別決算額（単位：千円）			
22年度	23年度	24年度	25年度
28,569	131,100	85,900	18,900
25,705	99,094	112,630	-

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
2-(3)-1	産学官金の連携による”ひろさき産業振興会議”の設置	地域の企業、大学、金融機関及び関係機関等から、当市の産業振興や震災後の地域経営等に向けた意見等を伺う「ひろさき産業振興会議」を開催し、今後の施策展開のための参考とする。	進捗率	平成24年度は、2回の「ひろさき産業振興会議」を開催したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。 1回目：7月12日 テーマ「工芸品産業の成長・発展に向けて」 2回目：8月30日 テーマ「当市におけるものづくり企業の振興について」				
			A					
			達成率	会議の意見等を踏まえ、4事業を施策に反映することができたことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			会議の意見や提案が施策等に反映された件数 2件/年		7件	3件	4件	
		事務事業名	決算額		74	55	0	
		ひろさき産業振興会議開催事業	今後の課題	テーマの設定によっては、具体的な施策の提案に結びつかず、おおまかな話になる傾向があり、段取りが重要となる。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
2-(3)-2	“仕事おこしプロジェクトチーム”（しごとづくり、新産業創造、雇用対策などを担当）の設置による仕事づくり施策（オンリーワン技術の活用など）の積極的展開		進捗率	平成22年7月、商工労政課内に仕事おこし・雇用支援室を設置し、各種仕事おこし施策を展開しており、施策を構成する2事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	各種仕事おこし事業の実施により、新たなビジネスや雇用の創出が図られ、事業実施による雇用創出数が目標を上回っており、施策を構成する事業について「目標と達成済み」との評価になっていることから、施策全体として「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		22,879	90,382	67,465	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	「仕事おこし・雇用支援室」を設置し、しごとづくり、新産業創造、雇用対策などを積極的に実施する。	(1)仕事おこし・雇用支援室設置	進捗率	平成22年7月、商工労政課内に仕事おこし・雇用支援室を設置し、各種仕事おこし施策を展開しており、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	組織の設置であり、目標・活動量指標を設定していない。				
			-					
			目標		H22	H23	H24	H25
			-		-	-	-	
			今後の課題	成長が期待できる分野に対して集中的に支援するなど、施策の方向性を検討する必要がある。				
		事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	失業者等を雇用し、地域課題等に対応した民間提案型のビジネス・プランに対し、資金的支援をすることによって、新たな仕事づくりと雇用創出を図る。	(2)仕事おこし・雇用創出事業	進捗率	平成23年度採択分5件を継続支援したほか、「仕事おこし・雇用づくり補助金」と新たに制度を変更し、新規1件を支援。さらに「研究開発支援補助金」を5件、「農産加工ビジネス育成支援事業費補助金」では6件を支援し、新たな仕事おこし及び雇用の創出を図っており、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	委託事業で13人の雇用、補助事業で3人の雇用が図られており、農産加工品ビジネス補助事業では、1人の雇用が図られており、累計63人で「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			事業実施による雇用創出数（H22～H25） 60人 45人（H23）、60人（H24）		15人	46人	63人	
			今後の課題	補助制度を見直すとともに、「ひろさきビジネス支援センター」と連携した支援体制を構築する必要がある。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
2-(3)-3	“BUYひろさき”運動(地元産品活用の公共調達を促進)	地産地消を推進し、地場産業の振興を図るため、BUYひろさき推進本部を設置し、普及啓発活動を展開するとともに、地場産品(伝統工芸品)の購入・活用を支援する。	進捗率	平成24年度内のBUYひろさき推進本部設置を目指し、関係機関との調整を図ってきたが、本部体制や事業内容等について調整に時間を要した結果、年度内に設置することができなかったことから、「 工程表より遅れている 」と評価した。なお、「BUYひろさき推進本部」は平成25年7月17日に設立総会を開催し発足している。				
			C					
			達成率	目標を伝統的工芸品等活用促進事業費補助金の「補助金交付事業所数 10件/年」と設定したが、平成24年度は5件の交付に留まり、平成23年度から3件減少していることから「 遅れている 」と評価した。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			補助金交付事業所数 10件/年		-	8件	5件	
		事務事業名	決算額		900	1,873	1,343	
		BUYひろさき運動推進事業	今後の課題	BUYひろさき運動の実施に当たっては、庁内各課との連携強化、また販売促進等の分野に精通したアドバイザーから助言等を得て進めることとし、伝統的工芸品等活用促進事業費補助金については、今年度の成果を検証しながら、より利用しやすいように制度の見直しを含めて検討する。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
2-(3)-4	首都圏等在住の弘前市ゆかりの人々をメンバーとする企業誘致応援隊の結成	弘前への企業・団体の立地を図るために、首都圏在住の弘前市ゆかりの方々を中心とした応援隊を結成する。 また、企業誘致のみならず、市内企業のビジネスチャンスに繋がる情報など、応援隊を通じて収集する。	進捗率	平成24年度はひろさき仕事おこし応援隊情報交換会の開催などにより、仕事おこし、産業の活性化へ繋がる情報の収集を図ったことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	情報交換会の開催、仕事おこしや産業の活性化に向けた情報収集の実施により、情報提供件数は目標を上回ったことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			応援隊からの情報提供件数 20件/年		12件	16件	27件	
		事務事業名	決算額		389	390	354	
		ひろさき仕事おこし応援隊結成	今後の課題	当市の産業に寄与する企業の立地動向や新規進出などの情報収集を含め、効果的な情報収集、意見交換、連携策など事業の在り方を再構築する。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
2-(3)-5	官民一体型での弘前情報チラシ作戦(通販や市役所郵便への添付)		進捗率	施策を構成する2事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	構成する2事業について「目標を達成済み」が1事業、「概ね順調に推移」が1事業となったため、全体としても「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		0	0	0	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(1)市の新たな財源を確保するとともに、民間事業者等の事業活動を推進し、地域経済の活性化と市民サービスの向上に寄与するため、広告を掲載した封筒を寄附(無償提供)してもらおう。寄附された封筒は、市が公文書などの発送に使用する。	封筒寄附募集事業	進捗率	平成24年度は、6月1日から市民課窓口用封筒の使用を開始した。また、7月1日から汎用封筒の使用を開始した。したがって、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	平成24年度まで、累計264,000枚を達成したため「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			配付枚数 300,000枚(H25) 100,000枚(H23)、200,000枚(H24)		-	84,000枚	264,000枚	
			決算額		0	0	0	
			今後の課題	市で取り扱う封筒は、市外へも利用されていることから、弘前情報の発信につながると考えられるが、比較的、市内で利用されることが多いことから、広告が主に市内向けとなっている。市外への発送を考えると、市外向けに対応した広告や図柄などの工夫が必要である。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(2)弘前シティプロモーションを推進するために、弘前の情報を集約したチラシを作成し、配布する。配布方法の仕組みとして、個人又は団体・企業を対象に「弘前PR応援サポーター制度」に登録してもらい、協働で様々な機会にチラシ配布を行う。	弘前情報チラシ配布事業	進捗率	当市シティプロモーションのキャッチコピー・ロゴマーク及び、まつりや名所等の観光情報を掲載したチラシを作成し、弘前PR応援サポーターを中心に県外の方々に配布していることから、「 工程表どおり実施済み 」となっている。				
			A					
			達成率	目標指標は「配布枚数 5,000枚(H25)」としているが、平成24年度の配布枚数は2,500枚に留まった。目標指標は平成25年度における配布枚数を目標としており、目標値の50%は達成していることから、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			配付枚数 5,000枚(H25)		-	-	2,500枚	
			【参考】応援サポーター活動回数 50回		-	-	-	
			決算額		0	0	0	
			今後の課題	目標指標の「チラシ配布枚数」を増加させるためには、弘前PR応援サポーター登録者数の増加させるための取組みも併せて検討する必要がある。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
2-(3)-6	北東北の中核都市として、民間企業や公的団体の弘前市への着実な立地を推進	弘前への企業・団体の立地を図るために、ひろさき仕事おこし応援隊・大学・各種団体と連携して情報収集を行い、企業や団体を訪問、当市の各種優遇制度等をPRし誘致活動を推進する。	進捗率	首都圏開催の産業立地フェアでの立地環境のPRや、ひろさき仕事おこし応援隊から企業誘致に関わる情報を収集などの、誘致活動を展開しており、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。 なお、企業アンケート調査については、弘前オフィス・アルカディアへの立地促進を目的に実施していたが、全て埋まったため休止している。				
			A					
			達成率	24年度は1件の誘致があったが、目標に達していないことから「 遅れている 」と評価した。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			誘致件数 (H22～H25) 5件 1件 (H22)、2件 (H23)、3件 (H24)		1件	1件	2件	
			訪問企業・団体数 20件/年		21件	20件	24件	
		事務事業名	決算額		879	645	835	
		企業・団体立地推進事業	今後の課題	雇用創出という観点から、従来からの工業系や情報系の企業誘致に加え、中心市街地の空き店舗の解消にも繋がるような幅広い業種・業態の事業所の進出を促進するための取り組みについても検討していく。また、広域連携による、雇用創出や企業誘致活動など、連携して取り組む具体策を検討する。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
2-(3)-7	起業実践トレーニング道場の実施と起業家交流プラットフォーム（セミナー・交流会の定期開催）構築	起業人材の育成と起業しやすい環境を整え、起業する市民を増やす。 ・創業・起業支援拠点の設置 ・専門家を招へいし、創業・起業に係る相談を受付 ・創業・起業に必要な知識を学ぶ講習会・セミナー等を開催 ・既存補助金等による資金的支援	進捗率	創業・起業相談窓口を暫定的に弘前商工会議所へ設置し、個別相談対応、起業セミナー・交流会を開催しており「 工程表どおり実施済み 」と評価した。 また、起業家の事業所賃料を補助する起業家支援育成補助金については、2件の実績があった。				
			A					
			達成率	目標としている創業・起業支援拠点の設置、セミナー・交流会の開催回数2回、起業家2人をすべて達成していることから「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			創業・起業支援拠点の設置		－	－	設置	
			セミナー、交流会の開催回数 2回/年		－	－	2回	
			相談やセミナー等を受講した市民から、起業した人数 2人/年		－	－	3人	
		事務事業名	決算額		584	570	3,781	
		創業・起業支援事業	今後の課題	「ひろさきビジネス支援センター」の機能を高め、より多くの人に有効活用して頂くための仕組みづくりを進める。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容					
2-(3)-8	地域資源の活用、地域課題の解決に取り組むコミュニティビジネス(※10)やソーシャルビジネス(※10)の育成	地域資源の活用、地域課題の解決に取り組むコミュニティビジネス(CB)やソーシャルビジネス(SB)を育成する。 ・普及啓発事業(CB・SBの創業機運を高めるセミナー等の開催) ・事業実施団体等支援事業(CB・SBに取り組む団体等に対し、コーディネートや補助金等の活用など、各種支援策を検討・実施)	進捗率	コミュニティビジネスサロンを開催し、CB・SBに対する普及啓発を図っていることから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。					
			A						
			達成率	普及啓発事業としてコミュニティビジネスサロンを開催し、既存の起業家支援制度でCBを助成したことから「 目標を達成済み 」と評価した。					
			A						
		目標		H22	H23	H24	H25		
		普及啓発事業開催回数 1回程度/年		1	1	1			
		実施事業団体等支援実施(H23～)		－	1	1			
		【参考】コミュニティビジネスが起業化した数 1件/年		－	－	0			
		事務事業名		決算額		0	1,500	15	
		コミュニティビジネス・ソーシャルビジネス支援事業		今後の課題	コミュニティビジネスの枠組みにとらわれず、創業・起業支援の仕組みの中で支援する。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容					
2-(3)-9	店舗スペースのシェアリングによる起業サポート	起業家を育成するため、店舗スペースを細分化し、低家賃で貸し出す店舗の設置者を支援し、起業を目指す者が出店しやすい環境を整備する。 また、起業実践トレーニング道場の実施と起業家交流プラットフォームと連携した支援策を進める。	進捗率	平成23年度に引き続き、中土手町において起業家支援用店舗を設置し、16店が出店している状況にあることから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。					
			A						
			達成率	シェアリング実施店舗数は1店のみであるが、シェアリング出店数は、目標を上回ったことから「 目標を達成済み 」と評価した。					
			A						
		目標		H22	H23	H24	H25		
		シェアリング実施店舗数 2店		－	1	1			
		シェアリング出店数 10店/年		－	14	16			
		【参考】新規出店数累計 20店		－	14	19			
		事務事業名		決算額		0	3,679	4,907	
		店舗シェアリング支援事業		今後の課題	現在出店している16店の出店期限(最長3年)を迎えるため、独立開業に向けた支援、取り組みを進めていく必要がある。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
☆ 2-(3)-10	空き店舗対策の推進		進捗率	施策を構成する2事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	構成する2事業について、いずれも「目標を達成済み」であることから、施策全体としても「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		26,505	10,530	16,610	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(1)中心市街地の空き店舗を解消するために、新規出店に要する改装費の一部を支援する。	空き店舗活用支援事業	進捗率	事業募集をし、審査の上、事業を採択、支援したので、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	6件の事業採択を行い、いずれも新規出店に至ったことから「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			新規出店数 5店舗/年		6	5	6	
			決算額		26,505	10,530	16,610	
			今後の課題	空き店舗率が順調に減少しているので、今後も制度の充実及びPRに努め、特に空き店舗の多い地区の空き店舗解消に努める必要がある。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(2)中心市街地の空き店舗を解消するために、商店街振興組合などと連携しながら、中心市街地全域の空き店舗を把握し、広く発信しながら出店希望者とのマッチングを図る。	空き店舗データベース事業	進捗率	平成22年10月から商店街振興組合等と連携して一定の空き店舗情報を収集し、平成23年2月から情報提供を行っていることから、「 工程表とおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	問合せ件数は目標値を下回ったものの、出店数は目標を達成していることから、空き店舗解消という趣旨に鑑み「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			問い合わせ件数 20件/年		-	5	6	
			出店数 2店/年		-	1	3	
			【参考】閲覧者数 1,200件/年		-	-	1,322	
			決算額		0	0	0	
			今後の課題	情報収集及び提供方法のさらなる充実化に努めていく。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
☆ 2-(3)-11	農商工連携等による食産業の育成	外部の専門家を活用しながら、商品開発等に係るアドバイスやコーディネート活動を実施し、農商工連携や6次産業化を促進する。 また、生産者と商工業者との交流や販路開拓の支援を行うほか、地元食材等を活かした新しい郷土グルメの開発、普及促進を図る。	進捗率	農商工連携や6次産業化に取り組む事業者に対して、アドバイスやコーディネートを行う専門家派遣事業を実施した。また、生産者と商工業者の交流を深めるバスツアーや展示商談会の共同出展、新しい郷土グルメを開発するグルメコンテストを実施したことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	相談件数、商品化件数、商談件数ともに当初の目標を上回ることができたことから「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			相談件数 100件/年		-	130	135	45
			商品化件数 10件/年		-	26	18	
			商談件数 30件/年		-	118	130	
			グルメコンテストの開催 1回/年		-	—	1	
		事務事業名	決算額		0	3,914	10,181	
		食産業育成事業	今後の課題	販路開拓に強い専門家との連携が必要。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
☆ 2-(3)-12	ものづくり産業の振興		進捗率	施策を構成する2事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	構成する2事業について、目標の設定がないものが1事業、「目標を達成済み」が1事業であるため、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(1) 東日本大震災の影響や円高の進展など、国内の製造業を取り巻く厳しい状況を踏まえ、国内外の動向や主に本市製造業の現状、将来の見通しやこれからのものづくり産業の発展に向けた調査を行い、その結果に基づき、ものづくり産業に対する積極的な振興策を展開する。 ・伝統産業の販路開拓・拡大を支援することにより、販売額の向上や雇用・人材育成(技術継承)へ繋げ、地域地場産業の活性化を図る。 ・縫製関連企業が多く集積する地域であることから、ものづくり産業の振興策のひとつとしてアパレル産業の産地化へ向けた取り組みを推進する。	ものづくり産業振興事業	進捗率	国内の製造業を取り巻く厳しい状況を踏まえ、本市ものづくり産業振興の方向性を研究する「弘前のものづくりの未来を探る」調査事業を実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	平成24年度については調査事業の実施としており、目標は設定していない。				
			-					
			目標		H22	H23	H24	H25
			-		-	-	-	
			【参考】ものづくり産業振興事業数 3件/年		-	-	-	
			決算額		0	0	500	
			今後の課題	伝統産業については、津軽塗をはじめ、地域固有の技術を活かした工芸品は多くあるが、販売額の低迷が続いており、事業者も厳しい経営環境のため、販路開拓への取組みが難しい状況にある。 アパレル産業において、高い技術力と優秀な人材を有する事業所は多いが、事業所数や製造出荷額が減少しているため、市内の事業所が一体となった取り組みによる販路拡大策を進めるとともにアパレル産業が集積している地域の認知度を高め、その強みを情報発信していく。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(2) 電子部品・デバイス、精密機械加工等を中心とした製造業の振興を図るため、外部の専門家を起用し、企業訪問による課題解決や企業間の連携促進、新製品開発に係る技術開発及び販路開拓を支援する。	ものづくりコーディネート事業	進捗率	地域のものづくり産業の振興を図るため、平成24年4月から、経営改善、新製品・新技術開発、新事業展開及び販路拡大等に取り組もうとする「ものづくり中小企業」を対象に、ものづくりコーディネーターによるアドバイス支援を展開していることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標の「訪問件数」「試作・研究開発件数」「商談件数」ともに、目標を上回ったことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			訪問件数 20件/年		-	-	51件	
			試作・研究開発件数 3件/年		-	-	6件	
			商談件数 10件/年		-	-	23件	
			決算額		0	0	6,639	
			今後の課題	企業への周知、PRをより強化し、ものづくりコーディネーターの積極的な活用を促進する必要がある。				

約束3- (1) 魅力あるまちづくりを進めます。【生活環境】

めざす姿

地域資源・資産の効果的な活用によるまちづくりや住環境の整備を進め、市民が暮らしやすい魅力あるまちになっています。

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名		取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値				H24目標値 に対する 達成率	H25目標値 に対する 達成率
					22	23	24	25		
①	弘前の景観に魅力を感じる市民を増やします。	市民評価 アンケート	%	-	- 51.4	- 51.9	53.4 52.9	54.4	×	—
②	中心市街地活性化基本計画に掲げる目標指標 中心市街地歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）25,000人 を目指します。	業務取得	人	18,018	18,500 18,226	20,500 19,119	22,500 18,245	25,000	×	—
③	計画的に側溝整備を進めて、道路利用者の安全確保と良好な道路環 境の維持を図ります。側溝整備延長（m）	業務取得	m	3,710	- 6,835	- 9,627	12,726 13,079	16,176	○	—
④	「伝統的建造物群保存地区」である仲町地区電線類の地中化を進め て、安全かつ円滑な道路交通の確保と、歴史的街並みの保全や景観 向上を図ります。無電柱化整備延長(m)	業務取得	m	100	- 100	- 330	870 830	1,210	×	—
⑤	安全・安心な生活環境だと思いう市民を増やします。	市民評価 アンケート	%	-	- 23.1	- 24.6	25.0 26.5	28.0	○	—
⑥	持続可能な公共交通体系を構築するため、公共交通路線の見直しを 実施します。 H23計画策定を踏まえ、H24において目標値を設定	業務取得	-	-	- -	- -	- -	-	—	—
	【参考】AP2013指標 持続可能な公共交通体系を構築するため、公共交通路線の見直しを 実施します。	業務取得	路線	-	- -	- -	- 1	2		

H24目標値に対する達成率 ○：目標を達成済み ×：目標を達成できない —：判断できない
H25目標値に対する達成率 ○：目標を達成済み —：目標を達成できない・判断できない

関連指標名	取得方法	単位	上段：数値取得時期 下段：取得数値			
弘前の景観に魅力を感じる来街者の割合	業務取得	%	H24. 11			
			80.5			

約束全体の評価

めざす姿の達成状況を示す指標6項目について、平成24年度の目標値に対する達成率は、「目標を達成済み」が2項目、「目標を達成できない」が3項目、「判断できない」が1項目となっており、達成率は高いとはいえない状況にあります。

これは、目標値が高めに設定されている指標があることが影響しているものです。

平成24年度における注目指標の市民評価アンケートによる「⑤安全・安心な生活環境だと思ふ市民を増やします。」については目標を達成しています。これは、現状値が平成23年度に比べ増加していることから、市のアクションプランによる取り組みが市民から評価されたものと考えられます。

「③計画的に側溝整備を進めて、道路利用者の安全確保と良好な道路環境の維持を図ります。」についても、目標を達成しています。身近な生活道路を効率的・効果的に側溝を整備することで、道路利用者の安全が確保されます。

また、「④『伝統的建造物群保存地区』である仲町地区電線類の地中化を進めて、安全かつ円滑な道路交通の確保と、歴史的街並みの保全や景観向上を図ります。」については、事業実施に当たり移設補償費が当初見込みより増額となったため、無電柱化整備延長で目標を達成できませんでした。

次に、個別施策の実施状況ですが、「進捗率」では、19項目中14項目が「工程表どおり実施済み」、2項目が「概ね工程表どおり」で、3項目が「工程表より遅れている」となっており、「達成率」では、14項目が「目標達成済み」、4項目が「概ね順調に推移」、1項目が「遅れている」となっております。

施策の実施状況や指標全体の傾向と注目指標の達成状況等を総合的に勘案すると、数値目標は一部目標を下回っているものの、各施策等の取り組みに一定の成果が見られることから、めざす姿に向けてはおおむね順調に推移していると考えます。

このことから、さらに今後は、平成24年度で達成できなかった指標の改善や進捗が遅れている個別施策について積極的な取り組みを行うとともに、その他の関連施策についても、市民が望む魅力あるまちづくりに向け、着実な推進を図ることが必要であると考えます。

個別施策の実施状況

項目		事務事業数	進捗率	達成率
【弘前の魅力を活かした街づくりを実現します】				
	○1 弘前レトロモダン街づくりを目指した景観形成	3	A	A
	○2 弘前城公園活用推進検討会議の設置	1	A	A
	●6 ひろさき街中にぎわいリバイバルプラン策定（土手町地区、かじまち地区、駅前地区）	1	A	A
	●7 ひろさき街中フリーアールスペース（美術作品の展示・販売）	1	A	A
	●8 空き店舗情報データベース整備	1	A	A
	●9 ライド・トゥー・パーク社会実験の実施	1	A	A
	●10 学園都市弘前、大学力と連携した街づくりプラン策定	1	A	A
	●11 街なかカラス対策の強化	4	A	B
	☆15 まちなかの新たな賑わいづくり	1	A	A
【市民にやさしい街づくりを進めます】				
	○3 安全・安心の街づくりに必要な公共事業と冬期交通を確保するための除雪は確実に実施	4	B	A
	●12 やさしい街「ひろさき」づくり計画（公共施設のユニバーサルデザインの推進、福祉除雪、通学路スクラム除雪、歩道・側溝整備、e t c）の制定	1	C	C
	●13 子ども達による安心遊び場マップの策定	1	A	A
	●14 二次交通体系の見直しによる利用促進と福祉バスなどの社会実験	2	B	B
	☆19 自転車利用環境の研究	1	A	A
【民間ノウハウ導入などにより公共施設の効率化を進めます】				
	○4 アセットマネジメントとファシリティマネジメントの導入（下水道とし尿処理機能の再構築）	3	A	A
	●16 水道事業民営化可能性検討会議の設置	1	A	A
	●17 P F I 等民間ノウハウなどの導入によるインフラサービスの展開	1	C	B
【岩木山を中心とした豊かな自然を守り、活かします】				
	○5 岩木・相馬地区活性化事業の推進	4	A	A
	●18 岩木川自然農法（無農薬・減農薬によるブランド化、循環型農業）社会実験の実施	1	C	B

進捗率 A:工程表どおり実施済み B:概ね工程表どおり C:工程表より遅れている -:未着手
達成率 A:目標を達成済み B:順調に推移 C:遅れている -:判断できない

上段：年度別概算所要額（単位：千円）／下段：年度別決算額（単位：千円）			
22年度	23年度	24年度	25年度
492, 049	666, 574	1, 000, 111	968, 185
654, 662	737, 402	602, 251	

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
3-(1)-1	弘前レトロモダン(※11)街づくりを目指した景観形成		進捗率	施策を構成する3事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価となっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	構成する3事業について、「目標達成済み」が2事業、「判断できない」が1事業となったが、施策全体として総合的に勘案し、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		333,420	213,170	219,287	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
		(1)景観計画策定	進捗率	平成24年6月に景観計画を策定し、11月に景観フォーラムを開催したほか、ガイドラインの作成や都市計画道路・公園の整備事業も概ね計画どおり行われたことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「景観フォーラム参加者数100名/年」としているが、平成24年度の参加者数は130名で「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			景観に関する市民への啓発(景観フォーラム参加者数) 100名/年		119名	296名	130名	
			今後の課題	景観条例に基づく届出等について、周知徹底を図る必要がある。				
	現在策定中の景観計画(※12)において、中心市街地活性化基本計画(※13)、歴史的風致維持向上計画(※14)と連携を図りながら、新旧や和洋が調和した弘前ならではの景観を守り育てるための取り組みを構築する。 また、景観計画の策定にあわせて、弘前ならではの景観を保っている景観重要建造物(※15)の保存・改修費に対して助成する。	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
		(2)景観重要建造物保存・改修費助成	進捗率	平成24年度は、景観重要建造物を指定し、景観重要建造物改修費助成制度を活用し、民間建造物の改修に対しての補助を決定したことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「歴史的建造物(文化財及び趣のある建物)の維持 125件」としているが、平成24年度は125件で「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			歴史的建造物(文化財及び趣のある建物)の維持 125件		119件	125件	125件	
			今後の課題	新たに景観重要建造物に指定するための基礎資料等の収集及び作成が必要である。				
		事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
		(3)えきどてプロムナード景観育成事業	進捗率	弘前工業高校生による工作物制作設置(ベンチ10基・イルミネーション1基)や平成25年度アンケート調査に向けた内容検討の実施、及び「えきどてプロムナード」の知名度向上に向けた普及のためのパンフレット作成に代わる他部局の発行物への掲載依頼を実施(4種類)したことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	アンケート調査は、平成25年度で実施されるため判断できない。なお、平成24年度に目標を変更しており、変更目標に対して事業を実施している。				
			-					
			目標		H22	H23	H24	H25
			アンケート調査回数 5件/年		-	-	-	
			【参考】景観形成に反映させた高校生のプラン数 2件/年		-	-	2	
			今後の課題	制作された工作物等について、関係機関を始め一般市民に広くPR活動を行っていく。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
3-(1)-2	弘前城公園活用推進検討会議 の設置	本市の文化・観光の中心的役割を担っている弘前公園のさらなる活用を図るため、「弘前城公園活用推進検討会議」を設置し、有料化のあり方、一口城主、イベントをはじめとする多目的な活用方法などについて、市民を交えて検討する。	進捗率	弘前城公園活用推進検討会議を3回開催し、二の丸利活用施設整備構想案の意見聴取と弘前公園の利活用に関する提案等に関する実施結果報告を実施するとともに、今後の対応方法について議論するなど、弘前公園のさらなる活用策について検討等行ったことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「年間3回開催」としており、平成24年度は3回開催したことから「 目標達成済み 」と評価した。				
			A					
		目標		H22	H23	H24	H25	
		開催回数 1回/年(H22) 3回/年(H23～24)		1	3	3		
		事務事業名		決算額		3	20	9
	弘前城公園活用推進検討会議 設置	今後の課題	二の丸利活用施設整備の基本設計に着手するため、本検討会議の提案等について文化庁の指導を得ながら実施に向けた調整に取り組む必要がある。					

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
3-(1)-3	安全・安心の街づくりに必要な公共事業と冬期交通を確保するための除雪は確実に実施		進捗率	施策を構成する4事業について、「工程表どおり実施済み」が3事業、「工程表より遅れている」が1事業となっていることから、施策全体としては「 概ね工程表どおり実施済みで、一部が遅れている 」と評価した。				
			B					
			達成率	構成する4事業について、それぞれ「目標を達成済み」となったため、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(1)誰もが円滑に移動でき、利用しやすいように歩道を改修して「安全・安心な日常」を実感できるやさしい街づくりを進める。	(1)歩道改修事業	進捗率	平成24年度は、計画どおり歩道改修事業を実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「計画改修延長L＝1,490m」となっており、このうち平成24年度分の計画延長L＝400mに対する実績はL＝426mであったことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			改修計画延長 L=1,490m L=290m(H22)、L=400m(H23)、L=400m(H24)		273	403	426	
			決算額		14,640	25,447	25,564	
			今後の課題	着実に事業を進めるため、優先順位を付け計画的な改修をしていく必要がある。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(2)道路の路面、側溝及び交通安全施設の長寿命化を図り、年次補修計画を策定し、計画的に補修する。	(2)道路補修事業	進捗率	平成24年度は、計画どおり道路補修事業を実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標は「補修達成率49.2%」となっており、このうち平成24年度計画補修達成率43.0%に対する実績は44.0%であったことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		市街地補修達成率 49.2%(H25) 28.3%(H22) 37.8%(H23) 43.0%(H24)		-	-	44.0%	
		決算額		10,080	9,450	98,000	
		今後の課題	道路施設の劣化により補修事業が増える中で、面的整備された各団地の道路老朽化調査の結果、補修事業量が大幅に増えたことから、目標数値を変更する必要がある。				
実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(3)生活道路・通学路・小路等の除雪及び除雪困難者の間口処理など、住民参加型の取り組みを支援する。	(3)道路維持作業地域支援事業	進捗率	平成24年度は、計画どおり19町会で実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標は「実施町会数20町会」となっており、このうち平成24年度の実施町会数目標「15町会」に対する実績は「19町会」であったことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		実施町会数 3町会		5	10	15	
		実施町会数 20町会 (H25) 5町会 (H22)、10町会 (H23)、15町会 (H24)		3	10	19	
		決算額		15	141	336	
		今後の課題	少子高齢化による除雪困難者の増加に対するボランティア人員の確保。間口除雪研究会の中で、今後のあり方を検討していく必要がある。				
実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(4)消流雪溝整備計画を見直し、整備を推進する。	(4)消流雪溝第二次面的整備Ⅲ期計画事業	進捗率	平成24年度については目標を達成したが、平成23年度に整備できなかった延長分を実施できなかったことから、「 工程表より遅れている 」と評価した。(平成25年度の目標達成は可能である。)				
		C					
		達成率	目標は「整備延長1.0km」となっており、このうち平成24年度の目標L=360mに対して実績はL=446mを整備したほか、補正により工事を発注したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		Ⅲ期計画整備延長 (H23～H25) L=1.0km L=457m (H23)、L=360m (H24)		-	0	446	
		決算額		0	1,995	59,375	
		今後の課題	消流雪溝及び揚水ポンプの経年劣化により、効率的な更新計画の策定が必要となる。水量の確保が難しいことから、整備区域及び利用方法の検討が必要である。沿線住民の高齢化による利用者の減少対策。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
3-(1)-4	アセットマネジメント(※16)とファシリティマネジメント(※17)の導入 (下水道とし尿処理機能の再構築)		進捗率	施策を構成する3事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」となっていることから、施策全体としては「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	構成する3事業について、「目標を達成済み」が1事業、「判断できない」が2事業となったことから、施策全体では「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	橋の長寿命化修繕計画を策定し、これまでの事後保全的な対応から計画的かつ予防的な対応に転換し、橋の延命とコスト削減を図る。	橋梁維持事業	進捗率	平成24年度は、橋梁長寿命化修繕計画点検業務と修繕計画による補修工事を計画どおり実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「長寿命化修繕計画策定218橋、修繕計画による補修工事3橋」としており、このうち平成24年度の目標点検業務100橋と目標補修工事2橋に対して、実績は点検業務100橋と補修工事2橋を実施したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			長寿命化修繕計画策定 218橋 64橋(H22)、54橋(H23)、100橋(H24)		64橋	54橋	100橋	
			修繕計画による補修工事 3橋 2橋(H23)、1橋(H24)		－	2橋	－ (2橋継続)	
			決算額		9,030	42,155	85,961	
			今後の課題	橋梁点検については、概ね5年に1回程度見直すこととされているため、専門知識を有する技術者を育成しながら、継続して修繕計画を進める必要がある。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	「下水処理場統合事業」 下水道事業の効率性の向上や、改築更新費、維持管理費及び人件費の削減を図るため、弘前市下水処理場と県流域岩木川浄化センターの統合に向けた取り組みを行う。	下水処理場の統合事業	進捗率	平成24年度は、国、県との協議により平成26年度での統合に合意を得、また、下水処理場統合計画を策定したことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「H26年度統合」としており、現時点では判断できない。				
			－					
			目標		H22	H23	H24	H25
			H26年度に統合		－	－	－	
			決算額		0	0	8,925	
			今後の課題	平成26年度の統合に合意を得たことから、統合に必要な事務手続きや工事を着実に進めていく。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	「MICS(汚水処理施設共同整備)事業(※18)」 岩木川浄化センターで、し尿・浄化槽汚泥のほか、下水処理汚泥、農業集落排水汚泥の共同処理を行うことで、下水道とし尿処理機能を再構築し、経費の削減を図る。	し尿・浄化槽汚泥等共同処理事業	進捗率	9月地元町会と合意を得た。また、県と「平成24年度社会資本整備総合交付金事業の施行に係る措置に関する協定」を締結したほか、実施設計・地質調査等を行ったことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「平成27年度から供用開始」としており、現時点では判断できない。				
			－					
			目標		H22	H23	H24	H25
			H27年度から供用開始		－	－	－	
			決算額		0	0	11,500	
			今後の課題	－				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
3-(1)-5	岩木・相馬地区活性化事業の推進		進捗率	施策を構成する4事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても全ての項目について「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	構成する4事業のうち、3事業が計画通りに推移し「目標を達成済み」とし、1事業が事業の中の一部について、事業計画の見直しを検討中によるために「概ね順調に推移」としていることから、施策全体として総合的に勘案し、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		264,496	413,634	43,686	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	岩木山を中心とした自然を活かして、岩木・相馬地区の活性化を図るため、次の取り組みを行う。 (1)岩木地区における「岩木地区活性化推進計画」を策定・事業実施し、岩木地区の活性化を図る。	(1)岩木地区活性化推進事業	進捗率	平成24年度に実施を予定していた地域活性化ソフト事業23事業全てにおいて着手し、継続支援していることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「事業着手率」としており、全事業実施していることから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			事業着手率 100%		-	96	100	
			今後の課題	岩木地区の市民等からの地域活性化に伴う要望などを、機会あるごとに取り込みながら、さらなる活性化につなげるため関係課に事業化できないか検討してもらう。				
	(2)相馬地区における「弘前市旧相馬村区域過疎地域自立促進計画」を策定・事業実施し、相馬地区の活性化を図る。 (3)岩木・相馬地区において地元との対話を進め、地域活性化事業を支援する。	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
		(2)弘前市旧相馬村区域過疎地域自立促進計画推進事業	進捗率	平成24年度に実施を予定していた地域活性化ソフト事業9事業のうち8事業において着手し、継続支援していることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「事業着手率」としており、9事業の実施計画のうち、事業計画の見直しを検討中である1事業（観光レクリエーションマップ作成事業）を除いた8事業を実施したことから、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			事業着手率 100%		-	100	89	
			今後の課題	相馬地区の市民等からの地域活性化に伴う要望などを、機会あるごとに取り込みながら、さらなる活性化につなげるため関係課に事業化できないか検討してもらう。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
岩木山を中心とした自然を活かして、岩木・相馬地区の活性化を図るため、次の取り組みを行う。 (1)岩木地区における「岩木地区活性化推進計画」を策定・事業実施し、岩木地区の活性化を図る。 (2)相馬地区における「弘前市旧相馬村区域過疎地域自立促進計画」を策定・事業実施し、相馬地区の活性化を図る。 (3)岩木・相馬地区において地元との対話を進め、地域活性化事業を支援する。	(3)岩木・相馬地区意見交換会	進捗率	岩木・相馬地区の市民等との意見交換会を開催し、その中で活性化事業に対する意見や要望等について、関係課との連絡調整を行ったことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	岩木・相馬地区での意見交換会を両地区で1回開催したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		意見交換会	岩木地区1回/年 相馬地区1回/年	-	2	2	
		今後の課題	岩木・相馬地区の各町会等から活性化に係わる各種要望を取りまとめ、活性化推進計画に反映できないか検討する。				
	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(4)岩木・相馬地区活性化支援事業	進捗率	岩木・相馬地区の6事業に対し、活性化支援事業費補助金を交付し、両地区の活性化事業を支援したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
達成率		目標を「岩木地区・相馬地区支援事業数 4事業／年」としており、両地区合わせて6事業を支援していることから、「 目標を達成済み 」と評価した。					
A							
目標		H22	H23	H24	H25		
岩木地区・相馬地区支援事業数 4事業/年		-	3	6			
今後の課題	岩木・相馬地区全体の活性化を図るにあたり、補助金の有効活用などを含め制度の周知徹底に努める。						

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
3-(1)-6	ひろさき街中にぎわいリバイバルプラン策定(土手町地区、かじまち地区、駅前地区)	中心市街地の各地区の特性に合わせた賑わいを創出するために、地元商業者を含めた体制で地元が実施できるソフト事業を主体としたアクションプランを策定・実行し、その事業を支援する。	進捗率	地元商業者が自主的に取り組む商業環境の向上や賑わい回復を目的とする事業計画(リバイバルプラン)を、駅前大町地区、土手町鍛冶町地区それぞれで策定し、プラン掲載事業を実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	「土手町かじまち」地区のプラン策定に伴う協議を計9回行い、計画された各地区の事業が計10件実施されたことから、「 目標を達成済み 」と評価した。 【土手町鍛冶町地区】土手町・鍛冶町来街者促進事業(どてかじフリーパーキング事業)外4件【駅前大町地区】商業環境向上事業(イルミネーション事業)外4件				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			関係機関との協議回数 5回/年		5	5	9	
			リバイバルプランによる実施事業数 5件/年		—	6	10	
		事務事業名	決算額		0	1,500	3,000	
		ひろさき街中にぎわいリバイバルプラン実施支援事業	今後の課題	「駅前大町地区」は平成25年度で、「土手町かじまち地区」は平成26年度で計画期間が満了。これまでの取組実績や計画内容を踏まえ、今後の支援策のあり方について検討する必要がある。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
3-(1)-7	ひろさき街中フリーアートスペース(美術作品の展示・販売)	中心市街地内の公園等を活用して、美術関連作品の展示・販売スペースを創出する事業を支援し、中心市街地への来街機会の増大と賑わいの創出を図る。	進捗率	平成24年度は、前年度に続き、アート関連の活動を行っているNPO団体が、中心市街地各所において、アート作品の展示やアートパフォーマンスを実施したことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	アートスペースの設置(開催)数 が5回で、作品出店数が26者となり、目標を上回ったことから「 目標を達成済み 」と評価した。 ※事業内容:「表現の灯り」計3回、「ナイトアートマルシェ」、「まちに写真を飾ろうよ！」				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			アートスペースの設置(開催)数 3回/年		-	1	5	
			作品出品者数 10者		-	21	26	
		事務事業名	決算額		0	700	664	
		アートスペース創出事業	今後の課題	平成24年度は、実施できなかった事業もあったことから、今年度は事業内容を再構築するとともに、来年度以降の実施の方向性を検討していく。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
3-(1)-8 (再掲)	空き店舗情報データベース整備	中心市街地の空き店舗を解消するために、商店街振興組合などと連携しながら、中心市街地全域の空き店舗を把握し、広く発信しながら出店希望者とのマッチングを図る。	進捗率	平成22年10月から商店街振興組合等と連携して一定の空き店舗情報を収集し、平成23年2月から情報提供を行っていることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	問い合わせ件数は目標値を下回ったものの、出店数は目標を達成していることから、空き店舗解消という趣旨に鑑み「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			問い合わせ件数 20件/年		-	5	6	
			出店数 2店/年		-	1	3	
			【参考】閲覧者数 1,200件/年		-	-	1,322	
		事務事業名	決算額		0	0	0	
		空き店舗データベース事業	今後の課題	情報収集及び提供方法のさらなる充実化に努めていく。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
3-(1)-9	ライド・トゥー・パーク(※19)社会実験の実施	中心市街地活性化のために、次のような社会実験を行い、商店街の賑わいの方策を検討する。 ①都市計画道路3・3・2号線を活用した路上駐車スペース確保 ②公園利用者に対する駅・土手町周辺駐車場駐車料金の割引 ③中心市街地駐車スペース確保、巡回バス運行	進捗率	平成24年度はライド・トゥー・パーク社会実験として、さくらまつり期間にパークアンドライドを、7月、8月に各1回、10月に2回の計4回土手町通りでトランジットモールを実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標のうち、「路上駐車スペースの実験回数」目標3回に対し4回、「駐車料金の割引の実験回数」目標2回に対し2回、「巡回バスの実験回数」目標1回に対し1回実施したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			路上駐車スペース 実験回数3回		—	—	4	
			駐車料金の割引 実験回数2回		—	—	2	
			巡回バス 実験回数1回		—	—	1	
			【参考】100円バストランジットモール区間1日当たり平均降車数 200人		—	—	—	
			【参考】弘南鉄道中央弘前駅及び巡回バスの1日当たり平均降車数 1,000人		—	—	—	
		事務事業名	決算額		0	0	15,074	
		ライド・トゥー・パーク社会実験実施事業	今後の課題	平成25年度は、期間を秋に集中し、実施区間を見直してトランジットモール等を行う予定で調整中。なお、路上駐車については、今後行わない予定である。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
3-(1)-10	学園都市弘前、大学力と連携した街づくりプラン策定	「学園都市弘前」として若者がにぎわう魅力ある街づくりを推進するために、大学の高度な知識や学生力を活用した弘前の街づくりについて調査・研究を行い、若者の視点からの街づくりプランを策定・実行する。	進捗率	学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム(以下「コンソーシアム」という。)の学生委員会「いしてまい」が中心となって平成23年度にプランの策定を行い、平成24年度にプランに基づき事業を実施したため、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「まちづくりプラン実施事業件数 2件/年」としているが、6大学合同文化祭、「つながるマップ」作成事業、土手コレの3件の事業を実施したため、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			まちづくりプラン策定参画学生数 12人		—	31	—	
			まちづくりプラン実施事業件数 2件/年		—	—	3	
		事務事業名	決算額		0	529	(再 2,813)	
		「学園都市弘前街づくりプラン」策定事業	今後の課題	事業を実施する学生との連携を強化し、より魅力ある街づくりを推進する。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
3-(1)-11	街なかカラス対策の強化		進捗率	施策を構成する4事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	構成する4事業について、「遅れている」が1事業、「目標を達成済み」が3事業となったが、市民や企業などからの意見を踏まえ、実効性のあるカラス対策に取り組んだことから、施策全体として総合的に勘案し、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	カラス被害の少ない住みやすいまちづくりのために、次の取り組みを行う。 (1)カラス対策連絡協議会を設置し、行政・住民・企業が協働して、対策を実施する。	(1)街なかカラス対策事業	進捗率	カラス対策連絡協議会を4月、11月に開催したほか、高層建物へのテグスの設置補助の実施、7月～2月における毎日の追い払い業務など具体的なカラス対策に取り組んだことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「協議会開催回数」としており、平成24年度に2回開催し、カラス対策の方向性を検討したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			協議会開催回数 2回/年		2回	2回	2回	
			【参考】カラス対策に対する不満足度 35.0%		-	-	41.8	
			決算額		108	4,365	5,549	
			今後の課題	カラスと共存していくため、市民・企業・行政が協働し、様々な対策に継続して取り組んでいく必要がある。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(2)カラスによるごみ集積所での食い荒らしを撲滅するため、防鳥効果の高い黄色防鳥ネットをより多くのごみ集積所に設置する。	(2)黄色防鳥ネット設置事業	進捗率	平成24年度は、黄色防鳥ネット150枚を購入し、新規集積所への配布及び破損したものの交換により補充したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「黄色防鳥ネット設置集積所100.0%」としており、全て補充し、維持できたことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			黄色防鳥ネット設置集積所数 100.0%(H25) 100.0%(H22)、100.0%(H23)、100.0%(H24)		100.0%	100.0%	100.0%	
			【参考】補助事業により設置した新規のごみ集積ボックス数 40件		-	-	-	
			決算額		17,030	1,160	1,740	
			今後の課題	黄色防鳥ネットの設置集積所は100%となっている。平成25年度は新規ごみ集積ボックスの設置補助事業を行っており、今後はより防鳥効果の高いごみ集積ボックスの普及を高めていく。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(3)カラスによる糞害に対応するため、歩道清掃については回数を増やすだけでなく、行政・住民・企業が協働して行う。またデッキブラシ等を購入し、市民からの要望により貸し出す。	(3)カラス糞害対策事業	進捗率	糞害に対応するため、弘前公園外堀のテグスの張り巡らしの実施。また、弘前公園周辺の高層建物へのテグスの設置補助の実施により、外堀沿いの歩道清掃の回数が激減したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標を「清掃回数年60回」としている。平成24年度の清掃回数は、年2回となったことから、「 遅れている 」と評価した。 ※H25年度目標を市民からの具体的な成果指標を得るため、従来の清掃回数から不満足度に変更した。				
		C					
		目標		H22	H23	H24	H25
		清掃回数 120回/年(H25) 30回(H22)、40回(H23)、60回(H24)		28回	20回	2回	
		【参考】カラス対策に対する不満足度 35.0%		-	-	41.8	
		決算額		1,241	1,932	0	
		今後の課題	カラス対策連絡協議会での意見を踏まえながら、市民・企業・行政が協働し、糞害に継続して取り組んでいく必要がある。				
実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(4)カラス被害に対しあらゆる対策を講じるため、街なかカラスの駆除を実施する。	(4)カラス駆除対策事業	進捗率	これまでのカラス対策を踏まえ、最終的な手段であるカラスの捕獲駆除を開始したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	箱わな2基の設置により、521羽を捕獲駆除したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		駆除羽数 捕獲檻1基につき200羽		-	-	521羽	
		【参考】カラス対策に対する不満足度 35.0%		-	-	41.8	
		決算額		-	-	4,672	
		今後の課題	箱わなを増設する場合の設置場所等について、検討を要する。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容					
3-(1)-12	やさしい街「ひろさき」づくり計画（公共施設のユニバーサルデザイン(※20)の推進、福祉除雪(※21)、通学路スクラム除雪(※22)、歩道・側溝整備、etc)の制定	「高齢者・障害者をはじめ、すべての住民が、快適で安全、安心して暮らせるまちづくり」を実現するために、都市計画マスタープラン(※23)等の関係法令・計画と整合を図りながら、市民・事業者・行政が協働して推進することを目的とした計画を策定する。 計画の具体例として、防災対策としての「やさしい日本語(※24)」の活用や、庁内の案内表示の多国語化も併せて推進する。	進捗率	平成24年度は、計画素案の修正や見直しに時間を費やし、地区住民と協議できなかったことから、「 工程表より遅れている 」と評価した。					
			C						
			達成率	目標は「地区カルテ作成ワークショップ参加者数20名」としていたが、計画素案の作成が遅れ、ワークショップを開催できなかったことから、「 遅れている 」と評価した。					
			C						
			目標		H22	H23	H24	H25	
			地区カルテ作成ワークショップ参加者数 20名		—	—	—		
		事務事業名		決算額		0	4,719	0	
			やさしい街「ひろさき」づくり計画策定事業	今後の課題	地区カルテ作成ワークショップについては、都市計画マスタープランとも密接に関連することから、都市計画マスタープラン策定時に行う地域別懇談会に組み込んで実施できるよう調整する。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
3-(1)-13	子ども達による安心遊び場マップの策定	小中学校区等を単位とし、地域の健全育成に係る任意団体と協働して、ヒヤリ・ハット&安心遊び場マップを作成する。 作成したマップを学校に掲示し、危険な場所の見分け方について共有するとともに、児童の危険回避能力を高める。 平成23年度から、当面各年度1地区で実施する。 平成25年度は、実施地区の拡大を目指し、地域においてマップ作成の指導者となるリーダーの養成を兼ねて実施する。	進捗率	平成24年度はマップを1地区で作成することとしており、城東小学校区を選定し11月に作成済み。 マップ作成を通して児童の危険回避能力を高めることに寄与するとともに、学校内に掲示して危険な場所の見分け方について、他の児童との共有もできたことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「マップ作成モデル地区数」で、各年度1地区としており、平成24年度は1地区について作成済みであることから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
		目標		H22	H23	H24	H25	
		マップ作成モデル地区数 3地区		-	1	1		
		事務事業名		決算額		0	337	352
		安心遊び場マップ作成事業	今後の課題	今年は、子ども達を対象にしたマップ作成と同時に指導者養成も兼ねて実施する予定であることから、実施方法について小宮教授に相談して細部を詰めていきたい。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
3-(1)-14	二次交通体系の見直しによる利用促進と福祉バスなどの社会実験		進捗率	施策を構成する2事業について、それぞれ「工程表より遅れている」と「工程表どおり実施済み」との評価となっており、施策全体として「 概ね工程表どおり実施済みで、一部が遅れている 」と評価した。				
			B					
			達成率	施策を構成する2事業について、それぞれ「遅れている」と「目標を達成済み」との評価となっており、相馬地区に関しても交通事業者との協議が行われていることから、施策全体として総合的に勘案して「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		318	682	9,826	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	公共交通の維持・拡充のために、次の取り組みを行う。 (1)宮園、青山地区及び相馬地域をモデル地区として、地域特性に応じた生活交通確保のため、交通弱者などに、より利便性の高いサービスを提供する実証運行(乗合タクシーの導入等)を行う。	(1)地域公共交通再生モデル事業	進捗率	平成24年度は、相馬地区及び宮園・青山地区において実証運行を実施することとしていたが、相馬地区は実施できなかったものの、宮園・青山地区については平成25年3月から実証運行を実施したことから、「 工程表より遅れている 」と評価した。なお、相馬地区に関しては、地域住民及び交通事業者との合意形成に至らなかったため、実施できなかったものである。				
			C					
			達成率	目標を「実証運行実施地区2地区」としているが、相馬地区で実施できなかったことから「 遅れている 」と評価した。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			実証運行実施地区 2地区		-	-	1	
			今後の課題	相馬地区の実証運行実施に向けて、地域住民や交通事業者との合意形成を図っていく。				
	(2)公共交通の現状に関する周知や、公共交通の利用に関する情報提供を充実させ、利用促進を図る。	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
		(2)公共交通利用促進事業	進捗率	ひろさき公共交通マップの配布や、弘南鉄道大鰐線沿線町会との意見交換会、弘南鉄道大鰐線活性化推進事業としてサイクルトレイン利用者の補助や卓上時刻表の配布等を実施しており、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「利用啓発活動実施回数7回／年」としているが、上記のほか弘南鉄道大鰐線卓上時刻表の配布などを実施しており、年8回実施したことから「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			利用啓発活動実施回数 7回/年		5	7	8	
			【参考】活性化推進事業数 3事業/年		2	2	3	
			今後の課題	活性化推進事業をとおして利用促進に努める。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
☆ 3-(1)-15	まちなかの新たな賑わいづくり	若者離れが進んでいる商店街において、若者が主体となったイベントや若者を呼び込むために商店街が実施する事業を支援する。	進捗率	平成24年度は商店街で若者が主体となり「弘前ストリートダンス&パフォーマンスフェスティバル」及び「高校生書道パフォーマンス」を実施したほか、2商店街で若者の集客を図るための活動を実施し、これらの取り組みを支援したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	事業実施商店街数は4団体となり、イベント実施数年3回を達成したため、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			イベント実施数 2回/年		—	—	3	
			事業実施商店街数 3団体/年		—	—	4	
		事務事業名	決算額		0	0	2,600	
		『若者力』を活かした商店街パワーアップ支援事業	今後の課題	2年間での取組実績を踏まえ、継続的な商店街の賑わい創出に向けた今後の支援策のあり方について検討する必要がある。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
3-(1)-16	水道事業民営化可能性検討会議の設置	水道事業のより効率的な運営を図るために、「水道事業民営化可能性検討会議」を設置し、水道事業民営化の可能性を検討する。	進捗率	平成24年度は水道事業民営化可能性検討会議を2回開催することとしていたが、そのとおり実施できたことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。なお、会議は弘前大学教授及び市民団体の代表者など7名で構成した。				
			A					
			達成率	目標は「検討会議開催回数2回/年」としており、会議を2回開催したことから「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			検討会議開催回数 2回/年		—	2	2	
		事務事業名	決算額		0	110	109	
		水道事業民営化可能性検討事業	今後の課題	水道ビジョンのフォローアップにより、今年度、完成予定の平成25年度版水道ビジョンに基づいて、水道事業の健全で安定的な経営基盤の構築を目指します。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容					
3-(1)-17	PFI(※25)等民間ノウハウなどの導入によるインフラ(※26)サービスの展開		進捗率	施策を構成する2事業について、「工程表より遅れている」となっていることから、施策全体としては、「 工程表より遅れている 」と評価した。					
			C						
			達成率	構成する2事業について、「遅れている」が1事業、「概ね順調に推移」が1事業となったが、指定管理者制度の活用目標を達成し、FMの庁内研修会開催や施設の適正配置について協議を行ったことから、施策全体として総合的に勘案し、「 概ね順調に推移 」と評価した。					
			B						
						H22	H23	H24	H25
			決算額			0	0	0	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容					
	市が直接実施するよりも、民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用することが、効率的かつ効果的となる事業について、次の取り組みを行い、事業コストの削減、より質の高い公共サービスの提供を目指す。 (1)施設の新設事業への導入 民間資本の導入方式を主体として、可能性と効果を検討し、効果的と判断されるものには積極的に導入を図り事業を展開する。 (2)既存施設の維持管理事業への導入 土地、建物、設備などを最適な状態(コスト最小、効果最大)で保有・運営・維持するための総合的な管理手法(FM:ファシリティマネジメント(※17))の運用を図る。 また、施設を必要な技術や知識を備えた民間へ管理運営してもらう指定管理者制度(※27)などを積極的に導入する。	民間ノウハウ導入によるインフラサービス展開事業 (1)施設の新設事業への導入	進捗率	民間ノウハウ導入が可能となる施設の新設事業の実施では導入へ向けた検討・準備を行ったが、本格的に実施できなかったことから、「 工程表より遅れている 」と評価した。					
			C						
			達成率	目標は「民間資本の導入による事業件数」としており導入へ向けた検討・準備を行ったが、本格的にに実施できなかったことから「 遅れている 」と評価した。					
			C						
			目標			H22	H23	H24	H25
			民間資本の導入による事業件数(H24～H25) 1件			-	-	-	
	今後の課題	平成25年度内に、民間資本導入が可能となる施設の新設事業を実施する。							
	事務事業名		自己評価	平成24年度実施内容					
		民間ノウハウ導入によるインフラサービス展開事業 (2)既存施設の維持管理事業	進捗率	指定管理者制度を活用した施設運営の外部委託については目標を達成している。FMへの理解を深めるために庁内研修会を開催し、「FM推進会議」を設置して施設の適正配置などについての協議を行ったが、平成24年度は、施設データをデータベース化し、一元管理するためのシステム導入には至らなかったことから、「 工程表より遅れている 」と評価した。					
			C						
			達成率	指定管理者制度を活用した施設運営の外部委託については目標値を達成しているが、FM運用に関しては、市有施設保全管理システムの導入方法についてを再検討することとしたことから「 概ね順調に推移 」と評価した。					
			B						
			目標			H22	H23	H24	H25
			FM(ファシリティマネジメント)対象施設件数 900件(H25) 900件(H24)			-	-	-	
			【参考】(仮称)弘前市FM(ファシリティマネジメント)基本方針策定			-	-	-	
			施設運営の外部委託件数 2件(H25) 29件(H23) 1件(H24)			-	29	30	
	今後の課題	市有施設保全管理システムを導入し、弘前市ファシリティマネジメント基本方針を策定する。							

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
3-(1)-18	岩木川自然農法(無農薬・減農薬によるブランド化、循環型農業)社会実験の実施	無農薬、減農薬により環境への負荷を軽減し、環境に配慮した地域循環型農業のモデル事業を支援する。	進捗率	平成24年度は、地域循環型農業のモデル事業及び地域の選定をすることとしていたが、無農薬・減農薬に取り組む面積がまだ少ないことや、個々での取り組みが多く、まとまった地域としての選定が出来なかったため「 工程表より遅れている 」と評価した。しかしながら、環境保全型農業直接支援対策事業においては、平成23年度の申請者の4倍となる12事業者を対象に実施しており、無農薬・減農薬に取り組む面積は着実に増加しており、今後は地域としてもまとまってくるものと思われる。				
			C					
			達成率	目標を平成24年度は「無農薬・減農薬取り組み農地面積1,400ha」としているが、平成24年度は取り組み農地面積が1,319haであり、目標の農地面積の94.2%を達成しているほか、平成23年度から始まった環境保全型農業直接支援対策事業においても、申請面積が増加していることから「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			無農薬、減農薬取り組み農地面積(H22～H25) 1,600ha 1,160ha(H22)、1,200ha(H23)、1,400ha(H24)		-	1,195(注1)	1,319(注2)	
		事務事業名	決算額		4,266	3,438	3,000	
		(仮称)エコファーマー(※28)推進事業	今後の課題	無農薬・減農薬により農産物の付加価値を高め、販売拡大を図るためにブランド化は欠かせないが、米の場合、ライスセンターや営農組織単位でエコファーマーの認定を受けることになるため、今後はライスセンターや営農組織の利用者全員がエコファーマーの認定を受けるよう働きかける必要がある。				
			注1	(内訳) エコファーマー認定面積 1,153ha 環境保全型農業直接支援対策事業に取り組んだ面積 42ha				
			注2	(内訳) エコファーマー認定面積 1,256ha 環境保全型農業直接支援対策事業に取り組んだ面積 63ha				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
☆ 3-(1)-19	自転車利用環境の研究	自転車利用のニーズが高まる中、関係機関とともに自転車の利用環境の向上に向けた対策の検討を行う。	進捗率	平成24年度は、ワークショップの開催やアンケート調査を実施することとしていたが、平成24年9月にワークショップを、12月にアンケート調査を実施したことから「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「研究会開催回数3回／年」としているが、研究会としてワークショップや交通フォーラム、自転車利用環境研究会を開催したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			研究会開催回数 3回/年		—	1	3	
			【参考】自転車利用環境関連事業数 2事業/年			-	1	
		事務事業名	決算額		0	0	3,022	
		自転車利用環境研究事業	今後の課題	蓄積したデータを活用し、来年度「自転車マップ」作成予定。				

約束 3- (2) 魅力あるまちづくりを進めます。【防災、環境・新エネルギー】

めざす姿

災害に強く、市民が暮らしやすい魅力ある低炭素・循環型のまちになっています。

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名		取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値				H24目標値 に対する 達成率	H25目標値 に対する 達成率
					22	23	24	25		
①	自主防災組織結成率（世帯比率）を20%に高めます。	業務取得	%	7	- 7.9	- 8.9	12.0 9.5	20.0	×	—
②	災害に対応した備蓄体制の整備を進めます。 防災アセスメントによりH24の基準値取得後に目標値を設定	業務取得	%	-	- -	- -	- -	-	—	—
	【参考】AP2013指標 地震や台風などに対する総合的な防災体制について満足している市民の割合を増やします。	市民評価 アンケート	%	9.7	- 9.7	- 13.5	- 14.7	15.0		
③	安全・安心な生活環境だと思える市民を増やします。	市民評価 アンケート	%	-	- 23.1	- 24.6	25.0 26.5	28.0	○	—
④	リサイクル率14.9%を目指します。 ※23年度現状値は環境省が公表する「一般廃棄物処理事業実態調査」公表値、24年度現状値は当市による速報値(概算)	業務取得	%	8.7	8.9 8.8	9.1 10.0	13.4 ※11.3	14.9	×	—
⑤	新エネルギーを導入した公共施設数8施設を目指します。	業務取得	施設	0	0 0	2 3	6 6	8	○	—
	【参考】AP2013指標 再生可能エネルギーを導入した公共施設数16施設を目指します。	業務取得	施設	0	0 0	2 3	6 6	16		
⑥	新エネルギー・省エネルギーの補助制度による一般住宅への導入を推進します。目標年100件。	業務取得	件	0	- 0	- 0	100 73	100	×	—
	【参考】AP2013指標 再生可能エネルギー・省エネルギーの補助制度による一般住宅への導入を推進します。目標年55件。	業務取得	件	0	- -	- -	- 72	55		

H24目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み ×:目標を達成できない —:判断できない
H25目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み —:目標を達成できない・判断できない

関連指標名	取得方法	単位	上段：数値取得時期 下段：取得数値				
			H20	H21	H22	H23	H24
弘前市内における犯罪の件数	青森県の犯罪統計資料	件	1,803	1,656	1,791	1,581	1,233

約束全体の評価

めざす姿の達成状況を示す指標 6 項目について、平成 24 年度の目標値に対する達成率は、「目標を達成済み」が 2 項目、「目標を達成できない」が 3 項目となっており、達成率は高いといえない状況にあります。これは、目標が高めの設定になっている指標があることなどが影響しているものです。このため、「目標を達成できない」指標の一部について、アクションプラン 2013 で目標値を変更しております。

なお、関連指標の「弘前市内における犯罪の件数」は、減少傾向にあります。

平成 24 年度における注目指標のうち、業務取得による「①自主防災組織結成率（世帯比率）を 20 % に高めます。」については、H24 実績が 9.5 % と目標の 12 % を達成できませんでした。H25 目標の 20 % まで結成率を高めるよう、様々な取り組みを行っていきます。

同じく、業務取得による「新エネルギー・省エネルギーの補助制度による一般住宅への導入を推進します。目標年 100 件。」については、H24 実績が 72 件と目標の 100 件を達成できませんでした。アクションプラン 2013 では補助の目的や対象設備等を見直し、H25 目標を 55 件に修正しました。

次に、個別施策の実施状況ですが、「進捗率」では、9 項目中 7 項目が「工程表どおり実施済み」、2 項目が「概ね工程表どおり実施済み」となっており、ほぼ工程表どおり実施されています。「達成率」では、9 項目中 3 項目が「目標を達成済み」、4 項目が「概ね順調に推移」、2 項目が「遅れている」となっており、概ね順調に達成しています。

施策の実施状況や指標全体の傾向と注目指標の達成状況等を総合的に勘案すると、「安全安心な生活環境を思う市民の割合」と「新エネルギーを導入した公共施設数」は目標を達成していますが、一方では、「自主防災組織結成率」など目標を達成することができなかったものが過半数を占めるため、めざす姿に向けては遅れていると考えます。

このことから、今後は、平成 24 年度で達成できなかった指標と個別施策の改善について、積極的な取り組みを行うとともに、その他の関連施策についても、災害に強く、市民が暮らしやすい魅力ある低炭素・循環型の魅力あるまちづくりに向けて、着実に推進していくことが必要であると考えます。

個別施策の実施状況				
項目		事務事業数	進捗率	達成率
【市民の共助の取組みを支援し、市民や地域の生活環境の安全・安心と防災力を高めます】				
	● 1 地域コミュニティ単位での防犯体制の整備（コンビニエンスストアとの防災協定など）	1	A	A
	☆ 2 市民防災力の向上	2	A	B
【市の防災・減災体制の整備・強化を図ります】				
	☆ 3 自治体としての防災力強化	3	B	B
	☆ 4 地域をあげた防災力向上	1	A	A
【再生可能エネルギーの活用、りんごの再資源化やゴミの減量化を進めます】				
	○ 5 市立病院等の公共施設への新エネルギー導入や省エネルギーの推進	4	B	B
	○ 6 りんご資源リサイクル検討会議（剪定枝バイオ燃料・絞るかす利用）の設置	2	A	B
	○ 7 生ゴミ市内循環システムなどの構築によるゴミの減量化	2	A	C
	☆ 8 一般住宅への新エネルギー導入や省エネルギーの推進	1	A	C
	☆ 9 次世代のエネルギー利用の構築	2	A	A

進捗率 A:工程表どおり実施済み B:概ね工程表どおり C:工程表より遅れている -:未着手
達成率 A:目標を達成済み B:順調に推移 C:遅れている -:判断できない

上段：年度別概算所要額（単位：千円）／下段：年度別決算額（単位：千円）			
22年度	23年度	24年度	25年度
100	6,730	11,410	7,410
15	7,570	80,550	

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
3-(2)-1	地域コミュニティ単位での防犯体制の整備 (コンビニエンスストアとの防災協定など)	安全・安心のまちづくりを推進するために、次の取り組みを行う。 ①防犯協会・暴力追放市民会議・町会連合会との連携強化による効果的な防犯活動を通じ、地域の自主防犯意識高揚を図る。 ・合同街頭キャンペーン ・リーダー育成研修会 など ②モデル地区を選定し、自主防犯活動支援策の展開を図る。 ・自主防犯啓発決起大会開催 ・防犯啓発用プレート等の作成と配布 ・自主パトロール隊組織及び活動 ・シルバー世帯訪問啓発活動・地域安全マップ作成 など ③青色回転灯防犯車による「見せる防犯」を実施する。 ・公用車に青色回転灯を装着し児童・生徒の下校時に防犯パトロールを実施	進捗率	合同キャンペーン、リーダー育成研修会などの開催は、平成24年度において関係機関・団体と連携して実施した。モデル地区選定・自主防犯活動支援策は、三大小学区の三大地区地域づくり連絡協議会を選定し、「市民参加型まちづくり1%システム」を活用し、防犯活動支援策を行った。青色回転灯防犯車による「見せる防犯」パトロールは、ほぼ毎週実施できたことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	合同キャンペーン、リーダー育成研修会、暴力団追放に係る研修会をそれぞれ1回実施した。モデル地区選定については、平成24年度の目標である小学校1校を選定した。青色回転灯防犯車による「見せる防犯」パトロールは、小中学校の長期休校日を除き毎週実施できたことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			合同街頭キャンペーン 1回/年		—	—	1	
			リーダー育成研修会 1回/年		—	—	1	
			その他研修会 1回/年		—	—	1	
			モデル地区選定 小学校区 3 中学校区 1 小学校区1 (H23)、小学校区1 (H24)、中学校区1 (H25)		—	2	1	
			青色回転灯防犯車による防犯パトロール 1回/週		—	10	49	
			【参考】安全安心だと思ふ市民の割合 H25 28.0%		—	—	26.5	
			【参考】キャンペーン、研修会等参加者数 H25 550名		—	—	400	
		事務事業名	決算額		0	0	213	
		安全・安心地域づくり推進事業	今後の課題	弘前警察署をはじめ関係機関・団体との連携を強化し継続的な協議を行うことにより、目標達成を目指す。また、青色回転灯防犯車によるパトロールの実施回数を増やしていく。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
☆ 3-(2)-2	市民防災力の向上		進捗率	構成する2事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」と評価しており、施策全体についても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	構成する2事業のうち、1事業は「目標を達成済み」であるが、1事業については「概ね順調に推移」と評価していることから、施策全体としては「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(1)地域防災の中心となる自主防災組織の結成支援、活動支援を行うとともに、市民、町会等への防災意識、地域コミュニティ（自主防災組織等）の重要性・必要性の普及啓発のための研修会等を開催する。	①自主防災組織育成支援事業	進捗率	平成23年度に引き続いて防災意識の普及啓発を強化し、自主防災組織の結成・活動支援を行うこととしていたが、資機材購入に対する支援制度の実施、啓発研修会の開催及び広報紙による情報発信に努めたことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	研修会及び情報発信については目標を達成したが、自主防災組織の結成数については、目標の年20団体に対して18団体の結成であったことから「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			自主防災組織結成数 H25新規40団体（H24～H28で100団体）		－	4	18	
			地域防災啓発研修会開催回数 2回/年		－	2	2	
			広報紙による情報発信 5回/年		－	5	5	
			決算額		－	1,098	6,298	
			今後の課題	東日本大震災を経験して高まった防災意識を継続させ、平常時からの防災に対する関心を高めていく必要がある。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(2)市民防災力向上を推進する「地域リーダー」を育成するための講座を弘前大学等と連携して開設するとともに、未来の防災を担う人材を育成するための「防災教育」を展開する。	②防災まちづくり推進事業	進捗率	防災マイスター育成講座及びモデル校への防災教育の両事業とも実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	39名の防災マイスターを認定し、防災教育はモデル校8校で実施したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			防災マイスター育成 10人/年		－	－	39	
			防災教育実施校 H23 3～6校（モデル校選定） H24～25 実施		－	－	8	
			決算額		－	532	616	
			今後の課題	両事業の実施結果を総括し、今後の方向性について検討する必要がある。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
☆ 3-(2)-3	自治体としての防災力強化		進捗率	構成する3事業のうち、2事業は「工程表どおり実施済み」であるが、残り1事業については「工程表より遅れている」と評価したことから、施策全体としては「 概ね工程表どおり実施済みで、一部が遅れている 」と評価した。				
			B					
			達成率	構成する3事業のうち、2事業は「目標を達成済み」と評価しており、残り1事業については「遅れている」が、施策全体としては「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	①市の災害危険箇所、地震、風水害、土砂災害などの災害による被害想定を把握し、地域実情に沿った実効性の高い防災・減災対策を講じて行くための調査を行う。	①防災アセスメント調査事業	進捗率	業務委託による防災アセスメントを実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標である「危険箇所の把握、災害による被害想定、地区別カルテの作成」をすべて達成していることから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			危険箇所の把握		-	-	実施済み	
			災害による被害想定を作成		-	-	実施済み	
			地区別カルテの作成		-	-	実施済み	
			決算額		-	-	13,860	
			今後の課題	防災アセスメントの結果を踏まえた、実効性のある防災・減災対策を実施していく必要がある。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	②災害時において、避難者等に円滑に食料等の供給などを実施することができるような備蓄体制を整備する。 また、広域的な備蓄体制についても整備を進めて行く。	②備蓄体制整備事業	進捗率	備蓄物資の購入・配備については平成24年度において実施しているが、備蓄計画については防災アセスメントの結果を踏まえる必要があることから策定しておらず、「 工程表より遅れている 」と評価した。				
			C					
			達成率	備蓄計画の策定について達成できなかったことから、「 遅れている 」と評価した。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			2,000人分の備蓄、備蓄計画策定(H24)		-	-	一部実施済み	
			備蓄施設基本設計(H25)		-	-	-	
			決算額		-	-	5,356	
			今後の課題	災害協定の締結による流通備蓄の確保を進めるとともに、備蓄計画を策定して計画的かつ効率的な現物備蓄を行っていく必要がある。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
③災害時において、応急対策等に必要な資機材の確保、被災者への物資や食料等の供給のために、市が行う現物備蓄のほかに、民間企業等との災害時における物資や資機材確保・供給などについての協定締結を進める。	③災害協定締結推進事業	進捗率	災害協定締結及び防災協力事業所登録を推進するために、市ホームページなどによる事業所等への一般的な周知のほか、個別の働きかけなどを行って事業に取り組んだことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	災害協定締結数及び防災協力事業所登録数とも目標を達成していることから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		協定締結数 15事業所 (H25) 10事業所 (H22)、11事業所 (H23)、13事業所 (H24)		10	13	19	
		防災協力事業所登録事業所 20事業所 (H25) 15事業所 (H22)、16事業所 (H23)、18事業所 (H24)		15	17	21	
		決算額		0	64	10	
		今後の課題	未締結分野を中心に災害協定の締結を推進していくとともに、既締結分野についても更なる重層化を図っていく必要がある。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
☆ 3-(2)-4	地域をあげた防災力向上		進捗率	構成する2事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」と評価しており、施策全体についても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	構成する2事業について、それぞれ「目標を達成済み」と評価しており、施策全体についても「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	災害に備えて、市、関係機関、自主防災組織、市民等が連携した実戦的な訓練を実施する。訓練は、広域的な対応も想定し、定住自立圏域市町村とも連携する。また、職員対して災害対応力向上のための研修等を実施する。	①総合防災訓練	進捗率	平成24年度は、青森県との合同で青森県総合防災訓練を実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	青森県総合防災訓練へは87機関が参加して実施したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			参加機関 35団体以上		-	34	87	
			決算額		-	121	467	
			今後の課題	関係機関や定住自立圏域市町村とも連携しながら、より効果的な訓練を実施し、圏域全体の防災力を高めていく必要がある。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
災害に備えて、市、関係機関、自主防災組織、市民等が連携した実戦的な訓練を実施する。訓練は、広域的な対応も想定し、定住自立圏域市町村とも連携する。また、職員対して災害対応力向上のための研修等を実施する。	②防災研修	進捗率	職員を対象に災害対策本部設置・運営演習を実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	受講者数は43名であったことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		受講者数 20人以上/年		-	15	43	
		決算額		-	0	0	
		今後の課題	効果的な職員向けの研修を実施し、災害対応力の向上を図っていく必要がある。				

3-(2)-5	市立病院等の公共施設への新エネルギー導入や省エネルギーの推進	進捗率	施策を構成する4事業のうち、3事業が「工程表どおりに実施済み」、1事業が「工程表より遅れている」との評価になっていることから、施策全体として「 概ね工程表どおり実施済みで、一部が遅れている 」と評価した。				
		B					
		達成率	構成する事業について、「目標を達成済み」が2事業、「遅れている」が1事業、「判断できない」が1事業となっていることから、施策全体として総合的に勘案し、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
		B					
				H22	H23	H24	H25
		決算額		15	5,186	34,645	
実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
公共施設への新エネルギーの導入及び省エネルギーを推進し、CO2削減を図るために、次の取り組みを行う。 (1)新エネルギー設備の導入 ・公共施設に太陽光発電システムなど導入	(1)新エネルギー設備導入事業	進捗率	平成24年度は、相馬支所、石川小学校、城東児童館に太陽光発電設備を導入することとしていたが、平成25年3月に導入が完了したことから「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標を「導入施設数3施設」としているが、相馬支所、石川小学校、城東児童館の3施設に導入したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		導入施設数 8施設 (H25) 2施設 (H23)、6施設 (H24)		0	3	6	
		今後の課題	再エネ基金を活用し、太陽光発電設備等を設置することとしているが、計画どおり進むように進行管理を適切に行っていく必要がある。				

実施内容	事務事業名	自己評価					
(2)省エネルギー事業の実施 ・市立病院エスコ事業(※29) ・インハウスエスコ事業(※30) ・ファシリティマネジメント事業	(2)省エネルギー事業 市立病院エスコ事業	進捗率	エスコ事業の導入について、省エネルギー診断、弘前市立病院建築総合調査の結果をもとに検討した結果、今後、耐震改修が予定されていることから、既存設備に係るエスコ事業による改修は行わないこととした。また、省エネルギー事業として、照明のLED化を推進し、耐震改修にあわせた再生可能エネルギーの導入や省エネルギー化を図ることとしたことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率					
		—	目標は「導入公共施設数」となっていたが、検討した結果、既存設備に係るエスコ事業を行わないこととした。				
		目標		H22	H23	H24	H25
		導入公共施設数 1施設 (H25)		—	—	—	
		今後の課題	—				
	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(2)省エネルギー事業 インハウスエスコ事業	進捗率	3年間の事業の総括として「インハウスエスコ事業のまとめ」を8月に作成したほか、新たに3施設（総合保健センター・大成小学校・第三大成小学校）で実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率					
		A	目標を「導入公共施設数」としており、平成24年度に3施設で実施した結果、累計9施設となったことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		目標		H22	H23	H24	H25
		導入公共施設数 9施設 (H25) 6施設 (H22)、6施設 (H23)、6施設 (H24)		6	6	9	
		今後の課題	弘前市ファシリティマネジメント基本方針に基づきインハウスエスコ事業を推進する。				
	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(2)省エネルギー事業 ファシリティマネジメント事業	進捗率	ファシリティマネジメントについての理解を深めるために庁内研修会を開催した。また、「ファシリティマネジメント推進会議」を設置し、施設の適正配置などについての協議を行ったが、平成24年度は、施設データをデータベース化し、一元管理するためのシステムを導入できなかったことから、「 工程表より遅れている 」と評価した。				
		C					
		達成率					
		C	平成24年度は、市有施設保全管理システムの導入方法について再検討することとしたことから、「 遅れている 」と評価した。				
		目標		H22	H23	H24	H25
		ファシリティマネジメント対象施設件数 900件 (H25) 900件 (H24)		—	—	—	
		【参考】(仮称)弘前市FM(ファシリティマネジメント)基本方針策定					
		今後の課題	弘前市ファシリティマネジメント基本方針に基づいた管理体制を構築する。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
3-(2)-6	りんご資源リサイクル検討会議(剪定枝・バイオ燃料・搾りかす利用)の設置		進捗率	施策を構成する2事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	構成する2事業について、「目標を達成済み」が1事業、「遅れている」が1事業となったが、遅れている1事業についても事業実施団体が決定し事業に取り組む段階であることを勘案し、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		0	0	0	
日本一の生産量を誇るりんごのさらなる活用を図るため、関係機関、関係団体を交えたりんご資源リサイクル検討会議を設置して、剪定枝・搾りかす利用などについて、より付加価値の高い素材への利活用を検討する。	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(1)りんご資源リサイクル検討会議設置		進捗率	平成25年3月に検討会議を開催し、剪定枝の堆肥化、資材、燃料としての利活用や、収集運搬における問題点を整理したことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「検討会議開催回数」にしており、各年度に1回開催したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			検討会議開催数 1回/年		—	1	1	
			今後の課題	—				
	事務事業名		自己評価	平成24年度実施内容				
	(2)りんご資源リサイクル対策事業		進捗率	市内農業生産法人が「弘前市りんご剪定枝有効活用事業」を活用し、剪定枝の収集、チップ状への形状加工、白炭・黒炭等への試作品加工、試験、商品化の検討について実施していることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	モデル事業に取り組む団体が決定したのが平成25年3月であったことから、「 遅れている 」と評価した。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			モデル事業実施団体数 1団体(H25)		—	—	0	
			搾りかすリサイクル率 100%(H25)		98.00%	—		
			今後の課題	剪定枝の効率的な回収方法の研究や、より付加価値の高い加工製品の開発に取り組む必要がある。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
3-(2)-7	生ゴミ市内循環システムなどの構築によるゴミの減量化		進捗率	施策を構成する2事業について、それぞれ「工程どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	構成する2事業が、「遅れている」であることから、施策全体として「 遅れている 」と評価した。				
			C					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	生ごみの堆肥化を促進し、生ごみの減量化を図るために、次の取り組みを行う。	(1)ダンボールコンポストモニター事業	進捗率	平成24年度は、200名のモニターが7月から9月の3ヶ月間、ダンボールコンポストを実施し、うち171名からアンケートを回収し、その結果、2,980kgの生ごみを減量したことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標のうち、「モニター実施者数200人/年」については達成したが、「モニター事業による生ごみ減量実績5t/年」は2.98tに留まったため、「 遅れている 」と評価した。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			モニター実施者数 200人/年		—	200	200	
			モニター事業による生ごみ減量実績 5t/年		—	3.045	2.98	
			決算額		0	266	251	
			今後の課題	市が作成した「失敗しないダンボールコンポストマニュアル」により、初めての人でも手軽に実施及び失敗せずに継続できるようにする。				
	(1)一般家庭でのダンボールコンポストのモニター事業を実施し、普及啓発を行う。							
	(2)先進地の「生ごみ循環支援モデル事業」を参考に、当市に適したシステムの実現を図るため、モデル事業を実施する。	(2)生ごみ循環支援モデル事業	自己評価	平成24年度実施内容				
			進捗率	平成24年度は、モニターを公募し、6団体(77世帯)が生ごみ処理機を利用して堆肥を作成した。実績報告から9月から2月の6ヶ月間で、5,204kgの生ごみを減量したことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標のうち、「モデル事業による生ごみ減量実績11t/年」は5.2tに留まったため、「 遅れている 」と評価した。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			モデル事業による生ごみ減量実績 11t/年		—	—	5.2	
			決算額		0	302	3,681	
			今後の課題	生ごみ処理機で作られた堆肥の成分分析の結果などをもとに堆肥化マニュアルの作成や事業検証を行う。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
☆ 3-(2)-8	一般住宅への新エネルギー導入や省エネルギーの推進	東日本大震災を踏まえ、一般住宅の電源確保のため、新エネルギーの導入及び省エネルギーを推進し、CO2削減を図るために、太陽光発電設備並びに蓄電池設備の補助制度を導入する。	進捗率	平成24年度は、太陽光発電設備並びに蓄電池設備の補助制度を導入することとしていたが、補助制度を導入し、広報誌等やイベント等を利用したPRも合わせて実施したことから、「 <u>工程表どおり実施済み</u> 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「新規導入件数100件/年としていたが、平成24年度の導入件数は72件に留まったことから、「 <u>遅れている</u> 」と評価した。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			新規導入件数 100件/年		—	—	72	
		事務事業名	決算額		0	0	5,023	
		住宅用太陽光発電設備等導入支援事業	今後の課題	実際に設置した市民の声として、「太陽光設備や蓄電池設備並びにHEMS機器を導入することで、どのような効果があったか」をアンケート等で調査し公表するなど、より広く市民に周知していく必要がある。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
☆ 3-(2)-9	次世代のエネルギー利用の構築		進捗率	構成する2事業すべてが工程表どおり実施されたことから、全ての項目について「 <u>工程表どおり実施済み</u> 」と評価した。				
			A					
			達成率	構成する2事業すべてが施策の目標を達成したことから、「 <u>目標を達成済み</u> 」と評価した。				
			A					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	東日本大震災を踏まえ、次世代のエネルギー利用のあり方を再検討し、現状にそぐわなくなっている「弘前市地域新エネルギービジョン」を見直し、新たな構想を策定することで新エネルギーの導入や省エネルギーを推進する。	・地域新エネルギービジョン見直し事業	進捗率	スマートシティ構想の策定に合わせて、工程表どおり平成24年度中に見直ししたことから、「 <u>工程表どおり実施済み</u> 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標である「新エネルギービジョンの見直し(平成24年度)」を達成したことから、「 <u>目標を達成済み</u> 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			新エネルギービジョンの見直し(H24)		—	—	1	
			決算額		0	0	4,694	
			今後の課題	再生可能エネルギーの導入にあたっては、国等の財源を確保しながら進め、エネルギーの自給率の向上を図っていく必要がある。				
	・スマートシティ構想策定事業		進捗率	工程表どおり、平成24年度中にスマートシティ構想を策定したことから、「 <u>工程表どおり実施済み</u> 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標である「スマートシティ構想の策定(平成24年度)」を達成したことから、「 <u>目標を達成済み</u> 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			スマートシティ構想の策定(H24)		—	—	1	
			【参考】スマートシティ構想プロジェクトの着手件数 2件		—	—	4	
			決算額		0	0	5,436	
			今後の課題	スマートシティ構想とともに、雪対策総合プランの進行管理をしていく必要がある。				

約束 4 - (1) 子育てするなら弘前で、を目指します【子育て】

めざす姿

子育てに適した環境が整って、安心して子どもを産み、元気に育てることができ、子ども達の笑顔があふれています。

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名		取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値				H24目標値 に対する 達成率	H25目標値 に対する 達成率
					22	23	24	25		
①	合計特殊出生率1.30を目指します。（市町村別合計特殊出生率（5年毎に公表）の次回公表予定：平成25年度）	人口動態統計市町村合計特殊出生率	－	1.19	－	－	－	1.30	－	－
	【参考】AP2013指標 子育て支援サービスに満足している市民を増やします。	市民評価アンケート	%	27.2	－	－	－	30.0		
					－	－	23.6			
②	保育所待機児童数 0人を維持します。 ※産休・育休明け、年度途中就労による入所基準を改善します。	業務取得	人	0	0	0	0	0	○	○
					0	0	0			
③	放課後待機児童数 0人を目指します。	業務取得	人	15	0	0	0	0	○	○
					0	0	0			
④	放課後児童健全育成事業に満足している市民を増やします。	市民評価アンケート	%	29.5	－	－	40.0	45.0	×	－
					29.5	31.8	28.8			
	【参考】AP2013指標 放課後児童健全育成事業に満足している市民を増やします。 ※実績値を修正（「わからない」又は「無回答」を除いて再設定）	市民評価アンケート	%	35.2	－	－	40.0	45.0		
					35.2	41.6	35.6			
⑤	子育て支援や相談体制が整っていると思う市民を増やします。	市民評価アンケート	%	25.3	－	－	35.0	40.0	×	－
					25.3	24.5	25.2			
⑥	青少年の健全育成活動（子ども会等を含む）に参加したことがある市民を増やします。	市民評価アンケート	%	15.6	16.0	17.0	18.5	23.0	○	○
					20.3	24.1	25.3			

H24目標値に対する達成率 ○：目標を達成済み ×：目標を達成できない －：判断できない
 H25目標値に対する達成率 ○：目標を達成済み －：目標を達成できない・判断できない

関連指標名	取得方法	単位	上段：数値取得時期 下段：取得数値					
弘前市の出生率(人口千対)の推移(①合計特殊出生率の関連指標) (数値は暦年で取得)	青森県保健統計年報	人	H18	H19	H20	H21	H22	H23
			7.3	6.8	7.4	6.9	7.1	6.5
【参考】AP2013指標 合計特殊出生率1.30を目指します。(市町村別合計特殊出生率(5年毎に公表)の次回公表予定:平成25年度)	人口動態統計市町村合計特殊出生率	人	S63-H4	H5-H9	H10-H14	H15-19		
			1.45	1.44	1.3	1.19		

約束全体の評価

めざす姿の達成状況を示す指標6項目について、平成24年度の目標値に対する達成率は、「目標を達成済み」が3項目、「目標を達成できない」が2項目、「判断できない」が1項目となっており、達成率は高いとはいえない状況にあります。

平成24年度における注指標である人口動態統計による市町村別の合計特殊出生率は、国が5年に1度公表しており、次回公表されるのは平成25年度（平成26年2月ころ）の予定となっております。したがって、「①合計特殊出生率 1.30を目指します。」については平成24年度において判断できない状況にあります。そこで、青森県保健統計年報により毎年公表される、人口千対の出生率を代替指標として平成18年から平成23年（直近の公表値）までの推移を見ると、複数年にわたる増加または減少といった一定の傾向を示しているとはいえないと考えます。

なお、第三者評価による提言を踏まえアクションプラン2013では、この指標を「①子育て支援サービスに満足している市民を増やします。」に変更するとともに合計特殊出生率を関連指標として再設定いたしました。

「②保育所待機児童数0人を維持します。」と「③放課後待機児童数0人を目指します。」は目標を達成しております。

「④放課後児童健全育成事業に満足している市民を増やします。」と「⑤子育て支援や相談体制が整っていると思う市民を増やします。」については、中学生までの子どもと同居している市民を対象とした現状値として、それぞれ28.8%、25.2%となっており、④、⑤共にほぼ横ばいとなっており、共に平成24年度の目標値は達成できませんでした。

「⑥青少年の健全育成活動（子ども会等を含む）に参加したことがある市民を増やします。」については、目標を達成しておりますが、逆に「参加したことがない」と回答した市民が7割を超えているため、これまで以上に青少年健全育成活動の必要性を市民にアピールする必要があると考えます。

次に個別施策の実施状況ですが、「進捗率」では8項目すべてが「工程表どおり実施済み」となっており、「達成率」では8項目のうち、「目標を達成済み」が6項目、「順調に推移」が1項目、目標を設定していないため「判断できない」ものが1項目となっています。

施策の実施状況や指標全体の傾向、目標の達成状況等を総合的に勘案すると、子育てに適した環境は高まる傾向が見られ、めざす姿に向けては**おおむね順調に推移している**と考えます。

今後とも、平成23年10月に策定した「Smile弘前子育てマスタープラン」の方針に沿った事業やアクションプラン掲載事業、エボリューション3に掲げた事業を実施していくことにより、ますます子育てに適した環境が整備されていくものと考えております。

平成24年度から実施している「子育てスマイル(住まいる)アップ補助金」は、子育てに適した住宅の新築・購入・リフォームに係る経費の一部を補助する制度で、予算額の2倍を超える応募があったため公開抽選を実施しており、利用者から好評を得ています。

さらに、18歳未満の子どもが3人以上いる場合、市の公共施設の利用料を免除する「多子家族応援パスポート事業」や18歳までの子どもの入院に係る医療費を無料化する「子ども医療費給付事業」を今年度から実施するなど、子育てしやすい環境の整備を進め、子育て支援サービスに満足している市民が増えるよう取組みを強化しております。

個別施策の実施状況				
項目		事務事業数	進捗率	達成率
【“子育ては弘前で”子ども達の笑顔あふれるひろさきを目指します】				
	○1 「子育てスマイル（住まいる）アップ補助金」の支給	1	A	A
	○2 休日や夜間・早朝など保育時間の弾力化と学童保育体制の充実	2	A	A
	○3－1 子育て支援課の設置とSmile弘前子育てマスタープラン策定	2	A	－
	☆3－2 Smile弘前子育てマスタープラン推進	3	A	A
	●4 子育て支援センターの整備（高齢者と子どもの交流や集いの広場、地産地消食育レストラン、地域子育てサポーター〈高齢者による夜間休日保育ボランティア〉配置、e t c）	1	A	A
	●5 児童館の再編・改築	3	A	A
	●6 親力向上委員会（弘前式しつけマニュアルの策定）の設置	1	A	A
	●7 子供会活動の活性化（地域コミュニティの復活）	2	A	B

進捗率 A:工程表どおり実施済み B:概ね工程表どおり C:工程表より遅れている -:未着手
達成率 A:目標を達成済み B:順調に推移 C:遅れている -:判断できない

上段：年度別概算所要額（単位：千円）／下段：年度別決算額（単位：千円）			
22年度	23年度	24年度	25年度
129,385	93,936	118,352	118,747
117,361	92,122	124,121	

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
4-(1)-1	「子育てスマイル(住まいる)アップ補助金」の支給	子育て家庭に対する経済的支援策として、子育てに適した住環境の創出及び定住促進を図るため、市内施工業者を活用して、住宅の新築や中古住宅等の購入または住宅の増改築等のリフォーム工事を行った者に対し、弘前市子育てスマイル(住まいる)アップ補助金を交付する。	進捗率	工程表どおり平成24年4月から補助事業を実施したことから、「 <u>工程表どおりに実施済み</u> 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「補助件数 80件/年」としているが、実績は75件となった。補助件数がわずかに見込みを下回ったものの、その理由としては、抽選結果の新築・購入に係る補助の割合が想定より高かったことと年度終盤で辞退が出たためである。結果として予算額の2倍を超える申請があり、ほぼ予算額どおりの補助により、子育てに適した住環境の整備に寄与することができたことから「 <u>目標を達成済み</u> 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			補助件数 80件/年		-	-	75	
		事務事業名	決算額		0	0	24,275	
		子育てスマイル(住まいる)アップ補助事業	今後の課題	現時点で今年度の実施方法について、申請者や施工業者からの意見・要望等はないが、今後の実施状況や利用者からの意見等を踏まえ、次年度以降の実施方法について検討していく。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
4-(1)-2	休日や夜間・早朝など保育時間の弾力化と学童保育体制の充実		進捗率	施策を構成する2事業について、共に「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	施策を構成する2事業について、共に「目標を達成済み」となっていることから、施策全体としても「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(1)保護者が平日の夜間、就労等の都合で児童を家庭で養育することが困難な場合などに、保護を適切に行うことができる施設においてその児童を保護し、生活指導、食事の提供等を行う。	(1)トワイライトステイ(夜間養護等)事業	進捗率	弘前愛成園に併設される児童家庭支援センター「太陽」に引き続き委託し、事業を実施したことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「実施施設数1か所」としており、目標を達成済み。 参考指標としての利用児童数 100人/年は実績が 817人であることから「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			実施施設数 1か所		-	1	1	
			利用児童数 100人/年		-	137	817	
			決算額		0	1,606	2,240	
			今後の課題	平成25年度で委託料を増額しているが、利用児童の増加が著しく、従事する職員を増員するために更なる増額の検討を要する。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(2)放課後児童健全育成事業(なかよし会)(※31)について ①時間延長する施設の段階的な拡大により、学童保育体制を充実する。 延長時間については、弾力的に運用し、地域の実情に合った体制とする。また、地域の協力を得ながら時間を延長する方策について検討する。 ②お盆期間に開会する。	(2)放課後児童健全育成事業	進捗率	平成24年度は6か所において時間延長(閉会時間を30分遅くし、土曜日と長期休業期間には開会時間を30分早めた。)を実施し、お盆期間に4か所で開会したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標の1つ「実施施設数」は、平成24年度 6か所で時間延長を実施済み。 もう1つ「お盆期間の開会」は5か所で開設予定で希望者を募ったところ1か所で利用希望がなかったため4か所で開設したことから「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			実施施設数 H23 4か所、H24 6か所、H25 8か所		-	4	6	
			お盆期間に開会する(H24 5ヵ所程度で実施)		-	-	4	
			決算額		0	1,610	2,274	
			今後の課題	子ども・子育て新システム導入後は対象が小学6年生まで拡大される予定であり、開設場所の面積の問題が生じてくる。児童館・センターや小学校の統廃合との兼ね合いでなかよし会の実施・廃止が生じる。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
4-(1)-3-1	子育て支援課の設置とSmile弘前子育てマスタープラン策定		進捗率	施策を構成する2事業について、共に「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	施策を構成する2事業について、共に目標が未設定であり「判断できない」との評価になっていることから、施策全体としても「 判断できない 」と評価した。				
			-					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	「子育て支援課」を設置し、子育て支援策の充実・強化を図る。	子育て支援課設置	進捗率	平成22年7月に「子育て支援課」を設置済みであり、平成24年度においても引き続き子育て支援策の充実・強化を図っていることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	組織の設置であり、目標を設定していないので「 判断できない 」と評価した。				
			-					
			目標		H22	H23	H24	H25
			—		—	—	—	
			決算額		—	—	—	
			今後の課題	既存メニューのほか、新規事業のメニューを着実に実施してゆくためには、人員体制の強化が必要と思われる。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	安心して子どもを産み育てることができ、子どもの笑顔あふれる弘前を目指し、弘前市の将来を支える子どもに関する施策の基本的な指針となる「Smile弘前子育てマスタープラン」を策定する。 地域の実情を把握し弘前らしさを十分考慮したものとする。	Smile弘前子育てマスタープラン策定	進捗率	平成23年10月に「Smile弘前子育てマスタープラン」を策定済みであり、平成24年度においてもプランに基づいた事業を実施し、進行管理したことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	平成24年度は目標を設定していないので「 判断できない 」と評価した。				
			-					
			目標		H22	H23	H24	H25
			弘前市子ども・子育て支援推進協議会開催(H22～H23) 2回/年		2	2	—	
			(仮称)子ども・子育て支援シンポジウム開催 1回(H22)		0	1	—	
			決算額		489	934	0	
			今後の課題	協議会の委員の任期がH24年12月で切れているため、次回の協議会開催に先立ち公募委員選考を経て委嘱する必要がある。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
☆ 4-(1)-3-2	Smile弘前子育てマスタープラン推進		進捗率	施策を構成する4事業について、いずれも「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価とした。				
			A					
			達成率	施策を構成する4事業について、いずれも「目標を達成済み」との評価になっていることから、施策全体としても「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	平成23年10月に策定したSmile弘前子育てマスタープランに基づき、弘前ならではの施策として、「子育てに適した住環境への支援」、「仕事と子育ての両立支援の推進(ワークライフバランスの実現)」、「学生・大学等の力を活用した支援体制の確立」を実施し、プランの推進を図る。	【再掲4-(1)-1】 子育てスマイル(住まいる)アップ補助事業	進捗率	工程表どおり平成24年4月から補助事業を実施したことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「補助件数 80件/年」としているが、実績は75件となった。補助件数がわずかに見込みを下回ったものの、その理由としては、抽選結果の新築・購入に係る補助の割合が想定より高かったことと年度終盤で辞退が出たためである。結果として予算額の2倍を超える申請があり、ほぼ予算額どおりの補助により、子育てに適した住環境の整備に寄与することができたことから「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			補助件数 80件/年		-	-	75	
			決算額		0	0	(再)24,275	
			今後の課題	現時点で今年度の実施方法について、申請者や施工業者からの意見・要望等はないが、今後の実施状況や利用者からの意見等を踏まえ、次年度以降の実施方法について検討していく。				
		事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	※「子育てに適した住環境への支援」については4-(1)-1で実施。 また、弘前市子ども子育て支援推進協議会において、プランの進行管理を行う。	(仮称)ワークライフバランス啓発セミナー	進捗率	工程表どおり、ワーク・ライフ・バランスに関するセミナー等(フォーラム)を実施したことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標はセミナーを年1回開催すると設定しており、H24.8.30に県との共催により「ワーク・ライフ・バランス」フォーラム in 弘前を開催したことから「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			セミナー開催 1回/年		-	-	1	
			【参考】セミナー等で啓発された参加者の割合 80%		-	-	-	
			決算額		0	0	295	
			今後の課題	企業の経営者や人事部門の人などに多数参加してもらうこと。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
平成23年10月に策定したSmile弘前子育てマスタープランに基づき、弘前ならではの施策として、「子育てに適した住環境への支援」、「仕事と子育ての両立支援の推進(ワークライフバランスの実現)」、「学生・大学等の力を活用した支援体制の確立」を実施し、プランの推進を図る。 ※「子育てに適した住環境への支援」については4-(1)-1で実施。 また、弘前市子ども子育て支援推進協議会において、プランの進行管理を行う。	大学の力を活用した子育て・子育て支援プログラム調査研究	進捗率	工程表どおり調査研究を委託し、報告書の提出を受けたことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標は調査研究1件と設定しており、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		調査研究 1件		-	-	1	
		【参考】研究成果を反映させた事業数 H25 1件		-	-	-	
		決算額		0	0	1,258	
		今後の課題	調査研究報告書にある提言等を踏まえた事業の実施に向けて新年度予算要求までに検討する。				
	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	弘前市子ども子育て支援推進協議会	進捗率	工程表どおり、協議会を開催してSmile弘前子育てマスタープランの進行管理を行ったことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標として会議2回開催(次世代育成支援行動計画の修正で1回、マスタープランの進行管理で1回)予定であったが、同計画の修正とマスタープランの進行管理を1回の協議会開催で行ったことから「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		会議開催 2回/年		-	-	1	
		決算額		0	0	178	
		今後の課題	協議会の委員の任期がH24年12月で切れているため、次回の協議会開催に先立ち公募委員選考を経て委嘱する必要がある。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
4-(1)-4	子育て支援センター(※32)の整備(高齢者と子どもの交流や集いの広場、地産地消食育レストラン、地域子育てサポーター(高齢者による夜間休日保育ボランティア)配置、etc)	子育て環境の充実のため、子育て支援センターの取り組みを次のとおり行う。 (1)新規子育て支援センターの設置 街中の高齢者や子連れの母などが集まり易い場所に民間との協働によりひろば型子育て支援センター(※33)を新設する。 ・事業内容 高齢者とのふれあい、食育事業、親同士の交流 など (2)既設支援センターの充実 大成なかよし会(土手町分庁舎内)において出張センターを開設する。 ・事業内容 高齢者とのふれあい、食育事業など	進捗率	(1)新規子育て支援センターの設置 駅前地区再開発ビル「HIRORO」を設置場所として決定し、設置条例、規則を制定。 平成24年度補正予算で、設計業務を委託し、平成25年3月からは整備工事に着手するなど、平成25年7月の供用開始に向けた準備を行った。 (2)既設支援センターの充実 土手町分庁舎で月2～3回、出張センターを開設し、三世代交流講座として延べ27回実施した。 (1)、(2)の実施内容から「 <u>工程表どおりに実施済み</u> 」と評価した。				
			A					
			達成率	(1)の目標「子育て支援センター設置1か所」は、平成24～25年度を設置時期としているため、達成率の判断は次年度以降とする。 (2)の目標「出張センター事業参加者数 1,000人/年」は実績が1,406人であったことから、「 <u>目標を達成済み</u> 」と評価した。				
			A					
		目標		H22	H23	H24	H25	
		子育て支援センター設置 1か所		-	-	-		
		出張センター事業参加者数 1,000人/年		-	1,255	1,406		
		事務事業名		決算額		0	1,191	112
	子育て支援センター運営事業	今後の課題	実際に駅前こどもの広場の事業を実施してから、課題を整理することとしたい。					

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
4-(1)-5	児童館の再編・改築		進捗率	施策を構成する3事業について、いずれも「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体として「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	施策を構成する3事業については、(1)①及び(2)が「目標を達成済み」となっており、(1)②は目標を設定しておらず「判断できない」となっているが、(1)②はH23の目標(トイレ水洗化率100%)を維持していることから、施策全体として「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	子育て環境の充実を図るために、次の取り組みを行う。	(1)施設整備事業 ①児童館・児童センター(※34)建設事業	進捗率	平成24年度は、城東児童館を新設し、建設工事が年度内に完了していることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標では、平成23年度から1か所ずつの建設としており、平成24年度では城東児童館を建設したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			創設または老朽化施設の更新施設数(H23～H25) 1か所/年		—	1か所	1か所	
			決算額		0	65,533	78,029	
			今後の課題	修斉・草薙小の統合に合わせて、草薙児童館等(修斉なかよし会)のあり方を検討する。				
		事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(1)施設整備事業 ①児童館未設置地区への創設や老朽化の著しい施設、同一小学校区に重複している施設等の再編・改築を順次実施する。 ②施設のトイレ水洗化を推進する。	(1)施設整備事業 ②児童館トイレ水洗化事業	進捗率	トイレ水洗化未実施の児童館2館を平成23年度に改修済みであり、引き続き使用していることから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	平成24年度では目標を設定していないので「 判断できない 」と評価した。				
			—					
			目標		H22	H23	H24	H25
			トイレ水洗化率 目標値(H23) 100%		92%	100%	—	
			決算額		6,138	6,586	0	
			今後の課題	—				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(2)弘前市北児童センターを設置し、同児童センターを拠点とした地域活動・交流のモデルを目指す。	(2)弘前市北児童センター建設事業	進捗率	平成23年4月1日に供用を開始しており、平成24年度も引き続き児童センターにおいて地域活動・交流の取組みを実施していることから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標は「地域活動・交流の取組み件数 40件/年」としており、平成24年度の実績は79件だったことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		新規施設設置 1か所		1	－	－	
		地域活動・交流の取組み件数 40件/年		－	41	79	
		決算額		110,664	14,483	14,622	
		今後の課題	－				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
4-(1)-6	親力向上委員会(弘前式しつけマニュアルの策定)の設置	子育て世帯の家庭教育を支援するために親力向上委員会を設置し、子育ての知識や相談機関・支援メニューなどを総合的に記載した弘前版のしつけマニュアルを作成・提供する。 作成に当たっては、文部科学省が作成している「家庭教育手帳」を活用する。	進捗率	弘前式しつけマニュアルは、策定の過程で「子育て応援BOOKにここひろさき」という名称とされた。 平成24年度は年度当初に2,000部印刷し、保健センターで月2回実施している1歳6か月児健診の際保護者に配布したほか、子育て支援センター、子育てサークル、保育所(園)、児童館・児童センターなどに配布し、市のホームページにも掲載した。また、年度末には子育てサークルや相談機関の情報を最新のものに更新し、平成25年度配付用として2,000部印刷したことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標の「しつけマニュアル配布部数」については、1,984部とわずかに目標を下回ったが、子育て支援課に訪れた市民向けに備え付けた分と担当者等の課職員の手持ち分を合わせて16部を除いて全て配布済みであることから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			親力向上委員会開催 2回		－	2	－	
			しつけマニュアル配布部数 2,000部×2回		－	－	1,984	
		事務事業名	決算額		0	132	518	
		しつけマニュアル作成事業	今後の課題	6月議会で、今の冊子よりも上の年齢を対象とした「しつけ指導書」を作成してはどうかという提言があったため、研究してまいりたいとの答弁をしている。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容					
4-(1)-7	子供会活動の活性化(地域コミュニティの復活)		進捗率	施策を構成する2事業ともに、「工程表どおり実施済み」との評価であるため、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。					
			A						
			達成率	施策を構成する2事業ともに、「概ね順調に推移」との評価であるため、施策全体としては「 概ね順調に推移 」と評価した。					
			B						
						H22	H23	H24	H25
			決算額			70	47	320	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容					
	地域全体で青少年を育成する仕組みづくりを進めるために、子ども会活動の現状を検証し、家庭や町会、PTAなど地域団体と連携しながら、子ども会活動の活性化を図る。	(1)青少年育成委員会地区・学区対話集会	進捗率	平成24年度の実施対象地区において、青少年育成委員等地区・学区対話集会が実施できていることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。					
			A						
			達成率	青少年育成委員等地区・学区対話集会の実施に向けて対象の11地区と調整を図ったが、地区の意向により2地区において年度内に実施できなかったが、実績としては9地区となったことから、「 概ね順調に推移 」と評価した。					
			B						
			目標			H22	H23	H24	H25
			対話集会開催数(H23～H24) 市内26地区15地区(H23)、11地区(H24)			—	15地区	9地区	
			今後の課題	単位町会の子ども会や青少年育成委員の活動は様々な要因から不安定な状況になっており、子ども会に限らず子どもに係る活動を調査する方法を検討する必要がある。					
		事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容					
		(2)子ども会活動支援事業	進捗率	平成24年度は、各関係機関の会議等において、各々の施策について積極的な周知を行った結果、事業が展開されていると判断できることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。					
			A						
	達成率		目標の1つ目「指導員の派遣」は、26回／年に対し20回の実績であるため、「遅れている」と評価できる。また、目標の2つ目「活性化助成件数」は、6回／年に対し7件の交付を確定したことから、「目標を達成済み」と評価できるため、全体としては「 概ね順調に推移 」と評価した。						
	B								
	目標			H22	H23	H24	H25		
	指導員の派遣 26回/年			—	—	20			
	活性化助成件数(H24～H25) 6件/年			—	—	7			
	今後の課題	助成制度については、「まちづくり1%システム」制度と競合する施策となっており、より高い成果を目指すためには、事業の目的、補助対象経費及び交付上限額等について、実施方法を検討する必要がある。							

約束 4- (2)
 子育てするなら弘前で、を目指します【人づくり】

めざす姿

次代を担う子ども達の才能が育成され、地域の伝統や文化を誇りに思い、継承する人材が育っています。

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名		取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値				H24目標値 に対する 達成率	H25目標値 に対する 達成率
					〔 ※()書きは「わからない」の回答を除いた場合 〕					
					22	23	24	25		
①	青森県学習状況調査における通過率順位 3位以内を目指します。 小学5年生（国・社・算・理）	青森県学習 状況調査	位	7	6 ----- 6	5 ----- 11	4 ----- 9	3 ----- -----	×	—
	中学2年生（国・社・数・理・英）	青森県学習 状況調査	位	5	5 ----- 7	5 ----- 6	4 ----- 8	3 ----- -----	×	—
②	青森県学習状況調査における学習意欲の向上や学習内容の定着度を 示す割合の増加を目指します。 小学5年生 「勉強が好きだ」	青森県学習 状況調査	%	70.6	72.0 ----- -	74.0 ----- 71.8	77.0 ----- 68.2	80.0 ----- -----	×	—
	中学2年生 「勉強が好きだ」	青森県学習 状況調査	%	54.0	55.0 ----- -	56.0 ----- 58.6	58.0 ----- 53.2	60.0 ----- -----	×	—
③	小学校で3 3人学級を実施している学年の割合 83.3%を目指しま す。	業務取得	%	33.3	- ----- 33.3	- ----- 50.0	66.6 ----- 66.6	83.3 ----- -----	○	—
④	スポーツ全国大会・東北大会参加件数 56件を目指します。	業務取得	件	52	53 ----- 60	54 ----- 68	55 ----- 94	56 ----- -----	○	○
⑤	文化活動に関する全国大会・東北大会参加件数 7件を目指しま す。	業務取得	件	5	5 ----- 4	5 ----- 3	6 ----- 3	7 ----- -----	×	—
⑥	市の文化の豊かさに満足している市民を増やします。	市民評価 アンケート	%	84.5	85.0 ----- 80.7 ※(87.5)	87.0 ----- 81.1 ※(88.5)	89.0 ----- 81.7 ※(89.9)	90.0 ----- -----	○	—
⑦	文化・芸術活動をしている市民を増やします。	市民評価 アンケート	%	12.1	13.0 ----- 24.7	15.0 ----- 24.5	20.0 ----- 20.7	25.0 ----- -----	○	—
⑧	スポーツ、レクリエーションをしている市民（月1回以上）を増 やします。	市民評価 アンケート	%	25.0	26.0 ----- 34.9	27.5 ----- 35.6	37.0 ----- 35.2	40.0 ----- -----	×	—

H24目標値に対する達成率 ○：目標を達成済み ×：目標を達成できない —：判断できない
 H25目標値に対する達成率 ○：目標を達成済み —：目標を達成できない・判断できない

約束全体の評価

めざす姿の達成状況を示す指標8項目（10指標）について、平成24年度の目標値に対する達成状況は、「目標を達成済み」が4項目（4指標）、「目標を達成できない」が4項目（6指標）となっており、全体として達成率は高くない状況となっています。

「目標を達成できない」3項目（5指標）の青森県学習状況調査の結果に基づき判断する2項目（4指標）及び文化活動に関する全国大会・東北大会参加件数については、いずれも基準値を下回る状況となっており、目標達成に向けた更なる取組が必要となっております。

平成24年度における注目指標のうち、市民評価アンケートによる「⑥市の文化の豊かさに満足している市民を増やします。」については目標を達成しております。さらに、「⑦文化・芸術活動をしている市民を増やします。」についても目標を達成しております。これは、音楽芸術後継者育成事業などの既存事業の継続実施のほか、弘前城薪能や伝統音楽後継者育成事業（津軽の音コンサート）など、弘前城築城400年記念関連事業を実施したことにより、市民の文化・芸術に対する関心が高まったものと思慮されます。また、「⑧スポーツ、レクリエーションをしているをしている市民（月1回以上）を増やします。」については、目標を達成できない結果となっています。

次に個別施策の実施状況については、「進捗率」では、15項目中13項目が「工程表どおり実施済み」、1項目が「概ね工程表どおり」、残り1項目が「工程表より遅れている」となっています。また、「達成率」では、11項目が「目標を達成済み」あるいは「概ね順調に推移」となっており、4項目が「遅れている」となっています。

文化・芸術活動やスポーツ・レクリエーション活動等については、おおむね順調であると判断できます。一方で、小中学生の学力及び学習意欲の向上や学習内容の定着については、めざす姿に向けての各施策の取組は着実に進んでおりますが、すぐに結果が表れないものであります。そのため、施策の実施状況や指標並びに達成状況等により総合的に判断すると、めざす姿に向けて遅れているといえます。平成25年度は、一流に触れるためのイベント実施に向けた取組をとおして市民の文化・スポーツへの関心をさらに高め、また、子どもたちの学力向上に向けた取組、そして子供たちの夢探しを応援する取組をとおしてめざす姿の実現に向けてさらに取り組んでまいります。

個別施策の実施状況

項目		事務事業数	進捗率	達成率
【未来を描き・導く人づくりを進めます】				
	○ 1 大学等研究機関との連携事業の展開	2	A	A
	● 3 小学校の33人学級拡充の検討	1	A	A
	● 4 海外の自治体との人事交流やホームステイによる弘前の国際人育成事業	6	A	A
	● 5 次の弘前を担い、創る「弘前リードマン」認定制度の導入	1	A	A
	● 6 「弘前マイスター」による出前授業	1	A	C
	● 7 小学校実践英語教育モデル校の試行（英語による授業の試行）	2	A	A
	☆15 中学校区を基盤とした学校力・学区力・地域力の向上「夢実現ひろさき教育創生事業」	8	B	B
【今を支えるプロフェッショナルを応援します】				
	● 8 弘前マイスター認定制度の導入とネットワーク化	1	A	A
	● 9 弘前地場産業インターンシップ（中学・高校・大学からの受け入れ）の試行	1	A	A
	●10 大学や市立図書館の専門書の充実	2	A	A
	●11 企業技術者の地元大学等研究機関への研修派遣支援	1	A	C
【文化・スポーツの才能を伸ばします】				
	●12 「目指せ日本一・世界一」弘前の才能育成アクションプログラム策定	1	C	B
	●13 目指せプロフェッショナル・キャリア支援（指導者・選手の市役所への臨時雇用など）	1	A	C
	●14 一流に触れるため文化・スポーツなどのイベントの積極的誘致	4	A	A
【挑戦する人を応援します】				
	○ 2 ドリームゲート事業（挑戦する若者の未来への投資）	1	A	C

進捗率 A:工程表どおり実施済み B:概ね工程表どおり C:工程表より遅れている -:未着手
達成率 A:目標を達成済み B:順調に推移 C:遅れている -:判断できない

上段：年度別概算所要額（単位：千円）／下段：年度別決算額（単位：千円）			
22年度	23年度	24年度	25年度
7,998	31,344	198,976	138,031
6,215	38,659	94,490	

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
4-(2)-1	大学等研究機関との連携事業の展開		進捗率	施策を構成する2事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	施策を構成する2事業について、それぞれ「目標を達成済み」となっており、施策全体としても「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		0	3,785	5,823	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	次代を担う人材の育成や地域全体の活性化のために、大学等研究機関と市の連携を強化し、次の取り組みを行う。 (1)「弘前大学と弘前市の連携推進会議」を設置し、連携体制の強化とその協議に基づく計画的な連携事業を展開する。	(1)大学連携推進事業	進捗率	「弘前大学と弘前市の連携推進会議」を開催し情報共有を図ったことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「大学との連携事業数 3件/年」としているが、平成24年度の連携事業数は、弘前市と弘前大学との連携調査研究委託モデル事業4件を実施したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			大学連携事業数 3件/年		-	5	4	
			今後の課題	連携推進会議の活発な協議による、連携体制の一層の強化を図りながら、大学が有する知的資源や人的資源を生かした連携事業を推進していく。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(2)地域課題に対応するために「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム(※35)」及びその構成校との連携事業を展開する。	(2)コンソーシアム等連携事業	進捗率	学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム(以下「コンソーシアム」という。)学生委員会等と市長の意見交換会を実施したほか、「コンソーシアム活性化支援補助金」を活用して6大学合同文化祭を開催するなど、コンソーシアム等との連携事業を展開したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「コンソーシアム等連携事業数 5件/年」としているが、学生委員会等と市長の意見交換会1件、コンソーシアム活性化支援補助金4件、「学都弘前」学生地域活動支援事業費補助金8件、計13件となり、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			コンソーシアム等連携事業数 5件/年		-	5	13	
			今後の課題	コンソーシアムとの積極的な対話により、情報共有を図りながら、連携体制の強化を目指す。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
4-(2)-2	ドリームゲート事業(挑戦する若者の未来への投資)	地域の将来を担う産業人材を育成するため、将来の仕事(職業)に対する夢の実現へ向けて、自ら考えて行動する高校生に対して、体験・視察などの研修支援を行うとともに、高等学校が実施する資格取得のための講座開催を支援する。	進捗率	地域の将来を担う産業人材を育成するため、将来の仕事(職業)に対する夢の実現へ向けて、自ら考えて行動する高校生の体験・視察などの研修に対する自己啓発事業並びに市内私立高等学校が実施する資格取得のための資格取得講座事業の支援策を講じたことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「活動支援件数」「資格取得者数」であるが、学校を通じて積極的に制度周知を行ったものの、活用実績が伸びず、いずれも目標値に達することができなかったことから、「 遅れている 」と評価した。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			活動支援件数 5人/年		-	1人	2人	
			資格取得者数 20人/年(平成24年度のみ)		-	-	2人	
		事務事業名	決算額		0	35	133	
		ドリームゲート事業	今後の課題	事業移管に伴い、平成25年度から事業内容をリニューアルし、高校生などから将来のなりたい自分に近づくためのプランを募集し、優れた提案に対してその活動に要する経費の一部を助成する内容となった。募集、採択、及び市民への事業報告のそれぞれの方法について今後も検討していく。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
4-(2)-3	小学校の33人学級拡充の検討	弘前の未来をつくる人づくりのために、現在、小学校1・2年で導入している33人学級について、国・県の動向を把握しつつ、T・T(ティーム・ティーチング)(※36)や少人数指導等を試験的に実施しながら、小学校全学年の少人数学級化を目指し、きめ細かな指導による少人数教育の充実を図る。	進捗率	平成24年度は、小学4年生において、学年が2学級以上で、1学級が33人を超える場合には市費負担臨時講師を配置し、学年が1学級で34人以上の場合と5～6学年に対しては、学習支援員により、T・Tや少人数指導を実施したことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は小学校で33人学級を実施している学年の割合であるが、該当する小学校にすべて臨時講師と学習支援員を配置した。よって目標値の66.6%を達成したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			小学校で33人学級を実施している学年の割合(H25) 83.3% 50.0% (H24)		33.3%	50.0%	66.6%	
		事務事業名	決算額		0	7,270	19,563	
		小学校少人数学級拡充事業	今後の課題	—				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容					
4-(2)-4	海外の自治体との人事交流やホームステイによる弘前の国際人育成事業		進捗率	施策を構成する6事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価となっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。					
			A						
			達成率	平成25年度の事業実施予定である(3)海外自治体職員交流事業を除き、5事業において「目標を達成済み」との評価となっていることから、施策全体の達成率については「 目標を達成済み 」と評価した。					
			A						
						H22	H23	H24	H25
			決算額			0	7,291	10,145	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容					
	国際化に対応した人材の育成を図るため、市役所職員及び市民の国際化を目指して次の取組みを実施する	(1)市職員海外派遣事業	進捗率	当初の計画どおり、全国市町村国際文化研修所が実施する海外派遣研修「グローバル人材開発コース」及び「これからの公共のあり方」に職員を派遣し、国際的な視野で施策を考察できる人材の育成を図ることができたことから「 工程どおり実施済み 」と評価した。					
			A						
			達成率	目標は2人/年としており、職員2名の派遣を実施したことから「 目標を達成済み 」と評価した。					
			A						
			目標			H22	H23	H24	H25
			派遣人員(H23～) 2人/年			－	2	2	
			今後の課題	自治体職員を対象とする研修カリキュラムは少ない状況にあるため、積極的に研修に関する情報を収集するとともに研修効果を検証しながら、効果的な研修の派遣を継続していく。					
	(1)全国市町村国際文化研修所の研修プログラムを活用して職員を海外へ派遣する。 (2)県の国際交流担当課へ職員を出向・派遣する。	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容					
		(2)市職員国際化育成事業	進捗率	2年間の派遣期間の1年目として、県の国際経済課へ職員を派遣していることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。					
			A						
			達成率	県の国際経済課へ職員を派遣していることから、「 目標を達成済み 」と評価した。青森県の幅広い国際交流の関係事務に携わる機会は、職員の資質の向上に寄与するとともに、市職員の国際的感覚の養成につながっていると考ええる。					
			A						
			目標			H22	H23	H24	H25
			派遣人員 1人/2年間(H24～H25)			1	1	1	
	今後の課題		県の国際経済課への派遣効果を検証し、平成26年度以降の出向・派遣の必要性を検討する。						

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(3)(財)自治体国際化協会の国際交流プログラム等を活用し、海外自治体の職員を受け入れる。この受け入れを通じながら、人事交流への事業化を図っていく。	(3)海外自治体職員交流事業	進捗率	受入希望等の全庁的調査を実施し、受入に関する手続き(申請書の提出等)を行ったことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標は「海外自治体職員の受け入れ人員」としているが、達成度の判断は、事業の実施予定が平成25年度となっていることから、達成率の評価は、次回評価(平成25年度)から行う。				
		-					
		目標		H22	H23	H24	H25
		海外自治体職員の受け入れ人員(H25～) 1人/年		-	-	-	
		今後の課題	国際交流員本人と担当課からの聞き取りなどを行い、国際交流員の継続配置を検討する。				
実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(4)民間団体等が行う、若者のホームステイを支援し、国際人育成を図る。	(4)国際人育成支援事業	進捗率	財団法人国際青少年研修協会(文部科学省所管)が実施する海外派遣事業への参加者(高校生)に対し、支援事業を実施したことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標は、「ホームステイ者数10人／年」としており、24年度においては12人に対し支援を行ったことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		ホームステイ者数 10人/年		-	-	12	
		【参考】ホームステイ者数のうち、将来海外を視野に活動したい人の割合 70%		-	-	-	
		今後の課題	海外派遣事業(ホームステイ事業)は、参加者の費用負担が大きいとため、経済的に参加できない家庭のフォローも必要となってくる。				
実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
弘前市の将来を担う子どもたちが国際的な視野と感覚を身につけるために、海外派遣や講座を実施する。	(5)-1 中学生国際交流学習事業	進捗率	弘前市内中学校から60名を超える参加申込みがあり、一次選考で20名に、二次選考で10名を選考した。全行程10日間のうち6日間ホームステイを体験し、帰国後は報告会を実施し、その後報告書を市内小中学校に配布した。よって、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標を参加人数としており、平成24年度は予定どおり10名が参加したので、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		派遣者数 10人/年		-	9人	10人	
		【参考】ホームステイの経験を生かし、将来の弘前のために貢献したいと考える生徒の割合 100%		-	-	-	
		今後の課題	募集枠の拡大について学校から要望があること、また、参加後に体験発表を各学校で行ってもらうことで還元するという考えから、学校単位でかつ学校規模を考慮した人数を選考したいと考える。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(5)-2 同じアジア地域にあって、歴史的にも我が国と深い関りがあり、国際社会でも大きな力をもつ中国と韓国の文化、習慣、言語等を理解できるような子どもたちを育成するため、おおむね小学4年～6年生を対象にした講座を実施する。	(5)-2 国際理解講座「キッズ・アジアン」	進捗率	平成23年度から3年をかけて各国の文化と会話を身につけていく内容で、中国・韓国それぞれ各月1回のペースでカリキュラムを組んで講座を行っている。当初からの計画どおり、各講座を12回ずつ開催したことから、「 <u>行程表どおり実施済み</u> 」と評価した。				
		A					
		達成率	当初の目標である「参加者数20人」に達しているので、「 <u>目標を達成済み</u> 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		参加者数 20人		-	16人	21人	
		【参考】初級会話能力を身につけることができた会員数の割合 各コース 50%以上		-	-	-	
		今後の課題	3年目を迎え、多くの会員が初級レベルの会話に対応できている。今後は身につけた知識の活用であり、できる限り交流事業に積極的に参加させるかが課題である。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容					
4-(2)-5	次の弘前を担い、創る「弘前リードマン」認定制度の導入	次世代の弘前を担い、創る、優れた人材の発掘と情報発信を推進するために、各分野で活躍している人物を「弘前リードマン」として認定し、学校、地域等での活用を図る。	進捗率	弘前リードマン認定・派遣制度の実施要綱、事務要領を作成し、弘前リードマンの認定及び活用事業を実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。					
			A						
			達成率	目標は、「リードマン派遣講座等参加者数100人/年」としているが、189人の参加があったことから、「 目標を達成済み 」と評価した。					
			A						
		目標		H22	H23	H24	H25		
		リードマン派遣講座等参加者数 100人/年		－	－	189			
		【参考】弘前リードマン認定者数 4人/年		－	－	4			
		事務事業名		決算額		0	9	123	
		弘前リードマン認定・派遣事業	今後の課題	市の研修等への派遣等、弘前リードマンの活用を進めていく。					

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
4-(2)-6	「弘前マイスター」による出前授業	弘前の未来をつくる人づくりのために、弘前マイスターによる優れた技能・技術の紹介や体験学習などをおして、後継者の育成を図る。	進捗率	弘前マイスターを認定し、出前授業を開始したことから「 <u>工程表どおり実施済み</u> 」と評価した。				
			A					
			達成率	出前授業が目標の回数に達しなかったことから、「 <u>遅れている</u> 」と評価した。				
			C					
		目標		H22	H23	H24	H25	
		弘前マイスター出前授業回数 5回/年		-	-	1		
		事務事業名	決算額		0	0	9	
		弘前マイスター出前授業	今後の課題	マイスターによる優れた技能・技術の紹介や体験などをおして、後継者育成を図るため、出前授業の制度等の周知を積極的にPRする必要がある。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
4-(2)-7	小学校実践英語教育モデル校の試行(英語による授業の試行)		進捗率	モデル校で、ALTと学級担任のTTが機能し子どもたちが意欲的に学習していること、及び、英語支援員の派遣によって学級担任への授業支援が充実している点で、「 <u>工程表どおりに実施済み</u> 」と評価した。				
			A					
			達成率	構成する2事業について「目標を達成済み」であることから、施策全体として「 <u>目標を達成済み</u> 」と評価した。				
			A					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		0	3,997	6,458	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	小学校5・6年生が積極的に英語を使った学習をしながら、英語に慣れ親しむための取り組みを行う。 ・平成23年度からは外国語指導助手(以下「ALT(※37)」という。)を1名増員し小学校2校を、平成25年度からはALTをさらに2名増員し5校をモデル校に指定する。 ・すべての外国語活動で外国人のALTと一緒に活動する。 ・英語活動支援員JET(※38)を各小学校に派遣し、モデル校の英語研究成果を還元する。	小学校実践英語教育モデル校実践研究事業	進捗率	モデル校2校にALTを年間35時間の全授業に派遣した。毎回同じALTが訪問したので学級担任とのTT、児童との関係がうまくいった。間違いを恐れず堂々とALTと英語で会話する児童が増えたこと、学級担任がALTと二人で英語を使いながら授業をしているので、「 <u>工程表どおり実施済み</u> 」と評価した。				
			A					
			達成率	派遣回数を優先的に35回確保し、児童・教員に関する5月と11月のアンケートで各指標が全て達成されたので「 <u>目標を達成済み</u> 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			英語で簡単な挨拶やコミュニケーションができる児童 80%		—	77.80%	88.50%	
			ALTと簡単な英語を使いながら授業実践できる教員(5・6学年担任) 100%		—	100%	100%	
			外国語活動の授業にALTが派遣される回数 35回実施		—	35回	35回	
			決算額		—	3,997	5,070	
			今後の課題	研究授業や研究協議会で外国語活動に関する有益な情報を共有し、小学校教員の外国語指導力の向上を図る必要がある。				
	事務事業名	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	英語活動支援員JTE+1派遣事業		進捗率	モデル校での実践を他の小学校に周知するために、英語支援員を1小学校当たり、20回以上は派遣することを目標としていることから「 <u>工程表どおり実施済み</u> 」と評価した。				
			A					
			達成率	派遣計画作成時に小学校の外国語活動担当者と一緒にに行っているが、各校から非常に熱心に派遣要請をいただいている。1校当たりの派遣回数20回以上は毎年「 <u>目標を達成済み</u> 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			各小学校でのALT・英語活動支援員を含めた1校あたりの訪問回数 20回/1校		—	—	23	
			決算額		0	0	1,388	
			今後の課題	臨時的財源である緊急雇用の英語活動支援員だが、もし打ち切りになった場合、指標を達成することができないため、現員体制の維持が必要である。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
4-(2)-8	弘前マイスター認定制度の導入とネットワーク化	地域産業の活性化を図るために、優れた技能・技術を有し、商工業・農業など産業全般に携わる現役の技能・技術者を弘前マイスターに認定する。 また、マイスターのネットワーク化を図り、貴重な技術・技能の保存・継承・振興を図る。	進捗率	弘前マイスターを募集し、認定したことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標である認定者数5名に達したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			弘前マイスター認定者数 5人/年		-	-	5	
			事務事業名	決算額	0	0	232	
		弘前マイスター認定事業	今後の課題	毎年実施していくうえで、業種の偏りが懸念される。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
4-(2)-9	弘前地場産業インターンシップ(中学・高校・大学からの受け入れ)の試行	インターンシップの実施状況、問題点、意見等を学校側と地場産業側の両サイドから調査を行い、問題点を把握する。 現在、学校が行っているインターンシップについて、より効果的に行われるよう環境を整備する。	進捗率	平成24年度は、インターンシップ協力事業所一覧及びインターンシップ受入ガイドを情報提供することとしていたが、平成25年3月に、各教育機関へ事業所一覧を配付するとともに、受入協力事業所へ受入ガイドを配付したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「インターンシップを行った生徒数」としているが、平成24年度は、1,096人と目標値を上回ったことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			インターンシップを行った生徒数 1,100人(H25) 1,013人(H22)、1,042人(H23)、1,071人(H24)		1,013	1,010	1,096	
			事務事業名	決算額	0	79	55	
		弘前地場産業インターンシップ事業	今後の課題	インターンシップ協力事業所一覧を更新していくうえで、新規受入事業所の掘り起こしに課題がある。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容					
4-(2)-10	大学や市立図書館の専門書の充実		進捗率	施策を構成する2事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。					
			A						
			達成率	施策を構成する2事業について、「目標を達成済み」が1事業、「概ね順調に推移」1事業となったが、市立図書館の専門書の充実は図られていることから、施策全体としても「 目標を達成済み 」と評価した。					
			A						
						H22	H23	H24	H25
			決算額			0	1,200	1,200	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容					
	学園都市にふさわしい図書利用環境の充実を図るために、次の取り組みを行う。 (1)市立図書館における、市民ニーズを反映した専門書の充実	(1)市立図書館専門書購入事業	進捗率	市民ニーズを反映するため、専門書についての要望アンケートを実施して購入の参考としたほか、(株)図書館流通センター「専門コレクション研究会」の推薦図書や館内資料選択委員の選書などにより計画的に購入ができたことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。					
			A						
			達成率	目標は、「専門書購入数120冊／年」となっており、計画的な購入により138冊を購入でき専門書の充実も図られたことから、「 目標を達成済み 」と評価した					
			A						
			目標			H22	H23	H24	H25
			専門書購入数(H23～H25)累計300冊(H25)120冊/年(H24)			－	104	138	
			今後の課題	専門書コーナーの配架スペースが満杯状態となっているので、貸出実績の少ないものや発行年の古いものから一般書へと配架替えをしていく必要がある。					
	(2)大学との連携により、大学所蔵専門図書情報の市民提供や利用できる環境づくり	(2)大学図書館連携事業	進捗率	コンソーシアムの活用による各大学との情報交換(アンケート)を行い、実施可能な連携事業を検討のうえ、利用できる環境づくりと一般開放への働きかけに大学図書館へ訪問し、ホームページへのリンクの承諾等を頂いたことにより「 工程表どおり実施済み 」とした。					
			A						
			達成率	目標は、「連携実施大学数」としているが、3大学図書館のホームページへのリンクが可能となったことにより、「 概ね順調に推移 」とした。					
			B						
			目標			H22	H23	H24	H25
			連携実施大学数(H23～H25)全6校			－	0	3	
			今後の課題	図書館システムの導入がされていない大学や図書館ホームページの開設が準備中のところがある。					

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
4-(2)-11	企業技術者の地元大学等研究機関への研修派遣支援	地場産業の継続的发展に向けた人材育成と新商品開発の研究支援のために、研究機関の持つシーズ(※39)、企業が求めるニーズを発掘し、地元大学・研究機関等への派遣や研修について支援する。	進捗率	平成24年度から、市内中小企業者が地元の大学などに技術者を派遣して共同研究又は研修を行う際に要する経費の一部を補助する企業技術者研修派遣事業費補助金を創設し、支援策を講じたことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は企業技術者研修派遣事業費補助金による企業への支援件数であるが、制度要件と企業の実組みがマッチしないケースがあり、目標の5件に対して補助金の交付実績は1件となり、「 遅れている 」と評価した。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			支援件数 5件/年		-	-	1件	
		事務事業名	決算額		0	0	200	
		研究機関への研修派遣支援	今後の課題	積極的に企業への情報発信を行い、地場産業発展に係る人材育成、商品開発に向けた研究支援制度の活用を広く周知、PRする必要がある。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
4-(2)-12	「目指せ日本一・世界一」弘前の才能育成アクションプログラム策定	文化・スポーツの分野において、弘前の未来をつくる人づくりのため、市民の意見を反映させながら、才能育成アクションプログラムを策定する。 (1)文化編:文化・スポーツなどの才能に秀でた人物に接する機会を増やすためのイベント招致や講演会を実施する。 (2)スポーツ編:トップアスリート育成プログラムを策定するとともに、ジュニア競技者等の育成を支援する。	進捗率	文化編は、24年10月に策定。スポーツ編は、24年度中の策定に至らなかったことから「 工程表より遅れている 」と評価した。				
			C					
			達成率	スポーツ編について、24年度中のプログラム策定に至らなかったものの、トップアスリート招致事業などプログラム策定に先駆けて個別に展開している事業もあることから「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			ワークショップの開催回数 3回/年		-	1	0	
			【参考】アクションプログラムに基づく新規事業の実施件数、参加人数 4件/年、600人/年		-	-	-	
			【参考】トップアスリートによる講演会等の実施件数、参加人数 10件/年、1,000人/年		-	5件 714人	11件 1,608人	
		事務事業名	決算額		0	24	0	
		アクションプログラム策定事業	今後の課題	状況変化に応じたプログラムの修正、事業実施後の検証等を行っていく必要がある。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
4-(2)-13	目指せプロフェッショナル・キャリア支援(指導者・選手の市役所への臨時雇用など)	弘前の未来をつくる人づくりのために、企業等が当市出身等の一流選手・指導者などを雇用した場合、雇用に係る経費の一部を助成する。	進捗率	市内各スポーツ団体等に対し、制度の説明を実施し企業への雇用を促進したことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	制度の周知により、3名の雇用は行われたが、目標の10人には達していないため、「 遅れている 」と評価した。雇用が進まない原因としては、スポーツでの人材を雇う企業等が少ない事である。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			支援者数 10人/年		-	-	3	
		事務事業名	決算額		-	-	4,117	
		スポーツ人材雇用奨励事業	今後の課題	3年間限定の補助金であり、期限が切れた後も各企業等が雇用を継続できるかが問題である。企業と検討を進めていきたい。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
4-(2)-14	一流に触れるため文化・スポーツなどのイベントの積極的誘致		進捗率	施策を構成する4事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価となっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	施策を構成する4事業のうち、すべての事業が「A」となっていることから、施策全体の達成率については「目標を達成済み」と評価した。				
			A					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	文化・スポーツの分野における、弘前の未来をつくる人づくりのために、一流に触れるためのイベントを実施する。 (1)文化分野 ①「津軽文化講演会」、「ドリームコンサート、ドリームゼミナール」、「俳句甲子園弘前大会」の実施、及び「将棋名人戦」を招致し、才能豊かな人材との交流を実現させる。	(1)文化分野 ①音楽芸術後継者育成事業他	進捗率	平成24年度は、津軽文化講演会、音楽芸術後継者育成事業(ドリームコンサート・ドリームゼミナール、弘前ユースストリングアンサンブル指導者招へい事業、弘前音楽祭事業の3事業)、弘前城薪能(関連事業として弘前城薪能を楽しむためのワークショップ全5回を併せて実施した)、伝統文化後継者育成事業(津軽の音コンサート)、将棋名人戦弘前対局開催記念大会事業、俳句甲子園事前講習会・模擬試合、俳句甲子園地方大会(弘前会場)の9件の事業を予定どおり実施した。なお、俳句入門教室については、講師の都合により開催できなかったものの、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は、8件/年になっているが、9件の事業が実施されたことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			著名講師による講演会や一流に触れるための事業開催数 10件/年 (※①～③計10件。①は8件/年)		8	8	9	
			【参考】著名講師による講演会や一流に触れるための事業参加人数 4,500人/年		4,307	5,140	3,933	
			決算額		6,215	12,042	27,587	
			今後の課題	継続事業の見直しや新規事業の検討等、いわゆるスクラップアンドビルドが課題となってくる。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
②「児童劇観劇教室」のために招へいした劇団員等を演技指導などのスタッフとして中学生を対象にワークショップ形式で実施する。 また、ジュニア育成コースの設置に向けた支援策として運営補助システムを構築する。 ③市内文化芸術団体の文化芸術力を披露したり体験させたりすることで文化芸術への関心、興味を持たせると共に子ども自身の適性に対し発見や自覚を促す。 また、各団体によるジュニア育成コースの設置に向けた支援策として運営補助システムを構築する。	(1) 文化分野 ②プロによる演劇ワークショップ	進捗率	11月29日弘前市民会館において、「演劇ワークショップ」を開催し、市内の中学生53名が参加し劇団芸優座の演出家、俳優から演技指導を受けたことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標は、1件/年になっているが、年1回開催したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		著名講師による講演会や一流に触れるための事業開催数 10件/年（※①～③計10件。②は1件/年）		-	-	1	
		【参考】参加に際し掲げた目的を達成できた割合 80%		-	-	-	
		決算額		0	0	80	
		今後の課題	昨年度参加した生徒の大半は、参考になったなどの意見があったことから継続して実施し、また、弘前地区中学校文化連盟の意見を聞くなどして、有意義なものとしたい。				
	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(1) 文化分野 ③市内アーティスト体験ワークショップ	進捗率	7月29日（日）に弘前市総合学習センターにおいて「こどもアート体験ひろば2012」の行事名で実施。市内の文化芸術団体17種目18団体が小学生を対象とした体験コーナーを提供し、親子合わせて延べ約1800人が参加したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標は、1件/年になっているが、年1回開催したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		著名講師による講演会や一流に触れるための事業開催数 10件/年（※①～③計10件。③は1件/年）		-	-	1	
		【参考】体験して芸術文化に興味をもった小学生の割合 60%		-	-	43	
		決算額		0	0	623	
		今後の課題	文化芸術に親しむきっかけづくりとしての体験ワークショップを定着させ、文化芸術団体との連携を深めながら継続的に学習するための受け皿の充実を図る。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(2) スポーツ分野 一流選手(トップアスリート)等を招いて実施する教室、講演会、試合等を支援する。	(2) トップアスリート招致支援事業	進捗率	一流に触れる機会を創出するため、制度の周知と補助金の交付を行い、目標を上回る利用があったため、「 <u>工程表どおり実施済み</u> 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標を年10件と設定していたが、目標を上回る利用があったことから「 <u>目標を達成済み</u> 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		トップアスリート招致件数（H23～H25）10件/年（初年度は3件/年）		-	5	11	
		決算額		-	2,927	8,732	
		今後の課題	—				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
☆ 4-(2)-15	中学校区を基盤とした学校力・学区力・地域力の向上		進捗率	施策を構成する8事業について、7事業については「工程表どおり実施済み」、1事業については「遅れている」との評価になっていることから、施策全体としては「 工程表どおり実施済みで、一部が遅れている 」と評価した。				
			B					
			達成率	構成する8事業について、「目標を達成済み」が6事業、「遅れている」が2事業となり、施策全体としては「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		0	0	9,410	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	当市の地域社会の歴史的・文化的伝統等の「くくり」の基盤となっている中学校区を単位に、小学校、中学校、地域それぞれが「連携・協働」し、社会全体で教育に取り組めるような環境づくりを進めるため、教育委員会各課各施設横断的に次の事業を行う。	(1)(仮称)ICT活用による小中連携推進事業	進捗率	平成24年度は、年3回のテレビ会議システム活用した回数を予定していたが、年3回のテレビ会議システムを利用した事業を実施したため、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標を「テレビ会議システム活用した回数」としているが、目標の年3回を達成したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			学校間においてテレビ会議システムを活用した回数 延3回/年(H24) 延8回/年(H25)		-	-	3	
			決算額		0	0	4,150	
			今後の課題	年8回の使用を目標にした、様々な活用方法の模索が必要である。				
		(2)小中連携教育推進事業	進捗率	弘前市内16中学校区からそれぞれの小中連携教育プランが作成、提出された。また、年1回の小中連携教育推進研修会を実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「小中連携教育プラン作成 16地区/16地区」、「小中連携教育推進研修会 1回/年」であり、全て達成できた。さらに「教育フォーラム」を実施したことから「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			小中連携教育プラン作成 16地区/16地区		-	-	16	
			小中連携教育推進研修会 1回/年		-	-	1	
			決算額		0	0	33	
			今後の課題	本事業は学校教育指導の最重点の1つとして定められているため、「教育フォーラム」及び「小中連携教育推進研修会」は各課かい連携、協働で進める必要がある。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
当市の地域社会の歴史的・文化的伝統等の「くくり」の基盤となっている中学校区を単位に、小学校、中学校、地域それぞれが「連携・協働」し、社会全体で教育に取り組めるような環境づくりを進めるため、教育委員会各課各施設横断的に次の事業を行う。	(3)(仮称)学校種間連携教育モデル地区事業費補助金	進捗率	規模の異なる4つのモデル地区が既存の組織を活かし、組織的、計画的に小中連携教育に取り組み、学校種間の円滑な連携・接続の在り方について先導的・先進的な研究及び事業が推進された。また、4モデル地区全てが事例報告を実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標は「先導的・先進的な研究による事例報告 2～4モデル地区」であり、全て達成できたことから「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		先導的・先進的な研究による事例報告 2～4モデル地区		-	-	4	
		決算額		0	0	400	
		今後の課題	4つのモデル地区での先導的・先進的な研究や事業を他中学校区での小中連携教育へどのようにつなげるかが課題である。				
	(4)小中連携教育推進事業費補助金	進捗率	中学校区を基盤とした小中連携教育の推進で、小・中学校間の交流や協働のきっかけとなり、学校力・地域力の向上のための一助となった。また、モデル地区以外の全中学校区で事例報告がされたことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標は「事例報告 モデル地区以外の全中学校区」であり、全て達成できたことから「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		事例報告 モデル地区以外の全中学校区		-	-	12	
		決算額		0	0	600	
		今後の課題	それぞれの学区での取組状況を共有し、自校区での小中連携教育の深化・拡大につなげていくかが課題である。				
	(5)中学校を支援する人材バンク活用事業	進捗率	平成24年度は、全市立中学校に対して学校へ出向いて事業の趣旨説明と活用の要請を実施していることから、各中学校への施策の周知は図られていると判断できるため、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標の1つ目「人材バンク登録者」は、150人／全市に対し115人の登録であるため、「遅れている」と評価。また、目標の2つ目「活動回数」は、48回／年に対し38回(同一テーマでの1シリーズを1回とした。)の開催であるため、「遅れている」と評価したことから、全体のとしては「 遅れている 」と評価した。				
		C					
		目標		H22	H23	H24	H25
		登録者 150人／全市		-	-	115	
		活動回数 48回／年		-	-	38	
		【参考】年間2回以上の事業を実施する学校数 16校		-	-	3	
		決算額		0	0	25	
		今後の課題	中学校の学習に適した人材の掘り起こしや中学校毎に総合的な学習等の実施状況に差があるため、調整が非常に難しい状況となっていることから、連携した事業の継続や拡大を進める際の課題となっている。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
当市の地域社会の歴史的・文化的伝統等の「くくり」の基盤となっている中学校区を単位に、小学校、中学校、地域それぞれが「連携・協働」し、社会全体で教育に取り組めるような環境づくりを進めるため、教育委員会各課各施設横断的に次の事業を行う。	(6)史跡等公開活用事業	進捗率	平成24年度は、堀越城跡のパンフレットやポスターなどの広報資料作成、現地公開・学習会の開催、大森勝山遺跡史跡指定記念講演会開催などを実施したことから、「 <u>工程表どおり実施済み</u> 」と評価した。				
		A					
		達成率	パンフレットやポスター作成は2遺跡で32000枚作成し、現地公開及び学習会の開催は9回で599人、講演会の開催は2回で265人参加したことから「 <u>目標を達成済み</u> 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		パンフレット(1万枚)、ポスター(500枚)の作成[各遺跡]		-	-	32,000	
		現地公開及び学習会の開催 年8回程度		-	-	9	
		講演会の開催 年2回程度		-	-	2	
		【参考】現地見学会等の参加者数 400人/年		-	-	864	
		決算額		0	0	1,190	
		今後の課題	学校行事との調整や教員並びに児童生徒のニーズの把握。				
	(7)わがまちの歴史と文化探訪・紹介マップ事業	進捗率	平成24年度は、モデルとなる中学校に対し事業の実施を打診したが、学校側の年間スケジュールが厳しく、新規の活動を組み込む余裕がないということで、事業の具体的な内容を協議・調整するに至らなかったことから「 <u>遅れている</u> 」と評価した。				
		C					
		達成率	目標は、事業実施校数(中学校区)3地区/年になっているが、実施できなかったことから「 <u>遅れている</u> 」と評価した。				
		C					
		目標		H22	H23	H24	H25
		事業実施校数(中学校区) 3地区/年		-	-	0	
		【参考】マップ作成数 3枚/年		-	-	3	
		決算額		0	0	0	
		今後の課題	学校区の範囲や取組時間の確保と地域との連携が課題。また、マップの作成が試行錯誤の状況である。				
	(8)ソフトボール指導事業	進捗率	要望のあった学校等に対し、学校体育での指導や講話を行ったことから「 <u>工程表どおりに実施済み</u> 」と評価した。				
		A					
		達成率	週3回程度の目標に対し、週3.1回の派遣を実施したことから「 <u>目標を達成済み</u> 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		要望のあった学校に対し、学校体育での指導 週 3回程度		-	-	3.1	
		決算額		0	0	3,012	
		今後の課題	立ち上げたチームで試合への出場ができるよう、大会等の開催を検討する必要がある。				

約束5 命と暮らしを守ります

めざす姿

“赤ちゃんから高齢者まで”の命と暮らしの安心・安全づくりが充実し、市民が健康的な生活を送っています。

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名		取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値				H24目標値 に対する 達成率	H25目標値 に対する 達成率
					22	23	24	25		
①	健康だと思える市民を増やします。	市民評価 アンケート	%	79.8	81.0	82.0	83.0	85.0	×	—
					76.3	77.8	77.5			
②	各種がん検診受診率 平成21年度の基準値19.1%から5 ポイントアップを目指します。	業務取得	%	19.1	—	—	23.1	24.1	×	—
					21.0	20.8	20.3			
③	育児に自信がもてない人ゼロを目指します。ただし、計画期間では平成21年度の基準値8.0% から2 ポイント減の6.0%とします。	業務取得	%	8.0	7.5	7.0	6.5	6.0	○	○
					6.9	6.4	5.8			
④	自殺者数ゼロを目指します。ただし、計画期間では48 人以下とします。（内閣府 自殺総合対策大綱目標値に準じて設定）	業務取得	人	58	55	52	50	48	○	○
					39	31	39（当市調べ）			
⑤	自立して生活できる高齢者の割合（身の回りのことが自分でできる高齢者の割合）79.4%を目指します。	業務取得	%	79.2	79.2	79.2	78.9	79.4	×	—
					78.9	78.7	78.4			
⑥	生きがいを持っている60歳以上の市民を増やします。	市民評価 アンケート	%	62.7	62.9	63.1	63.3	63.5	○	○
					68.7	68.7	74.2			
⑦	一般の民間企業における雇用障がい者数の割合1.83%を目指します。	業務取得	%	1.71	1.74	1.77	1.80	1.83	○	○
					1.96	1.90	1.88			
	【参考】AP2013指標 一般の民間企業における雇用障がい者数の割合2.00%を目指します。	業務取得	%	1.71	1.74	1.77	1.80	2.00		
					1.96	1.90	1.88			

H24目標値に対する達成率 ○：目標を達成済み ×：目標を達成できない —：判断できない
H25目標値に対する達成率 ○：目標を達成済み —：目標を達成できない・判断できない

関連指標名	取得方法	単位	上段：数値取得時期	下段：取得数値	目標	
生活に満足している障がい者を増やします。	独自アンケート	%	H19			H25目標 28.4
			23.7			
障がい者就労支援事業の利用人数を増やします。	業務取得	人	H22	H23		H25目標 255
			206	255		

※AP2013では目標設定を削除
※AP2013では目標設定を削除

約束全体の評価

目指す姿の達成状況を示す指標 7 項目について、平成24年度の目標値に対する達成率は「目標を達成済み」が 4 項目、「目標を達成できない」が 3 項目となっており、達成率は高いといえない状況にあります。

目標を達成していないのは、「①健康だと思える市民を増やします。」、「②各種がん検診受診率 平成21年度の基準値19.1から5ポイントアップを目指します。」、「⑤自立して生活できる高齢者の割合（身の回りのことが自分でできる高齢者の割合）79.4%を目指します。」の 3 項目で、その理由として、①は運動不足などの生活習慣が改善されていないこと、②は健康に対する市民意識が高くないこと、⑤は介護を利用する人が依然として増え続けていることによるものと考えられます。これらのことは、市民の健康に関する意識が希薄であることなどが原因として挙げられます。

平成 2 4 年度における指標のうち、市民評価アンケートによる、「⑥生きがいを持っている 6 0 歳以上の市民を増やします」については、3 年連続して目標を達成しております。このことは、これまで続けている「ふれあい高齢者スポーツ」開催による、健康保持、生きがいづくりが定着されたことによるものと考えられ、今後も目標値を維持できるよう事業を実施するほか、おたっしや健幸塾のヒロロでの開催により現状値のアップが期待できます。

また、業務取得による、「⑦一般の企業における雇用障がい者数の割合1.83%を目指します。」については目標を達成しております。これは、厳しい経済状況の中、市内の企業において障がい者雇用についての理解が進み、雇用が継続されていることと思われます。「③育児に自信がもてない人ゼロを目指します。ただし、計画期間では平成21年度の基準値8.0%から 2 ポイント減の6.0%とします。」については、目標を達成したと判断しました。これは、妊娠婦や乳幼児を持つ親への指導・相談体制の見直しなどの取り組みに加え、本庁での母子保健窓口のワンストップ化事業の定着によるものと思われます。

次に個別施策の実施状況ですが、「進捗率」では、1 1 項目中 1 0 項目が「工程表どおり実施済み」となっており、「達成率」では、「判断できない」とした 1 項目を除いて、7 項目が「目標を達成済み」、2 項目が「概ね順調に推移」、1 項目が「遅れている」となっております。

施策の実施状況や指標全体の傾向と注目指標の達成状況等を総合的に勘案すると、生きがいを持っている60歳以上の市民は増加傾向にありますが、その他の項目については、年度別の現状値が低下傾向にあることから、めざす姿の達成に向けては遅れていると考えます。

このような状況を踏まえ、今年度も弘前大学寄附講座として「地域健康増進学講座」を開設していただき、健康啓発活動と合わせ健康づくりのリーダー養成に取り組みます。また、運動教室をヒロロでも実施し、仕事帰りでも気軽に運動できるよう環境を整備し、健康づくりに実践的に取り組む市民を増やしていきます。また、健康ひろさきマイレージ制度の活用や節目の年齢の対象者に検診勧奨の個別通知をするなど啓発活動を積極的に行うほか、市町会連合会保健衛生委員会の活性化を図り、各種がん検診率の向上を目指します。これらの取り組みを通して、命と暮らしの安心・安全づくりの充実が図られるよう努めてまいります。

個別施策の実施状況				
項目		事務事業数	進捗率	達成率
【健康づくりを推進するとともに、地域医療の充実を図ります】				
	○ 1 “医都ひろさき円卓会議”を設置し、医療機関のネットワークや救急医療体制を構築	2	A	A
	● 5 自殺予防など心の健康づくり・命の尊さ教育を実施	4	A	A
	● 6 がん検診の受診率向上運動の実施	1	A	C
	● 7 受動喫煙による健康被害を防ぐため、公共的施設での分煙と喫煙規制を強化	1	A	A
	● 8 インフルエンザなど児童の集団予防接種制度の検討	1	A	A
	☆11 健康づくり事業（ 健幸ひろさき創出事業）	3	A	A
【高齢者福祉を充実します】				
	○ 2 高齢者の健康診断受診率向上と介護予防事業への参加促進	6	B	B
	● 9 介護オンブズパーソンの認定による介護サービス相談体制の強化	1	A	B
	●10 地域における高齢者と子どもの交流活動の促進（子育て支援センターで実施）	1	A	A
【障がい者福祉を充実します】				
	○ 3 障がい者への総合支援機能（ワンストップサービス）の提供	1	A	A
【母子保健福祉を充実します】				
	○ 4 母子保健福祉の総合支援機能（ワンストップサービス）の提供	1	A	—

進捗率 A:工程表どおり実施済み B:概ね工程表どおり C:工程表より遅れている -:未着手
達成率 A:目標を達成済み B:順調に推移 C:遅れている -:判断できない

上段：年度別概算所要額（単位：千円）／下段：年度別決算額（単位：千円）			
22年度	23年度	24年度	25年度
89,238	95,072	115,347	116,694
88,584	65,178	99,231	

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容					
5-1	“医都ひろさき円卓会議”を設置し、医療機関のネットワークや救急医療体制を構築		進捗率	施策を構成する2事業について、いずれも「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体として、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。					
			A						
			達成率	施策を構成する2事業に関する3つの目標についていずれも達成していることから、施策全体としても「 目標を達成済み 」と評価した。					
			A						
						H22	H23	H24	H25
			決算額			0	1,070	1,045	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容					
	(1)「医都ひろさき円卓会議」を設置し、医療機関ネットワーク化・救急医療体制の構築など、地域医療の充実に関するテーマについて協議を行い、市の施策に反映させる。	(1)医都ひろさき円卓会議運営事業	進捗率	会議について年2回開催し、提言案件についても下記のとおり対応しているので、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。					
			A						
			達成率	目標の「会議開催回数2回/年」については年2回開催し、「会議提案意見の中で、市施策に反映できた事業数1事業/年」については、平成23年度に提言のあった急患診療所への自家発電装置設置を行ったことから、「 目標を達成済み 」と評価した。					
			A						
			目標			H22	H23	H24	H25
			会議開催回数 2回/年			1回	2回	2回	
			会議提案意見の中で、市施策に反映できた事業数 1事業/年			－	1	1	
			決算額			0	10	0	
			今後の課題	青森県は平均寿命・健康寿命が最も短い県であり、弘前市はその一員でもあることから、今後の会議の方向性として、「地域の健康レベル向上～健康長寿、健康増進」という、長期的テーマに沿って討議、意見交換していくこととした。					
		事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容					
	(2)救急医療体制の維持確保を図る。 ・二次救急医療機関の医療スタッフの負担緩和と受診機会充実を図るため、在宅当番医に外科系医療機関を確保する。	(2)休日在宅医診療運営事業（外科）	進捗率	平成24年度は外科系医療機関の休日在宅医診療を、年間を通して開設することができたことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。					
			A						
			達成率	休日当番医制度開設率100%を目標としており、年間を通して開設できたことから、「 目標を達成済み 」と評価した。					
			A						
			目標			H22	H23	H24	H25
			休日当番医制度 開設率 100％			－	100%	100%	
			決算額			0	1,060	1,045	
			今後の課題	休日在宅医診療を維持していくために、弘前市医師会へ協力を求めていく。					

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
5-2	高齢者の健康診断受診率向上と介護予防事業への参加促進		進捗率	施策を構成する6事業について、実施できなかったが1事業、「工程表どおり実施済み」が5事業との評価になっていることから、施策全体として、「 <u>工程表どおりに実施済みで、一部が遅れている</u> 」と評価した。				
			B					
			達成率	施策を構成する6事業に関する3つの目標のうち、後期高齢者健診受託事業に係る目標が達成できなかったが、一次予防事業では市内33の全地区で開催したこと、二次予防事業の対象者把握事業についても介護予防事業参加者数が倍増していることなどから、施策全体として総合的に勘案し「 <u>概ね順調に推移</u> 」と評価した。				
			B					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		40,106	35,482	39,006	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	高齢者の健康づくりを推進するために、次の取り組みを行う。 ・高齢者の健診受診率向上に向けて (1)市が実施する健診の高齢対象者に、個別通知及び町会を通じて毎戸配布する。	後期高齢者健診受託事業	進捗率	健診受診対象者 25,002人に個別通知(受診券を送付)した。また、町会を通じて、広報ひろさき4月1日号と同時に毎戸配布(健康と福祉ごよみ)し、「 <u>工程表どおり実施済み</u> 」と評価した。				
			A					
			達成率	平成24年度の受診率目標27%に対して、実績は15%と、2年連続して増加したものの、目標達成に至らなかったことから、「 <u>遅れている</u> 」と評価した。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			後期高齢者健診受診率 29.0%(H25) 23%(H22)、25%(H23)、27%(H24)		12.5%	14.0%	15.0%	
			決算額		20,246	26,722	28,688	
			今後の課題	未受診者に対する訪問勧奨、主治医からの受診勧奨などの取組を強化し、受診率目標の達成を目指すほか、引き続き他都市の先進事例を研究する。				
	(2)特定健診未受診の原因調査を行い、受診率向上のための具体的改善策に反映させる。	特定健康診査事業	進捗率	農業団体等と連携で出張健診を予定していたが、農業団体の都合により、平成25年度に延期となったことで「 <u>工程表より遅れている</u> 」と評価した。				
			C					
			達成率	平成24年度までは受診率の目標を設定していなかったが、平成25年度は受診率29.0%を目標値として設定した。参考値である平成24年度の受診率は27.20%であり、平成25年度の目標値には至っていない。				
			-					
			目標		H22	H23	H24	H25
			【参考】国保の前期高齢者(65歳～74歳)受診率 29.0%		26.80 %	27.70 %	27.20 %	
			決算額		-	-	-	
			今後の課題	地道なPR活動を継続していくことで、制度への理解や浸透を深めていき、受診率の向上につなげたい。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
・介護予防事業への参加促進 (3)65歳以上の要介護認定のない高齢者全員に3年間にわたって基本チェックリストを郵送・回収することにより、二次予防事業の対象者把握を拡大し、通所型等の介護予防事業の参加に結び付ける。	二次予防事業の対象者把握事業 通所型介護予防事業 訪問型介護予防事業	進捗率	平成24年度は、5～8月生まれの方に基本チェックリストを郵送回収し、二次予防事業の対象者把握を実施した。その対象者のうち、110人に通所等の介護予防事業を実施したので、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	通所型介護予防事業は従来デイサービスセンターで実施していたが、対象者の中にはデイサービスセンターに通うことに抵抗があるという声が聞かれることから、平成24年10月から通所型介護予防事業のうち筋力向上トレーニング事業を、新たに14カ所の整骨院又は接骨院等に拡充した。介護予防事業の参加者は、平成22年度の18人から平成23年度50人、平成24年度は110人と倍々で増加していることから「 概ね順調に推移 」と評価した。				
		B					
		目標		H22	H23	H24	H25
		介護予防事業参加者数(通所型+訪問型) 200人(H25) 71人(H22) 95人(H23) 147人(H24)		18人	50人	110人	
		決算額		15,418	4,021	5,513	
		今後の課題	平成25年度は9～12月生まれの方と、平成24年度の介護予防事業参加者にも基本チェックリストを郵送回収し、二次予防事業の対象者把握を行い、希望者へ通所等の介護予防事業の参加に結びつくようにするため、柔道整復師会に働きかけ実施場所の拡充に努めていくとともに、高齢者に対し介護予防事業の必要性や具体的な内容について、広報ひろさきへの掲載やPRちらしを作成し、出前講座や各種会議において介護予防事業の周知を図る。				
	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	一次予防事業	進捗率	平成24年度は、高齢者が継続しやすい運動内容を取り入れ、運動の必要性について普及啓発をした。複数回の開催を希望する町会がなかったため、高齢者が集まりやすい会場にて複数回開催し、反復学習の機会とした。計画していた事業内容を実施したことから「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	市内全地区にて実施し、計画どおり33回開催したことから「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		おたっしや健幸塾開催回数 33回(H25) 27回(H22) 29回(H23) 31回(H24)		27回	33回	33回	
		決算額		4,442	4,739	4,805	
		今後の課題	参加者数が減少傾向にあるため、新規参加者を獲得しつつ、継続して参加してもらえるようPRの強化と内容の工夫を図る。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
5-3	障がい者への総合支援機能(ワンストップサービス)の提供	障がい者のきめ細かな相談支援体制の充実・強化を図るため、現在4か所の相談支援事業所から、主に知的障がい者及び知的障がい児の相談業務を行う相談支援事業所2か所増を図り、障がい者の自立と社会参加を促進させる。	進捗率	4月に、5か所と6月に1か所の相談支援事業所と委託契約を行い市内6か所体制とし、情報提供や様々な相談対応等必要な助言を行ったことから、計画どおり「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	平成23年度の4か所から平成24年度には6カ所体制とし、計画どおり進捗したことから「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			相談支援事業所数 6か所 (H24)		4か所	4か所	6か所	
		事務事業名	決算額		20,400	20,475	31,475	
		障がい者福祉相談支援事業	今後の課題	障がい者のニーズや課題にきめ細かに対応し、適切な障がい福祉サービス等に結びつけるため、引き続き障がい者への総合支援機能(ワンストップサービス)を提供する。				

No.	項目	項目	自己評価	平成24年度実施内容				
5-4	母子保健福祉の総合支援機能(ワンストップサービス)の提供	母子保健福祉の窓口サービスの相談体制の充実を図るために、子育て支援課で次の業務を行う。 ・赤ちゃん相談電話を健康推進課から移管 ・母子健康手帳交付・妊婦窓口相談など母子保健の一部業務を子育て支援課でも実施 ・乳幼児医療費給付事務を国保年金課から移管 ・乳児一般委託健康診査受診票及び予防接種予診票綴を子育て支援課でも発行 ※母子保健の窓口業務を保健センター及び子育て支援課が並行して実施	進捗率	平成23年4月までに母子保健と児童福祉の窓口業務のワンストップ化を行い、市民の利便性向上と相談体制の充実を図っている。 赤ちゃん電話相談、乳幼児医療費給付事務を他課から移管済みであり、母子保健の窓口業務を保健センターと当課で並行して実施済みであることから「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	平成24年度では目標を設定していないので「 判断できない 」と評価した。				
			—					
			目標		H22	H23	H24	H25
			母子保健窓口業務のワンストップ化率 100% (H23.4)		—	100%	100%	
			赤ちゃん電話相談件数 700件/年		—	653	399	
			母子健康手帳交付件数 80件/年		—	83	141	
			妊婦窓口相談件数 120件/年		—	134	199	
		事務事業名	決算額		0	5,548	2,499	
		子育て支援課母子保健福祉窓口業務体制強化	今後の課題	駅前こどもの広場におけるワンストップ機能についても検討が必要と思われる。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
5-5	自殺予防など心の健康づくり・命の尊さ教育を実施		進捗率	施策を構成する4事業について、いずれも「工程表どおり実施済み」と評価していることから、施策全体としても「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	施策を構成する4事業について、いずれも「目標を達成済み」と評価していることから、施策全体としても「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		1,378	3,454	2,901	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	市民の心の健康づくりと命の尊さ教育を推進するために、次の取り組みを実施する。 (1)自殺対策緊急強化事業 (2)心の健康づくり事業	(1)自殺対策緊急強化事業 (2)心の健康づくり事業	進捗率	自殺対策緊急強化事業として、普及啓発事業、人材養成事業、強化モデル事業を行ったほか、心の健康づくり事業として、こころの健康相談や講演会などを行い、予定していた事業をすべて実施したことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は「自殺者数48人以下(H25)としており、平成24年は39人(健康づくり推進課調べ)と平成25年度の目標値を達成していることから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			自殺者数 48人以下(H25) 55人(H22)、52人(H23)、50人(H24)		—	31人	39人(健康づくり推進課調べ)	
			決算額		1,378	3,109	2,129	
			今後の課題	平成23、24年度にモデル地区を選定して、「安心して暮らせる地域づくり事業」を実施してきたが、他の地域へどのように介入していくか検討しながら進めていく。				
			事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容			
	(3)命の尊さ教育 ・学級経営等の充実 ・性教育の充実(H22まで隔年で発行していた教師用「性教育の手引」をH23から毎年発行に変更) ・電話「子ども悩み相談」事業の充実(電話相談カードとリーフレットの様式を改良するとともに、新たにポスターを作成し、市立小・中学校児童生徒、保護者に配布)	(3)命の尊さ教育	進捗率	各講座とも、前年度の受講者によるアンケートに基づいた内容改善に取り組み、参加人数の増員を図った。また、各種配布物やリーフレット等についても記載内容の改善に努めたことから「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標のうち各講座の参加者については、学級経営講座では64人と平成24年度の目標を上回り、性教育研修講座も106人と目標を上回った。また、電話による「子ども悩み相談」事業周知率については、配布先の拡大やポスターによる周知の効果もあり、暫定結果から「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			学級経営講座参加者数 60人(H25) 30人(H22)、40人(H23)、50人(H24)		51人	80人	64人	
			性教育研修講座参加者数 75人(H25) 60人(H22)、65人(H23)、70人(H24)		80人	120人	106人	
			電話「子ども悩み相談」事業周知率 50%(H25) 45%(H23)、48%(H24)			59.00%	57.60%	
			決算額			345	247	
			今後の課題	各講座については実施後のアンケート分析による講座内容の工夫改善、カード、リーフレット、ポスター等配布物についてはさらに記載内容の工夫と充実を図っていく。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(4)健康教育講座推進事業 これまで、開催希望校のみで実施してきた健康講座を、毎年、市内小・中学校全校で開催する事により、児童生徒が適齢期(中学2年・小学5年)に、性に関する正しい知識を習得し、喫煙や飲酒の悪影響を理解させる。併せて、弘前市医師会等の専門医と連携し、HPV(※40)ワクチン接種の重要性の啓発と、ワクチン摂取率の向上を図る。	(4)健康教育講座推進事業	進捗率	小学校高学年については喫煙や飲酒について、中学校2年生については性に関する正しい知識についての講座を市内全小・中学校で実施したことから、「 工程表どおり に 実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標を市内全小・中学校で実施としており、目標どおり実施したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		中学校健康教育講座 16校(全校)		-	-	16校	
		小学校健康教育講座 37校(全校)		-	-	37校	
		決算額		-	-	525	
		今後の課題	受講対象を保護者等に拡大するとともに、講師数を増やすため、講師養成研修会を実施する。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容					
5-6	がん検診の受診率向上運動の実施	がん検診の受診率向上により、病気の早期発見早期治療につなげていくために、次の取り組みによる受診率向上運動を実施する。 ・体験者を講師に講演会を実施し、地域に広める。 ・巡回がん検診案内ハガキでのPR ・広報ひろさきでのPR(早期発見の必要性や検診料自己負担額が低額であること等) ・事業所検診の実態調査及びがん検診の同時受診の調整検討	進捗率	平成24年度は、巡回がん検診案内ハガキの配布や広報での啓発、及び事業所等検診と市のがん検診同時受診の実施については全て実施したことから、「 <u>工程表どおり実施済み</u> 」と評価した。					
			A						
			達成率	検診案内ハガキ配布数は目標値を達成しているが、受診率が+4.0ポイントの目標に対し+1.2ポイントと目標値を大きく下回ったことから、「 <u>遅れている</u> 」と評価した。					
			C						
		目標		H22	H23	H24	H25		
		がん検診受診率 24.1%(対H21実績比+5%) +1.5ポイント(H22)、+3.0ポイント(H23)、+4.0ポイント(H24)、		+1.9ポイント	+1.7ポイント	+1.2ポイント			
		巡回がん検診案内ハガキ送付数 10万枚/年		10万枚/年	10万枚/年	11.3万枚/年			
		事務事業名		決算額		180	197	388	
		がん検診受診推進事業		今後の課題	がん検診受診により病気の早期発見早期治療につなげ、市民の健康寿命延伸を図るために、これまでの啓発活動を継続するとともに、がん検診受診率向上のためのワーキンググループで新たな取組について検討していく。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
5-7	受動喫煙による健康被害を防ぐため、公共的施設での分煙と喫煙規制を強化	受動喫煙による健康被害を防止するために、次の取り組みを行う。 ・市の施設における受動喫煙対策の強化及び実施状況の公表を行う。(分煙施設における効果的分煙または禁煙の推進) ・民間が所有する公共的施設に対する受動喫煙防止対策(事業所訪問)を県と連携して行う。 ・空気クリーン施設情報について、県ホームページへリンクを張る。	進捗率	市の施設を対象とした禁煙、分煙対策の状況調査を行い、調査結果を公表したほか、県と連携して民間事業所訪問を行った。また、空気クリーン施設について情報提供(県のホームページへリンクを張る)をした。計画していた事業については全て実施したことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標は、「公共施設における禁煙、効果の高い分煙の施設の割合100%(H25)」としており、平成24年度は100%となったことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			公共施設における受動喫煙防止対策実施施設の割合 100%(H25) 98%(H23) 99%(H24)		97.0%	99.4%	100.0%	
			事務事業名	決算額		0	0	0
		受動喫煙防止対策進事業	今後の課題	受動喫煙について、敷地内禁煙を実施する施設の増加に向けて各施設の対策強化のために働きかけていく。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
5-8	インフルエンザなど児童の集団予防接種制度の検討	インフルエンザなど児童の集団予防接種制度について、次のとおり導入に向けた検討を進める。 ・市民の意向の現状把握 ・保護者、学校、医療機関との協議 ・集団接種を実施する種類の特定 ・実施手続 ①協力医師の選定 ②集団接種の会場の選定 ③ワクチンの手配 ④機械器具・救急薬品の準備 ⑤市民への周知 ⑥職員の派遣 など	進捗率	平成24年度は、新型インフルエンザは発生していないことから臨時接種はなかったが、臨時接種場所は前年に引き続き確保できているため、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	平成24年度は、新型インフルエンザは発生していないことから臨時接種はなかったが、臨時接種場所は前年に引き続き確保できている。また、弘前市新型インフルエンザ等対策本部条例を制定したことから「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			臨時接種場所 56か所		—	—	—	
			【参考】確保できている実施箇所数 56か所			56	56	
			事務事業名	決算額		0	0	0
		集団予防接種事業	今後の課題	有事の際に、速やかに接種できるよう体制の整備を図っていく。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
5-9	介護オンブズパーソンの認定による介護サービス相談体制の強化	介護サービス相談体制の強化を目指し、介護オンブズパーソンと同様の効果が期待できる介護相談員派遣等事業(※41)を実施し、苦情に至る事態を未然に防止する。	進捗率	平成24年度は、事業実施要綱の制定、相談員の選考、相談員養成研修への派遣など派遣体制を整え、介護施設事業者に相談員の受け入れの要請を行い、平成25年1月から派遣事業を開始したことから「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	相談件数(利用者からの相談・相談員の気づきなどについて施設への橋渡し)の120件/年は、10件/月の12ヶ月で120件/年としたものであり、平成25年1月から派遣を始め3か月で相談件数実績が26件/年、8.6件/月平均となることから「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			介護相談員相談件数 120件/年 60件/年(H24)		—	—	26	
		事務事業名	決算額		0	0	1,380	
		介護相談員派遣等事業	今後の課題	20施設への派遣計画だが、現在派遣申出施設は12施設となっており派遣事業への理解を進めて派遣施設を増やすこと及び事業効果を高めるために相談員、市、派遣施設の3者による懇談の場等の設置が必要である。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
5-10	地域における高齢者と子どもの交流活動の促進(子育て支援センターで実施) No.4-(1)-4「子育て支援センターの整備(高齢者と子どもの交流や集いの広場、地産地消食育レストラン、地域子育てサポーター〈高齢者による夜間休日保育ボランティア〉配置、etc)」の実施内容を再掲	子育て環境の充実のため、子育て支援センターの取り組みを次のとおり行う。 (1)新規子育て支援センターの設置 街中の高齢者や子連れの母などが集まり易い場所に民間との協働によりひろば型子育て支援センターを新設 ・事業内容 高齢者とのふれあい、食育事業、親同士の交流 など (2)既設支援センターの充実 大成なかよし会(土手町分庁舎内)において出張センターの開設 ・事業内容 高齢者とのふれあい、食育事業など	進捗率	(1)新規子育て支援センターの設置 駅前地区再開発ビル「HIRORO」を設置場所として決定し、設置条例、規則を制定。 平成24年度補正予算で、設計業務を委託し、平成25年3月からは整備工事に着手するなど、平成25年7月の供用開始に向けた準備を行った。 (2)既設支援センターの充実 土手町分庁舎で月2～3回、出張センターを開設し、三世代交流講座として延べ27回実施した。 (1)、(2)の実施内容から「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			達成率					
			A	(1)の目標「子育て支援センター設置1か所」は、平成24～25年度を設置時期としているため、達成率の判断は次年度以降とする。 (2)の目標「出張センター事業参加者数 1,000人/年」は実績が1,406人であったことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			目標		H22	H23	H24	H25
			子育て支援センター設置 1か所		—	—	—	
			出張センター事業参加者数 1,000人/年		—	1,255	1,406	
		事務事業名	決算額		0	(再1,191)	(再112)	
		子育て支援センター運営事業	今後の課題	実際に事業を実施してから課題が見えてくるものと考えられる。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
☆ 5-11	健康づくり事業(健幸ひろさき創出事業)		進捗率	施策を構成する3事業について、いずれも「工程表どおり実施済み」と評価していることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	施策を構成する3事業のうち、(1)及び(2)については「目標を達成している」としており、(3)は「判断できない」としていることから、施策全体として「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		1,378	2,419	20,537	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	市民の平均寿命の延伸を図るため、健康づくりへの支援を行う。 (1)(仮称)健幸ひろさき人材育成事業 岩木・相馬地区での弘前大学との研究を踏まえて全市的に健康実践教育研究を推進するための寄附講座を弘前大学に開設するとともに地域・職域等を単位とした健康づくり教室等実践活動のリーダー育成を委託し、健康づくりの全市的拡大を図る。	(1)(仮)健幸ひろさき人材育成事業	進捗率	4月に弘前大学に寄附講座「地域健康増進学講座」を開設し、9月からひろさき健幸増進リーダーのリーダー育成講座を開始した。平成25年2月に講座が修了し、第1期ひろさき健幸増進リーダー27名が養成された。計画していた事業については全て実施したことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	平成24年度の目標値は、「受講者数20人」としており、実績は28人であったことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			開設講座1講座 受講者 40人/年 (H24年20人)		—	—	28人	
			【参考】修了者数 30人/年		—	—	27人	
			【参考】年間活動支援回数 150回		—	—	—	
			今後の課題	弘前大学との共同プロジェクトである「健康増進プロジェクト事業」をこれまでの岩木・相馬地区から、市内全域へ拡大していくためには、地域保健の課題について専門的研究を行い、健康教養を高めるよう啓発を行うとともに、実践的な健康づくりである「運動教室」の実技などのけん引役となる人材が必要であり、引き続き弘前大学の協力が必要である。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(2)弘前大学と連携した健康増進プロジェクトの推進 弘前大学と共同して岩木地区をはじめ相馬地区住民を対象に調査研究と健康実践教育に取り組む。	(2)健康増進プロジェクト推進事業	進捗率	平成23年度に引き続き対象年齢を中学生以上に拡大しスケジュールどおり実施したことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標は、「受診者数900人」としており、平成24年度は1016人であったことから、「 目標達成済み 」と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		プロジェクト受診者数 900人(H25) 860人(H24)		929	809	1,016	
		今後の課題	これまでの取り組みから、肥満、運動不足、喫煙、飲酒、過食などの健康課題が明らかとなっており、運動教室に来ない人に働きかける有効な対策を検討する必要がある。				
	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(3)健幸ポイント制度推進事業	進捗率	健康ひろさきマイレージ制度として平成25年1月1日から実施し、応募用紙の配布を始めるとともに市民への広報活動にも着手したので「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
		A					
		達成率	目標値であるポイントホルダー数を、年度当初のがん検診受診者を自動登録する制度から、実施に当たっては参考指標としている実際の参加者(申込者)に対象を変更したため、申込締切日を過ぎないと実数を把握できないため、「 判断できない 」と評価した。				
		—					
		目標		H22	H23	H24	H25
		ポイントホルダー数 30,000人				—	
		【参考】参加者数 5,000人/年				—	
		今後の課題	市民に提供する景品については、その一部を民間企業からの寄附でまかなうことを予定していることから、その確保に向けた取組が大きな課題となっている。				

約束 6 津軽地域の中核都市として、近隣市町村との連携強化を図ります

めざす姿

弘前市が津軽地域の中核的な役割を担い、近隣市町村と医療、公共交通、観光などの分野でお互いに連携・協力することにより、地域全体の活性化が図られます。

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名		取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値				H24目標値 に対する 達成状況	H25目標値 に対する 達成状況
					22	23	24	25		
①	定住自立圏構想連携施策数 14件を目指します。	業務取得	件	0	-	14	14	14	○	○
					-	10	14			
	【参考】AP2013指標 定住自立圏構想連携施策数 16件を目指します。	業務取得	件	0	-	14	14	16	/	/
					-	10	14			
②	定住自立圏圏域市町村をつなぐ公共交通について、持続可能な公共交通体系を構築するため、公共交通路線の見直しを実施します。 H24計画策定後に目標を設定	-	-	-	-	-	-		—	—
					-	-	-			
	【参考】AP2013指標 定住自立圏圏域市町村をつなぐ公共交通路線数26 路線の維持を目指します。	業務取得	路線	26	-	-	26	26	/	/
					-	-	26			
③	定住自立圏圏域の観光入込客数8 1 0万人を目指します。（約10%増）	業務取得	万人	735.4	-	-	730	810	—	—
					735.4	655.9	—			
④	定住自立圏圏域の人口10 万人当たりの医師数287.5 人の維持を目指します。	業務取得	人	287.5	-	-	287.5	287.5	○	—
					287.5	302.9	302.9			
⑤	3市町村の合併をして不満である（どちらかと言えば不満＋不満）市民の割合を、10%に減らします。（3.8%減）	市民評価アンケート	%	13.8	-	-	11.9	10.0	○	—
					13.8	11.1	10.7			

H24目標値に対する達成状況 ○：目標を達成済み ×：目標を達成できない —：判断できない
H25目標値に対する達成状況 ○：目標を達成済み —：目標を達成できない・判断できない

約束全体の評価

めざす姿の達成状況を示す指標 5 項目について、平成 2 4 年度の目標値に対する達成率は、「目標を達成済み」が 3 項目、「判断できない」が 2 項目であることから、目標達成に向けた取組みは進んでいると判断できます。

なお、前年度に「目標を達成済み」の「中心宣言」「定住自立圏形成協定」「共生ビジョン作成」は既にその結果が出たことから、平成 2 4 年度の指標とはしておりません。

次に注目指標のうち、「③定住自立圏圏域の観光入込数客数 8 1 0 万人を目指します。」は、今後の数字発表を待つこととなります。「④定住自立圏圏域の人口 1 0 万人当たりの医師数 2 8 7. 5 人の維持を目指します。」は、3 0 2. 9 人と目標を達成しております。

また、個別施策の実施状況ですが、「進捗率」では、3 項目全てが「工程表どおり実施済み」となっていますが、「達成率」では、3 項目中 1 項目が「目標を達成済み」、1 項目が「概ね順調に推移」、1 項目が「遅れている」となっております。

「達成率」が遅れているものについては、様々な外的要因に影響を受ける側面を持っておりますが、これらに柔軟に対応し、成果に結びつけるよう取り組む必要があります。

このような状況を総合的に勘案すると、個別施策の一部が成果に結びついていないものの、めざす姿に向けた達成状況は目標を達成しており、弘前市が津軽地域の中核的な役割を担い、近隣市町村との連携・協力による地域全体の活性化に向けて、**おおむね順調に推移している**ものと考えます。

今後も、定住自立圏構想における連携事業の推進に取り組むとともに、合併戦略プロジェクトの着実な実施に取り組んでまいります。

個別施策の実施状況

項目		事務事業数	進捗率	達成率
【弘前市が中心となって近隣市町村と連携・協力して、行政サービス水準の維持や地域全体の活性化を図ります】				
○ 1	定住自立圏構想の推進（中心市の宣言） ・ 地域全体の「医療サービス」の維持、向上 ・ 地域全体の「公共交通」の維持、向上 ・ 地域全体の「観光振興」を積極的に展開	2	A	A
● 2	（再）北東北の中核都市として、民間企業や公的団体の弘前市への着実な立地を推進	1	A	C
● 3	市町村合併の効果の最大化と一体感の醸成を推進（合併効果促進事業）	1	A	B

進捗率 A:工程表どおり実施済み B:概ね工程表どおり C:工程表より遅れている -:未着手
達成率 A:目標を達成済み B:順調に推移 C:遅れている -:判断できない

上段：年度別概算所要額（単位：千円）／下段：年度別決算額（単位：千円）			
22年度	23年度	24年度	25年度
50	300	-	-
22	703	186, 409	

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
6-1	定住自立圏構想(※42)の推進(中心市の宣言) ・地域全体の「医療サービス」の維持、向上 ・地域全体の「公共交通」の維持、向上 ・地域全体の「観光振興」を積極的に展開		進捗率	施策を構成する2事業については、いずれも、「工程表どおりに実施済み」との評価となっており、施策全体としては、総合的に勘案して、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	施策を構成する2事業については、いずれも、「目標を達成済み」との評価となっており、施策全体としては、総合的に勘案して、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		22	703	186,409	
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	津軽地域の中核都市として、近隣市町村と連携して地域の全体活性化を図るために、弘前市を中心市とする8市町村が連携して、次のとおり「定住自立圏構想」を推進する。 ・「中心市宣言(※43)」(弘前市) ・「定住自立圏形成協定(※44)」の締結(弘前市と周辺市町村(※45)が1対1で結ぶ) ・「定住自立圏共生ビジョン(※46)」の策定(近隣市町村と協議を経て弘前市が策定)	定住自立圏構想推進事業	進捗率	新たに4施策を追加し、構成市町村施策担当課協議、構成市町村地域圏主管部課長会議、構成市町村長会議を経て、4施策毎の定住自立圏形成協定を締結、定住自立圏共生ビジョンを変更したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	平成24年10月3日付けで4施策毎の定住自立圏形成協定を締結し、平成24年12月26日、定住自立圏共生ビジョンを変更したことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			定住自立圏形成協定の締結(H24.10まで)		—	実施	実施	
			「定住自立圏共生ビジョン」の変更(H25.2まで)		—	実施	実施	
			今後の課題	施策担当課協議の進行を見守りながら、2件の追加を図っていきたい。追加施策については9月に議会での審議、10月に協定締結、12月に共生ビジョンを変更することになる。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	・定住自立圏共生ビジョンに基づく連携事業の実施(医療サービス、公共交通、観光振興、人材育成等)	定住自立圏共生ビジョン推進事業	進捗率	平成24年度実施事業10件は、全て着手済みであることから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標の「連携事業着手率 75%(H25)」を上回ったことから、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			連携事業着手率 75%(H25)		—	—	100%	
			【参考】連携事業着手率 100%(H25)		—	—	100%	
			今後の課題	四半期(3カ月)毎に事業状況を照会して施策の進行管理を行い、各施策のフォローアップを図る。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
6-2	(再)北東北の中核都市として、民間企業や公的団体の弘前市への着実な立地を推進	弘前への企業・団体の立地を図るために、ひろさき仕事おこし応援隊・大学・各種団体と連携して情報収集を行い、企業や団体を訪問、当市の各種優遇制度等をPRをし誘致活動を推進する。	進捗率	首都圏開催の産業立地フェアでの立地環境のPRや、ひろさき仕事おこし応援隊から企業誘致に関わる情報を収集などの、誘致活動を展開しており、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。 なお、企業アンケート調査については、弘前オフィス・アルカディアへの立地促進を目的に実施していたが、全て埋まったため休止している。				
			A					
			達成率	24年度は1件の誘致があつたが、目標に達していないことから「 遅れている 」と評価した。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			誘致件数(H22～H25) 5件 1件(H22)、2件(H23)、3件(H24)		1件	1件	2件	
			訪問企業・団体数 20件/年		21件	20件	24件	
		事務事業名	決算額		(再 879)	(再 645)	(再 835)	
		企業・団体立地推進事業	今後の課題	雇用創出という観点から、従来からの工業系や情報系の企業誘致に加え、中心市街地の空き店舗の解消にも繋がるような幅広い業種・業態の事業所の進出を促進するための取り組みについても検討していく。また、広域連携による、雇用創出や企業誘致活動など、連携して取り組む具体策を検討する。				

No.	項目	項目	自己評価	平成24年度実施内容				
6-3	市町村合併の効果の最大化と一体感の醸成を推進(合併効果促進事業)	市町村合併の効果の最大化と一体感の醸成を図るため、合併戦略プロジェクト(※47)等の事業を積極的に推進する。	進捗率	11項目18事業のうち、平成23年度までに3項目6事業が完了している。平成24年度は「相馬地区住民ふれあいセンター」が、平成25年3月末に供用開始となり、平成25年度は旧相馬庁舎の解体及び第2期外構工事等となる。他の事業も、ほぼ予定どおり実施されたことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標指数(事業費ベース)は平成24年度末71.7%と設定しているが、実績は69.5%と2.2%(231,050千円)及ばなかった。しかし、平成22年度からH23年度にかけて10.1%、平成23年度から平成24年度にかけて12.3%と推移していることから「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			合併戦略プロジェクト事業進捗率(事業費ベース)(H25) 86.9% H22:48.6% H23:62.9% H24:71.7%		47.1% H18から	57.2%	69.5%	
		事務事業名	決算額		(再 1,741,628)	(再 1,136,862)	(再 1,264,258)	
		合併戦略プロジェクト推進事業	今後の課題	いずれの整備事業も、地域住民及び事業関係者との調整等が必要なことから、事業に対する理解を得ながら進めたい。				

約束 7 市職員のパワーを引き出し、市役所の仕事力を高めます

めざす姿

前向きに取り組む職員の育成により、市民ニーズの的確な把握やサービスの向上が図られ効率的・効果的な行政運営が実現しています。

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名		取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値				H24目標値 に対する 達成率	H25目標値 に対する 達成率
					〔 ※()書きは「わからない」の回答を除いた場合 〕					
					22	23	24	25		
①	エリア担当制度による、町会等からの意見や要望等を措置した割合100%を目指します。	業務取得	%	－	－	100	100	100	○	—
					－	99.6	100			
②	ボランティア・地域活動に参加している職員の割合 70%を目指します。	業務取得	%	48.0	53.0	60.0	65.0	70.0	×	—
					55.1	55.7	46.1			
③	市の施策や事業、各種市民サービスの市民満足度を高めます。	市民評価 アンケート	%	69.0	－	－	73.0	75.0	○	○
					69.0	76.4	75.5			
④	職員の仕事ぶりの市民満足度を高めます。	市民評価 アンケート	%	63.1	67.0	68.0	69.0	70.0	×	—
					55.2	62.6	61.2			
					※(59.1)	※(66.9)	※(65.5)			
⑤	職員の窓口対応に対する市民の不満を解消していきます。	市民評価 アンケート	%	17.9	15.0	13.0	12.0	10.0	×	—
					16.4	12.8	13.3			
⑥	財政調整基金（※48）は、計画期間を通じて20億円を維持します。	業務取得	億円	20	20	20	20	20	○	○
					26	29	30			
⑦	地方債の繰上償還及び計画的な借入により、実質公債費比率（※49）12.4%を目指します。	業務取得	%	13.1	－	－	13.0	12.4	○	—
					13.1	12.3	11.2			

H24目標値に対する達成率 ○：目標を達成済み ×：目標を達成できない —：判断できない
H25目標値に対する達成率 ○：目標を達成済み —：目標を達成できない・判断できない

約束全体の評価

めざす姿の達成状況を示す指標7項目について、平成24年度の目標値に対する達成率は、「目標を達成済み」が4項目、「目標を達成できない」が3項目となっております。「目標を達成できない」項目については、「地域や住民との協働」に関する研修の実施や、職員のボランティア活動に関して紹介する機会をつくるなど、職員が自主的に参加する意欲につながる取り組みのほか、これまでの研修等の検証と、平成24年度の職員の意識改革や人材育成をより推進するための事業に加え、研修等の一層の充実と継続的な意識改革が必要だと考えられます。

平成24年度における注指標のうち、「①エリア担当制度による、町会等からの意見や要望等を措置した割合100%を目指します。」については、エリア担当職員がパイプ役となって町会等からの意見や要望等に全て措置済みであり、目標値である100%を達成しております。また、「③市の施策や事業、各種市民サービスの市民満足度を高めます。」についても、目標値を達成していることから、仕事に対する職員の意識改革や接遇能力等が向上した結果だと考えられます。

次に、個別施策の実施状況ですが、「進捗率」では、5項目中5項目が「工程表どおり実施済み」となっています。また、「達成率」では、1項目が「目標を達成済み」、3項目が「概ね順調に推移」、1項目が「遅れている」となっています。

施策の実施状況や指標全体の傾向と注指標の達成状況等を総合的に勘案すると、取り組みの結果が表れていない項目もあるものの、職員の企画・提案によって、ショートムービー「りんごのうかの少女」の映画化、中心市街地に賑わいを戻した「駐車場無料開放」、駅前再開発ビル3階フロアにオープンした多機能行政施設「ヒロロスクエア」、その他にも市民や議会と対話しながら35事業を予算化させるなど、施策を積極的に展開しようとする職員が着実に増えていることから、めざす姿に向けて、**成果があらわれている**と考えます。

平成25年度は、職員の更なるスキルの向上を目指すほか、専門的な知識を有する民間経験者を採用することにより、市民感覚や民間手法を取り入れ、行政ニーズの高度化や多様化に対応したいと考えております。また、エリア担当制度の継続運用により、地域と一緒にあってよりよい地域づくりに前向きに取り組む職員が着実に育成されていくことが期待されます。

個別施策の実施状況

項目		事務事業数	進捗率	達成率
【”市職員のパワー”を引き出します】				
	○1 民間からの中堅・幹部職員の採用（任期付きなど多様な形態で）	1	A	C
	●3 エリア担当制度の検討など職員の地域活動への参加促進	1	A	B
	☆5 地域マネジメント能力を育成するための職員研修プログラムの導入	2	A	A
【市役所の窓口改革に取り組みます】				
	●4 窓口改革運動の実施	1	A	B
【予算の無駄を削減します（満足感とまでいかずとも納得感を）】				
	○2 職員提案による自主財源の確保（人事評価と連動した成果主義の徹底）	3	A	B

進捗率 A:工程表どおり実施済み B:概ね工程表どおり C:工程表より遅れている -:未着手
達成率 A:目標を達成済み B:順調に推移 C:遅れている -:判断できない

上段：年度別概算所要額（単位：千円）／下段：年度別決算額（単位：千円）			
22年度	23年度	24年度	25年度
5,553	81,990	16,549	13,549
2,732	51,409	28,480	

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
7-1	民間からの中堅・幹部職員の採用(任期付きなど多様な形態で)	特別な技能、経験、知識を有する者など、市役所内部からの登用が難しい業務に従事させるため、また、市の業務に市民感覚や民間手法を取り入れるため、民間からの人材の登用(採用・委嘱など)を図る。	進捗率	民間からの登用を柔軟に行うための制度として、「弘前市一般職の任期付職員の採用等に関する条例」を制定した。 また、民間における勤務経験のある人材に対する受験機会を拡大するため、社会人枠を設定した試験を実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	H24年度は1名の採用を目標としていたが、採用実績がなかったことから、「 遅れている 」と評価した。				
			C					
			目標		H22	H23	H24	H25
			採用人数 3人(累計)(H25) 1件(H23)、2件(H24)		-	1人	1人	
		事務事業名	決算額		0	0	0	
		民間人採用事業	今後の課題	行政ニーズの多様化・高度化に的確に対応していくために、外部アドバイザーなど専門的な知識・経験を有する人材の活用について引き続き検討する。				

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
7-2	職員提案による自主財源の確保（人事評価と連動した成果主義の徹底）		進捗率	施策を構成する3事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	構成する3事業について、「工程表どおり実施済み」が2事業、「概ね順調に推移」が1事業となっていることから、施策全体としては「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(1)職員が自主的に提案した政策テーマについて、グループで研究活動を行い、その成果を施策へ反映させていく。 特に、自主財源の確保に関するテーマについて、積極的に施策への反映を目指す。	(1)職員提案政策研究事業	進捗率	平成24年度は7件の提案のうち、4件の政策研究テーマを決定し実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	4件の政策研究テーマを調査研究することができ、うち1件の政策研究テーマを施策に反映することができたが、テーマ件数およびメンバー人数で目標に満たない部分もあるため、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			政策テーマ 5件程度/年		9件	8件	4件	
			メンバー 1グループ5名以上		5件	6件	3件	
			自主財源の確保につながった提案件数 累計3件(H25) 1件(H23)、2件(H24)		-	1件	0件	
			決算額		2,732	2,191	4,944	
			今後の課題	研究テーマの提案件数が減少している傾向にあるため、提案を促す取組みの強化が必要である。				
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(2)職員の職務意欲の向上と職員の提案を引き出す機会として、希望する職員たちが、昼の休憩時間を利用し、市長と意見交換する。	(2)市長と職員の意見交換会	進捗率	4月から継続的に市長と職員の意見交換会を実施することができたことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	目標の60人/年に対して、延べ67人の職員が市長と意見交換することができたため、「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			参加者数 60人/年		84人	125人	67人	
			今後の課題	市長の見解などを開催日の調整を図りながら、より多くの職員が市長と意見交換できるよう配慮を継続していく。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(3)能力・実績主義の人事管理を徹底するため、現行の人事評価制度を検証したうえで、能力評価(※50)及び業績評価(※51)を中心とした人事評価制度を導入する。	(3)新人事評価制度導入事業	進捗率	新たな人事評価制度設計に向け、部分的な試行を実施したことから、「 <u>工程表どおり実施済み</u> 」と評価した。				
		A					
		達成率	部分的試行を踏まえて、人事評価マニュアルの作成を進めたことから、「 <u>概ね順調に推移</u> 」と評価した。				
		B					
		目標		H22	H23	H24	H25
		人事評価マニュアルの作成(H25)		—	—	—	
		【参考】部課長級を対象に試行を実施(H25)		—	—	—	
		今後の課題	人材育成基本方針の改訂を踏まえて、部課長級への試行を実施後、課長補佐級以下へ対象範囲を拡大する。				

No.	項目	項目	自己評価	平成24年度実施内容				
7-3	エリア担当制度(※52)の検討など職員の地域活動への参加促進	地域活動の活性化と職員力のさらなる活用のために、次の取り組みを行う。 (1)地域活動への参加促進策の強化 職員への啓発策として、町会活動等地域活動への参加目標設定、目標達成状況の把握、公表により、職員の参加意欲を促す。 (2)エリア担当制度の導入 市民ニーズを把握しながら地域とのパイプ役となり、地域づくりについての助言や協力等を行うためにエリア担当職員を各地区に配置する。 ・エリア担当職員の活動内容 ①町会の会議等への出席 ②町会への情報提供 ③町会からの意見・要望等の受付及び関係課との調整	進捗率	平成24年度は、職員広報「ひろば」に職員地域活動を紹介することにより、地域活動への参加促進を図ったため、「 <u>工程表どおりに実施済み</u> 」と評価した。				
			A					
			達成率	地域活動に参加している職員の割合は目標を達成していないが、エリア担当制度による、町会等からの意見や要望等を措置した割合 100%/年となったことから、「 <u>概ね順調に推移</u> 」と評価した。				
			B					
			目標		H22	H23	H24	H25
			地域活動に参加している職員の割合 70.0%(H25) 53.0%(H22)、60.0%(H23)、65.0%(H24)、		55.1%	55.7%	46.10%	
			エリア担当制度による、町会等からの意見や要望等を措置した割合 100%/年		—	99.6	100%	
		事務事業名	決算額		0	605	780	
		職員地域活動参加促進事業	今後の課題	地域活動の活性化として、自主防災組織の結成の促進、健康づくり事業の推進のほかにも、1%システムの利用促進等にも取り組むための、仕組みづくりの必要がある。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容							
7-4	窓口改革運動の実施	窓口サービスの充実を図るために、次の取り組みを行う。 (1)接客態度改善の取り組み促進 ・接客態度改善のための取り組みの提案 ・研修の実施及び研修機関への派遣(接遇研修、クレーム対応研修など) ・窓口診断の実施 ・弘前市職員マナーブックの活用 (2)ハード面での窓口改革 ①経費が少なく、比較的早期に実施可能な設備の導入 ②関係する課等の配置換えやシステム改修等、大規模な設備の導入(届出手続きのシステム化、総合窓口化)	進捗率	ソフト面では、窓口改革運動(接遇改善提案)によって新たな取り組みや創意工夫などを各課から提案してもらい参考となる事例は全庁的に紹介した。また、外部委託による窓口や電話対応の診断を実施し、診断に連動した接遇改善研修を実施したり、クレーム対応、接遇向上のための研修を外部研修機関へ派遣するなどして実施した。 ハード面では、平成24年7月から総合窓口システムを導入している。 このことから、「 <u>工程表どおり実施済み</u> 」と評価した。							
			A								
			達成率	窓口改革運動として、全庁的に先進的、効果的と考えられる取り組みを紹介し、平成23年度に引き続き窓口。電話対応診断と接遇向上研修を実施するなど、窓口サービスの充実を図るための意識改革に取り組んだ。 また、市民評価アンケート(暫定値)では12.9%となっているが、各種研修機関でクレーム対応、接遇向上などの研修へ職員を派遣し、窓口対応に関するスキルの向上も図り、市が実施する階層別研修では積極的に弘前市職員マナーブックを利用した研修の実施などマナーブックの活用促進にも取り組み、ハード面では、平成24年7月から総合窓口システムを導入していることから「 <u>概ね順調に推移している</u> 」と評価した。							
			B								
		目標			H22	H23	H24	H25			
		職員の対応や態度に不満をもつ市民の割合 10.0%(H25) なし(H22)、14.0%(H23)、12.0%(H24)			16.4%	12.8%	12.9%				
		事務事業名			決算額			0	48,613	21,185	
		窓口改革事業			今後の課題	ハード面では、導入済みとなっていることから安定的に運用していくとともにより効率的な運用を検討していく必要がある。また、ソフト面での窓口改革運動は、今後研修等を一層充実させ、継続的に意識改革を図っていく必要がある。					

No.	項目		自己評価	平成24年度実施内容				
☆ 7-5	地域マネジメント能力を育成するための職員研修プログラムの導入		進捗率	地域をマネジメントするための能力を向上させる研修として、人材マネジメントに関する研修への参加と先進地視察や専門性の高い研修の受講などを実施したことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	人材マネジメント能力を向上させるための研修等へ派遣し、研修成果や施策への反映が達成できたことから「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
	実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	「地域経営」を推進するために人材マネジメント能力、政策実現や経営能力のある人材を育成する。このため、先進地視察研修や専門的機関等へ職員を派遣する。	(1) 職員人材マネジメント能力向上特別研修	進捗率	早稲田大学マニフェスト研究所の人材マネジメント部会へ職員を3名参加させ、人材をマネジメントするための先進的な手法や理論を学び、学んだことを市で実践する研修を行ったことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	参加した職員が提案する市職員の現状に関するアンケート、ひろさきマネトーク（職員自主研究グループ）の立ち上げなど研修で学んだことを活かし、実践することができたため「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			研修成果が実践できた件数 2件		－	－	2件	
			決算額		－	－	1,571	
			今後の課題	効果を検証しながら派遣を検討していく。				
		事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
		(2) 職員スキル向上特別研修事業	進捗率	アクションプラン達成に必要な先進地への視察や専門性の高い研修の受講について、各所属から提案してもらい必要と認められる派遣について実施したことから「 工程表どおり実施済み 」と評価した。				
			A					
			達成率	平成25年度は、11所属、15件の派遣を実施し、一部を除き確実に施策へ反映されていることから「 目標を達成済み 」と評価した。				
			A					
			目標		H22	H23	H24	H25
			研修成果が施策に反映できた割合 50%/年		－	73.7%	93.3%	
			今後の課題	先進地視察は緊急的、突発的な事案が多いため、先進地視察に予算を配分できるよう研修への派遣については当初予算で計上するなどして派遣先について、精査していく必要がある。				

ダッシュ 3 3つの緊急事業

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容			
1	中心市街地活性化のために ジョッパル再生に協力します	(1)中心市街地活性化のために、民間事業者に対して、再生に必要な様々な情報を提供し、再生事業を支援するとともに、事業が着実に進むよう取り組みを支援する。	進捗率	民間事業者が、国の補助制度を活用した再生事業に取り組んだ。市では、この補助制度活用についての助言と、活用に必要な事務手続きを行った。また利活用検討会議を開催し、「弘前駅前地区再開発ビル公共的利活用計画」を決定。3階フロアを取得し、(仮称)駅前分庁舎を設置するとしたことから、「 工程表どおりに実施済み 」と評価した。			
			A				
			達成率	民間事業者による再生事業が着実に進んでいるとともに、市においても、公共的利活用計画に基づき、3階フロアを取得し、(仮称)駅前分庁舎を設置するとしたことから、「 目標を達成済み 」と評価した。			
			A				
		(2)民間事業者の進ちよく状況に歩調を合わせ、駅前市民ホールなど市の施設の取扱いや、市民の利便性向上につながるような公共的利活用のあり方を探る。	目標		H22	H23	H24
			商業環境や復旧経費を調査し、民間事業者への情報提供を実施		実施		
			利活用検討会議の設置・開催		－	3回	4回
			利活用のあり方の決定		－	－	決定
		事務事業名	決算額		4,200	0	0
		弘前駅前地区再開発ビル再生事業	今後の課題	施設全体として安定した運営ができるよう、民間事業者と連携した取り組みを行っていく必要がある。			

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容						
2	堀越地区全天候型スポレク施設 建設の見直しをします	地域住民や関係団体から反対 意見のある全天候型スポレク施 設について、市民や関係団体の 意見を聞きながら建設計画を一 から見直しする。	進捗率	スポレク施設の建設見直しにより、多目的広場として整備し供用を開始していることから「 工程表どおりに 実施済み 」と評価した。						
			A							
			達成率	建設計画の見直しを実施したことから「目標を達成済み」と評価した。						
			A							
			目標			H22	H23	H24		
			見直し方針を決定 (H22)			－	－	－		
			H23年度予算へ反映 (H22)			－	－	－		
			事務事業名			決算額			460	20,299
		スポレク施設建設見直し事務	今後の課題	ファシリティマネジメントを活用した施設の有効利用を目指して、多目的広場の利活用について地元の意 見を取り入れながら方針を決定する。						

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
3	東北新幹線新青森駅開業(全線開通)・弘前城築城400年を絶好の機会ととらえ、早急に実効性のある観光施策を行います	観光情報発信の強化、観光資源の磨上げ、受入態勢の整備などによって、誘客拡大と交流人口増加に努める。	進捗率	下記の事業等を実施したことから、「 行程表どおり実施済み 」と評価した。 ・観光振興アクションプログラムに掲げた5つのプロジェクト・55のプログラムに基づき事業を進めた。 ・在東京チームにおいては、県東京事務所と連携して観光PRや旅行エージェント等への働きかけを行い、当市への誘客につなげた。 ・新幹線効果活用事業、弘前駅自由通路等にぎわい創出事業、おもてなし観光推進事業を実施した。 ・インバウンド事業を強化した。 ・弘前感交劇場ポータルサイトの供用を開始し、外国語版(4か国語)を制作した。 ・日本まちあるきフォーラムを開催するとともに、街歩き観光の推進を図り、受入態勢の整備に努めた。 ・地域のまつりとしての四大まつりに、弘前城築城400年祭関連事業の一部を継承した。 ・集客力が弱いとされる秋・冬期間に、弘前りんご博覧会及び冬を彩る光のまちづくり事業を開催し、誘客を図った。				
			A					
			達成率	目標のうち、「行祭事・イベント観光入込客数」は目標を達成できなかったが、「観光入込客数」については目標を達成したことから、「 概ね順調に推移 」と評価した。				
			B					
			目標			H22	H23	H24
			観光入込客数 基準値(H22) 4,551千人 4,500千人(H24)、5,000千人(H25)		目標値	－	4,000	4,500
					実績値	4,551	4,138	4,508
			行祭事・イベント観光入込客数 基準値(H22) 4,853千人 4,900千人(H24)、5,500千人(H25)		目標値	－	4,400	4,900
					実績値	4,853	4,736	4,375
		事務事業名		決算額			個別施策工程表に記載	
		観光振興事業ほか		今後の課題	目標の達成に向けて、観光情報の効果的な発信を行うとともに、秋・冬期間の誘客を図るための事業を継続して実施する。 「弘前市観光振興アクションプログラム」は平成25年度が取組みの最終年度となることから、平成26年度以降の計画の策定について検討する。			

合併戦略プロジェクト

(1) 一体感のあるまちづくりプロジェクト

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
(1)-1	小中学校・地域イントラネット整備事業	小中学校、社会教育施設、体育施設の公共ネットワーク網の基盤整備を行う。	進捗率	平成22年度に事業完了済み。				
			A					
					H22	H23	H24	H25
				決算額	9,667			
			今後の課題	—				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
(1)-2	学校給食センター整備事業	老朽化している西部学校給食センターを合併後早期に改築する。 また、新市の全中学校に学校給食を拡大する。	進捗率	平成22年度に事業完了済み。				
			A					
					H22	H23	H24	H25
				決算額	778,608			
			今後の課題	—				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容					
(1)-3	津軽歴史文化財保存整備事業	津軽氏城跡の保存整備と歴史・文化資料の展示施設を整備する。	進捗率	展示施設に関しては、建設予定地の測量、地質調査、土地鑑定評価及び立木調査を実施したが、実施設計及び盛土整備工事に至らなかった。 堀越城跡に関しては、発掘調査及び二ノ丸実施設計を行うと共に、本丸整備工事に着手した。 弘前城跡本丸石垣に関しては、測量及び地下水位観測を実施すると共に、試掘調査並びに石材産地調査を行った。					
			C						
						H22	H23	H24	H25
			決算額			74,564	45,435	70,386	
			今後の課題	展示施設に関しては、所蔵品の帰属について、神社側の意見統一が出来ていないため、建設に着手できないことが課題である。 堀越城跡に関しては、平成31年まで重層化する整備工事の計画的かつ円滑な工事運営が求められると共に、東側の池への水源確保が課題となる。 弘前城跡本丸石垣に関しては、破損した石垣の新補石材の確保と大事業の計画的かつ適正な事業の実施、さらには天守曳屋を含む修理工事の公開並びに学校教育への活用が求められると共に、これらの多大な業務推進体制の充実が課題である。					

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容					
(1)-4	アップルロード整備事業	補修や更新とともに、部分的な勾配・カーブ改良及び橋りょう補修など、より安全な道路構造への整備を行う。	進捗率	平成24年度は県営事業として採択された兼平・三本柳間L=5.6kmの内、L=1.7kmの舗装工等及び、上岩木橋・小栗山間L=9.6kmの内、新規採択区間(小栗山地区L=0.96km)の測量、舗装工等の事業費の一部を負担した。また、旧建設省工区の鳥井野地区、百沢地区の路面補修及び上岩木橋の橋梁補修を実施していることから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。					
			A						
						H22	H23	H24	H25
			決算額			33,161	41,799	104,763	
			今後の課題	平成22年度より着手した県営事業、兼平・三本柳間の整備が平成24年度で完了。今後は県営事業、小栗山地区の線形・勾配修正等の事業費の一部を負担するが、用地取得・補償の進捗が課題となる。					

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容					
(1)-5	サインナビゲーション整備事業	弘前市及び周辺市町村における主要な公共施設及び観光施設への案内誘導を行うため、国道・県道、市幹線道路等に適切な施設誘導サインを整備し、来訪者の利便向上を図る。	進捗率	平成22年度に事業完了済み。					
			A						
						H22	H23	H24	H25
			決算額			5,250	0	0	
			今後の課題	適切な維持管理に努める。					

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容					
(1)-6	防災行政無線統合整備事業	旧弘前市、旧岩木町、旧相馬村において整備された防災行政無線の周波数統合とデジタル化を行い、災害時等における市民への情報伝達体制の強化を図る。	進捗率	平成24年度に実施設計を実施しており、「 <u>工程表どおり実施済み</u> 」と評価した。					
			A						
						H22	H23	H24	H25
			決算額			-	6,186	14,175	
			今後の課題	実施設計に基づいた工程表どおりの整備を進めていく。					

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容					
(1)-7	広域環状道路整備事業	弘前市及び周辺市町村をネットワークする広域環状道路として独狐地内から高屋地内を経由しアップルロードに接続する。	進捗率	平成24年度は、独狐蒔苗線の遺跡発掘調査区域を除いた区間の道路改良L=730mを実施。また、新規に、蒔苗鳥井野線の測量・地質調査・設計業務を実施したことから、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。					
			A						
						H22	H23	H24	H25
			決算額			150,000	109,155	175,852	
			今後の課題	独狐蒔苗線については、遺跡発掘調査の進捗状況を考慮しながら道路改良及び舗装工事を順次進める必要がある。また、蒔苗鳥井野線については、事業進捗を図るためには、用地取得・補償が課題となる。					

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容					
(1)-8	新しいまちづくり人材育成事業	合併特例債を活用して積み立てたまちづくり振興基金(30億5000万円)の運用益を活用し、様々なまちづくり人材育成事業を行う。	進捗率	平成23年度から、人材育成面での効果を期待できる「市民参加型まちづくり1%システム事業」及び岩木・相馬活性化支援補助事業の財源として、基金運用益を充当することとしたので、「 工程表どおり実施済み 」と評価した。 なお、両事業とも一般財源で賄うことができたため、基金からの充当は必要なく決算額は0となった。					
			A						
						H22	H23	H24	H25
			決算額			0	0	0	
			今後の課題	これからも、市民と行政との協働によるまちづくりを積極的に展開するため、将来を担う人材育成事業に取り組む。					

(2)地域の均衡ある発展プロジェクト

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
(2)-1	小中学校施設整備推進事業	遅れている弘前地域の小中学校の施設整備を推進する。 ・堀越小学校校舎改築事業 ・西小学校屋外運動場整備事業 ・第四中学校校舎改築事業 ・中学校屋体暖房整備事業	進捗率	平成24年度は、第四中学校の外構整備工事を実施することとしていたが、豪雪の影響により作業効率が大幅に落ち、工事の進捗が遅れたため、翌年度へ繰越したことから、「 <u>工程表より遅れている</u> 」と評価した。				
			C					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		643,089	824,425	59,638	
			今後の課題	第四中学校外構整備工事は、4月30日までに完成済み。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
(2)-2	下水道施設整備推進事業	岩木地域の下水道施設整備を促進する。	進捗率	百沢、常盤野及び弥生地区については、整備手法が決定したことから、各地区において事業説明会を実施した。また、公共下水道事業で整備する予定の龍ノ口地区については、国交省より河川敷への下水道管理設の内諾を得たことから、「 <u>工程表どおり実施済み</u> 」と評価した。				
			A					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		2,027	1,586	1,575	
			今後の課題	百沢および常盤野地区については、H25年度から特定環境保全公共下水道事業で順次整備を進め、また、弥生地区については、H26年度から農業集落排水事業で整備をする予定である。さらに、龍ノ口地区については、公共下水道事業でH25年度から工事を実施する。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
(2)-3	住民ふれあいセンター整備事業	相馬総合支所や周辺にある老人福祉センター、御所温泉、中央公民館相馬館などを再編し、庁舎機能と交流機能を有した複合施設、(仮称)相馬地区住民ふれあいセンター建設を実施する。	進捗率	平成25年3月25日に供用開始したことから、「 <u>工程表どおり実施済み</u> 」と評価した。				
			A					
					H22	H23	H24	H25
			決算額		80,651	70,021	837,869	
			今後の課題	旧相馬庁舎の解体及び解体後の外構整備や旧中央公民館相馬館・旧第三分団屯所の解体、長慶閣の増改築など、相馬庁舎周辺の整備を進め、平成26年度までに整備完了を目指す。				

用語解説

No.	用語	解説
※1	市民参加型まちづくり1%システム事業	市民税の1%相当額を、各種団体などに対する助成費として支援し、市民参加型まちづくりを実現することを目的とするもの。 地域の課題解決や活性化につながる公益性のある事業を補助の対象とし、応募された事業は「まちづくり1%システム審査委員会」において審査する。
※2	市民参画担当チーム	市民との情報共有を促進し、市民参画・市民との協働のための土台づくり、市民の声に応える開かれた市役所作りを進めることを目的とした担当組織。
※3	公募可能な審議会等	公募委員の選任ができない(適当でない)審議会等を除いたもの。 公募委員の選任ができない(適当でない)審議会等とは、 ①法令または条例等の規定に基づき、特定の職に就く者を委員に充てるとされているもの。 ②行政処分に係る審議等を行なうもの。 ③個人情報保護、秘密の確保、中立・公正の確保の必要があるもの。 ④きわめて高度な専門知識又は特殊な資格若しくは免許を必要とするもの。 ⑤設置目的及び所掌事項に照らし、公募が適当でないと認められるもの。
※4	自治基本条例	自治の基本理念を明らかにするとともに、市民の権利及び責務、議会及び市長の責務、行政運営の基本原則等を定めた条例。
※5	マルシェ	フランス語で「市場」のこと。
※6	農商工連携	農林水産業者と商工業者がそれぞれの有する経営資源を互いに持ち寄り、新商品・新サービスの開発等に取り組むこと。
※7	集落営農組織	集落など地縁的にまとまりのある一定の地域内の農家が、農業生産を共同で行い営農活動をする団体のこと。
※8	二地域居住	都会に暮らす人が、週末や一年のうちの一定期間を農山漁村で暮らすこと。
※9	シティプロモーション	まちの魅力を磨き上げ、まちが持つ様々な地域資源を外に向けてアピールすることで、自らのまちの知名度や好感度を上げ、地域そのものを全国的に売り込むこと。近年各都市で行われている「シティセールス」などと呼ばれている活動。
※10	コミュニティビジネス・ソーシャルビジネス	地域住民が、地域資源を活用して、地域におけるさまざまな課題・問題を解決するために、事業(ビジネス)手法を用いて活動するもの。
※11	レトロモダン	「新しさの中にどこか懐かしさを感じさせる」又は「古いものが逆に新しさを感じさせる」さま。
※12	景観計画	景観法に基づき、景観行政団体が策定する計画で、良好な景観の形成に関する方針や行為の制限等を定めるもの。弘前市の景観計画は、平成24年6月に施行している。 「景観行政団体」とは、景観法に規定する良好な景観形成を推進するための具体的な施策を実施できる地方公共団体のこと。
※13	中心市街地活性化基本計画	中心市街地の活性化に関する法律に基づき、中心市街地の活性化に関する施策を総合的・一体的に推進するための基本的な計画。弘前市の計画は、平成20年7月に内閣総理大臣の認定を受けている。

No.	用語	解説
※14	歴史的風致維持向上計画	地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律に基づき、歴史的風致の維持及び向上に関する施策を推進するための計画。弘前市の計画は、平成22年2月に国（文部科学・農林水産・国土交通各大臣）の認定を受けている。 「歴史的風致」とは、地域における固有の歴史や伝統を反映した人々の活動と、活動が行われる歴史上価値の高い建造物及び周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境のこと。
※15	景観重要建造物	良好な景観の形成に重要な建造物について、その保全を図るため、景観計画の方針に即して景観行政団体の長が指定するもの。
※16	アセットマネジメント	橋りょう・トンネル・舗装・上下水道施設・河川構造物・電力設備等の公共施設を資産ととらえ、その損傷・劣化等を将来にわたり把握することにより、最も費用対効果の高い維持管理を行う概念。
※17	ファシリティマネジメント(FM)	企業・団体等が組織活動のためファシリティ(経営資源)を総合的な判断のもと、最も有効に企画・運営・活用し組織の目的を達成する経営活動。Facility Managementを略してFMともいう。
※18	MICS事業	MICS:Ministries Intelligence Complete System 污水处理施設共同整備事業 生活排水処理に関する事業は、公共下水道、農業集落排水事業、合併浄化槽事業などにより実施されており、し尿汚泥や浄化槽汚泥も下水処理場で一括して共同処理する事業。
※19	ライド・トゥー・パーク	マイカーや電車、観光バス等で弘前公園を訪れようとする市民や観光客が、駅や土手町周辺の駐車スペースから、中心市街地を通して移動することの意味の造語。 これにより、中心市街地のにぎわいを図ろうとするもの。
※20	ユニバーサルデザイン	文化・言語・国籍・老若男女といった違いを問わずに利用することができる施設・製品等のデザインのこと。
※21	福祉除雪	高齢者や障害者など、自ら除雪を行うことが困難な世帯のために、地域住民の助けあいによるボランティア除雪などを行うもの。
※22	通学路スクラム除雪	除雪機械の貸し出しにより、町会やPTAなどが通学路(歩道)の除雪を行い、児童の交通安全を図るもの。
※23	都市計画マスタープラン	都市計画法に基づき、市の都市計画に関する基本的な方針を定めるもので、土地利用の規制・誘導、都市施設の整備など都市づくりの指針となるもの。
※24	やさしい日本語	災害が起きたときに、外国人が情報弱者にならないようにするために考え出された、簡単でわかりやすい日本語のこと。「Easy Japanese」ともいう。友人との待ち合わせ(時間や場所を決める)ができたり、自分の欲しいものを説明して買い物ができたりする程度の日本語能力があれば理解できる日本語のことで、おおむね、外国人のための日本語能力試験3級程度の2000語で作られている。
※25	PFI	Private－Finance－Initiative(プライベート・ファイナンス・イニシアチブ)の略。 公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術力を活用し、効率的かつ効果的に質の高いサービスの提供を行う手法。
※26	インフラ	インフラストラクチャー (Infrastructure) の略。 産業や生活の基盤として整備される施設(社会資本)のこと。
※27	指定管理者制度	多様化する住民ニーズに、より効率的・効果的に対応するため、体育施設や交流センターなど公の施設の管理に民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上を図るとともに、経費の節減等を図ることを目的とするもの。
※28	エコファーマー	「持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律」に基づき、土づくり技術、化学肥料使用低減技術、化学合成農薬使用低減技術を一体的に導入する計画を立て、県の認定を受けた農業者の愛称のこと。

No.	用語	解説
※29	エスコ事業	エスコとは、エネルギーサービスカンパニー (Energy Service Company)の略であり、施設内における省エネルギーに関する技術提案、改修指導、効果の検証、保守管理等のサービスを包括的に提供し、それまでの環境を損なうことなく省エネルギーを実現する事業。
※30	インハウスエスコ事業	インハウス(組織内)において、エスコの仕組みを用いて事業を展開する事業。
※31	放課後児童健全育成事業 (なかよし会)	放課後や土曜日、長期の学校休業日に共働きなどで家庭において適切な保護を受けられない小学校1年生から3年生の児童を、保護者に代わって児童館・児童センターのない小学校区ごとに児童を保護育成する事業。
※32	子育て支援センター	地域の子育てを応援するための事業を行う場所。専任の職員が常駐し、家庭で保育している保護者と子どもが自由に遊んだり交流することのできる場所の開放、子育てに関する相談や、情報の発信、講座などを行う。
※33	ひろば型子育て支援センター	常設のつどいのひろばを設け、地域の子育て支援機能の充実を図る取り組みを実施するもの。公共施設の空きスペース、商店街空き店舗、民家、アパート等において、子育てに関して意欲があり、子育てに関する知識・経験を有する者(保育士資格は必要ない)を2名以上配置し、週3日以上、1日5時間以上開設。
※34	児童館・児童センター	18歳未満の児童が遊びやスポーツを通じて友達の輪を広げ、明るく健やかな児童の育成と体力の増進を図ることを目的とした施設。
※35	学園都市ひろさき高等教育 機関コンソーシアム	高等教育機関のさらなる魅力と質の向上を高めるとともに、教育・文化・観光産業・医療の振興などの分野を通じて、地域の自立と発展に向け一層の貢献を図っていくことを目指し、市内の6高等教育機関の連携により平成19年10月22日に設立された組織。
※36	T・T(ティーム・ティーチング)	複数の教員が役割を分担し、協力しながら授業を行う指導方法のことで、これまでの1学級(教科)担任制では充分とは言えなかった、児童生徒一人ひとりの実態に応じた指導が行われる。
※37	ALT	外国語指導助手(ALT:Assistant Language Teacher)のこと。 外国語を母国語とする外国人を教育委員会から学校に派遣し、学校教員が行う中学校の英語の授業や小学校外国語活動等の授業を補助する。
※38	JET	日本人英語教師(JET:Japanese English Teacher)のこと。ここでは、日本人の英語活動支援員のことを指す。 教育委員会から小学校に派遣し、学級担任が行う小学校の外国語活動や国際理解教育等の授業を補助する。
※39	シーズ	商品等を開発するための技術、ノウハウ、アイデア、人材、設備などのこと。
※40	HPV	HPVとは、ヒトパピローマウイルスの略称。(子宮頸癌等の原因になるウイルス)
※41	介護相談員派遣等事業	市から派遣された介護相談員が特別養護老人ホームなどを訪問し、利用者やその家族から介護サービスに関する疑問や不満を聴き、サービス提供事業者との橋渡しをしながら、問題の改善や介護サービスの質の向上を図ることを目的とするもの。 介護相談員は、市が公募し、事業活動の実施にふさわしい人格と熱意を有する市民の中から市長が委嘱する。
※42	定住自立圏構想	地方圏において安心して暮らせる地域を形成するため、中心市と周辺市町村が相互に連携・協力しながら、生活に必要な生活機能を確保して魅力あふれる地域の形成を進めて人口の定住を促進するもの。
※43	中心市宣言	中心市が、連携する意思を有する周辺市町村の意向に配慮しつつ、地域全体の中心的な役割を担う意思等を公表すること。
※44	定住自立圏形成協定	中心市と周辺市町村が、1対1で連携する取り組みについて、それぞれの議会の議決を経て定める協定。

No.	用語	解説
※45	周辺市町村	中心市(人口が5万人程度以上で、昼間人口を夜間人口で除した数値が1以上の都市)と近接し、経済、社会、文化又は住民生活において密接な関係を有する市町村。
※46	定住自立圏共生ビジョン	定住自立圏形成協定の締結により形成された圏域全体における、将来像や連携して推進する具体的取組を記載したもので、取組の関係者等で構成する懇談会での検討を経て策定される。
※47	合併戦略プロジェクト	市町村合併にあたり策定した新市建設計画において、新市の一体性の確保と地域の均衡ある発展という観点から、特に重要なものとして掲げた事業のこと。
※48	財政調整基金	経済事情の著しい変動や災害等の緊急事態による財源不足に備えて積み立てをしている貯金のこと。
※49	実質公債費比率	借入金(地方債)の返済額等の大きさを指標化し、資金繰りの危険度を示す比率のこと。 18%以上になると地方債を発行する際に許可が必要になり、25%以上になると地方債の発行が制限され、財政健全化団体に指定される。
※50	能力評価	職員がその職務を遂行するにあたり発揮した能力並びに執務に関連して見られた職員の性格、適性等を把握した上で行われる勤務成績の評価のこと。
※51	業績評価	職員がその職務を遂行するにあたり挙げた目標に対する業績を把握した上で行われる勤務成績の評価のこと。
※52	エリア担当制度	市職員が通常の業務とは別に「地域の担当者」として、行政の立場から地域とのパイプ役となり、地域づくりについての助言や協力、広聴活動等により地域活動(町会活動)を支援する仕組みのこと。

**平成 25 年度
弘前市アクションプラン
自己評価報告書**

発行 平成 2 5 年 8 月
弘前市（経営戦略部行政経営課）
〒036-8551 青森県弘前市大字上白銀町 1-1
TEL 0172-35-1111 FAX 0172-35-7956
E-mail : gyoseikeiei@city.hirosaki.lg.jp
URL : <http://www.city.hirosaki.aomori.jp/>



弘前市